

米に関するマンスリーレポート

(平成30年3月号)



「すぐ分かる米政策改革！」米政策の見直しについて解説する動画を公開しています！
http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_seisaku_kaikaku.html

【本資料の目的】

本レポートは、米に関する価格動向や需給動向に係るデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

【利用上の注意】

1. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
2. 本レポートは、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得ます。

農林水産省

【業務用向けの米の販売実態について】

中食・外食等の業務用需要は、今後も堅調な需要が期待されます。

そうした中で、現状では、主食用米全体の需給は均衡している中、

- 産地においては、高価格帯中心の一般家庭用の米を生産する意向が強い
- 一方、買い手においては、3割を占める低価格帯中心の業務用などにも対応した米生産へのニーズがあり、ここにミスマッチが生じている状況です。

一般家庭用、業務用それぞれの需要に応じた生産・販売の取組を進める必要があり、それを行わない場合には、結局、国内主食用米需要全体の一層の減少につながります。

今般、産地での需要に応じた生産・販売の取組に資するよう、平成28年度に引き続き、業務用向けの販売実態を調査しました。

- 本調査にご協力いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。 -

※ 以下、期間について、28/29年は平成28年7月から平成29年6月までの1年間。

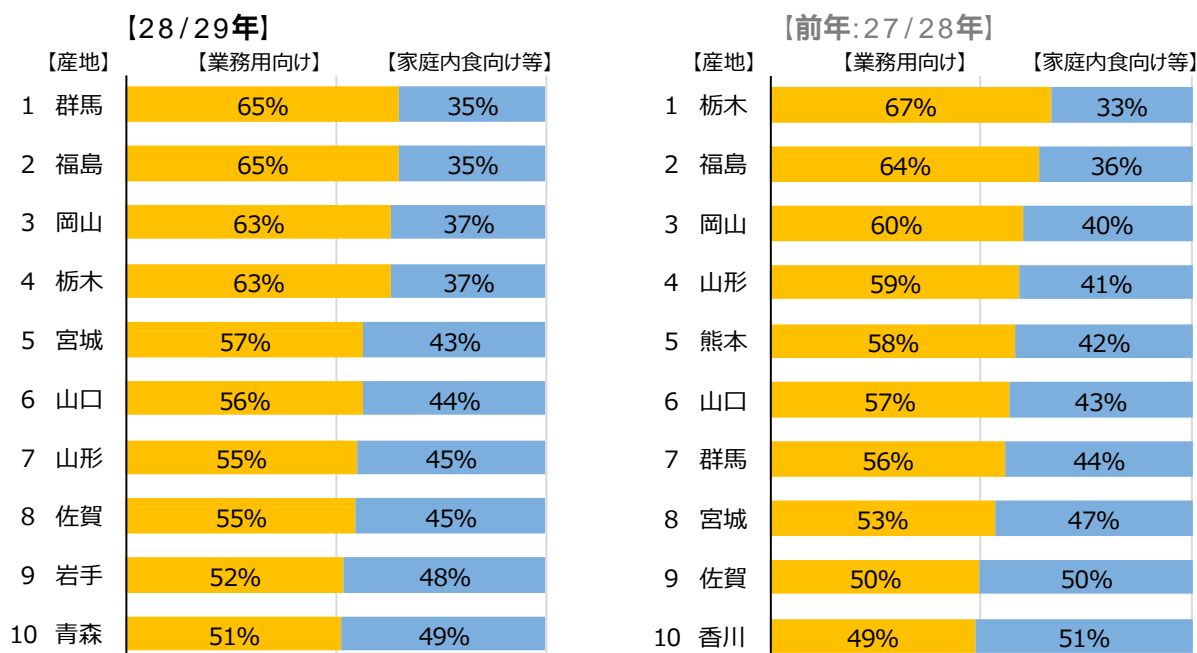
1 県産米に占める販売先割合（業務用向けの販売割合が高い上位10県）

- ・ 主食用米の需要が年々減少する中、業務用需要は堅調に推移しており、28/29年の業務用向け販売割合は、前年比+2%の39%となっている。
- ・ 各産地が需要に応じた生産・販売を進める上で、業務用需要の確保が重要となる中、群馬、福島、岡山、栃木では業務用向けの販売割合が6割超となっている。



注：家庭内食向け等とは、精米販売量全体から業務用向け販売量を差し引いたものである。

業務用向けの販売割合が高い上位10県



2 県産米に占める販売先割合（全体版・産地品種銘柄別内訳）

【28/29年】

産地	業務用向け（産地品種銘柄別内訳）					家庭内食 向け等
北海道	33%	ななつぼし 18%	きらら397 6%	ゆめぴりか 4%	その他 5%	67%
青森	51%	ましぐら 40%	つがるロマン 11%	その他 0%		49%
岩手	52%	ひとめぼれ 44%	あきたこまち 5%	いわてっこ 1%	その他 2%	48%
宮城	57%	ひとめぼれ 51%	ササニシキ 2%	つや姫 1%	その他 3%	43%
秋田	21%	あきたこまち 12%	ひとめぼれ 4%	めんこいな 2%	その他 2%	79%
山形	55%	はえぬき 46%	ひとめぼれ 4%	つや姫 1%	その他 5%	45%
福島	65%	コシヒカリ 44%	ひとめぼれ 16%	天のつば 2%	その他 2%	35%
茨城	45%	コシヒカリ 38%	あきたこまち 4%	ゆめひたち 0%	その他 2%	55%
栃木	63%	コシヒカリ 51%	あさひの夢 9%	なすひかり 2%	その他 2%	37%
群馬	65%	あさひの夢 50%	ゆめまつり 10%	その他 4%		35%
埼玉	50%	彩のかがやき 18%	コシヒカリ 16%	彩のきずな 6%	その他 10%	50%
千葉	29%	コシヒカリ 15%	ふさこがね 9%	ふさおとめ 3%	その他 2%	71%
新潟	19%	コシヒカリ 12%	こしいぶき 5%	その他 2%		81%
富山	32%	コシヒカリ 25%	てんたく 4%	その他 3%		68%
石川	41%	コシヒカリ 24%	ゆめみづほ 12%	その他 5%		59%
福井	26%	コシヒカリ 11%	ハナエチゼン 8%	その他 7%		74%
山梨	44%	コシヒカリ 38%	あさひの夢 1%	その他 4%		56%
長野	38%	コシヒカリ 32%	あきたこまち 5%	その他 1%		62%
岐阜	39%	ハツソモ 23%	コシヒカリ 5%	あきたこまち 0%	その他 10%	61%
静岡	10%	コシヒカリ 5%	あいちのかわり 1%	きぬむすめ 1%	その他 3%	90%
愛知	26%	あいちのかわり 20%	コシヒカリ 2%	大地の風 0%	その他 4%	74%
三重	23%	コシヒカリ 12%	キヌヒカリ 4%	その他 6%		77%

産地	業務用向け（産地品種銘柄別内訳）					家庭内食 向け等
滋賀	38%	日本晴 10%	キヌヒカリ 10%	コシヒカリ 7%	その他 10%	62%
京都	32%	キヌヒカリ 13%	コシヒカリ 12%	その他 6%		68%
大阪	32%	その他 32%				68%
兵庫	28%	コシヒカリ 12%	キヌヒカリ 11%	ヒノヒカリ 2%	その他 3%	72%
奈良	16%	ヒノヒカリ 14%	コシヒカリ 1%	その他 1%		84%
和歌山	39%	その他 39%				61%
鳥取	35%	ひとめぼれ 16%	きぬむすめ 11%	コシヒカリ 8%	その他 0%	65%
島根	31%	きぬむすめ 16%	コシヒカリ 8%	つや姫 6%	その他 1%	69%
岡山	63%	アケボノ 25%	ヒノヒカリ 5%	あきたこまち 2%	その他 32%	37%
広島	30%	コシヒカリ 7%	ヒノヒカリ 5%	あきろまん 2%	その他 16%	70%
山口	56%	ヒノヒカリ 15%	コシヒカリ 14%	ひとめぼれ 8%	その他 20%	44%
徳島	29%	コシヒカリ 16%	キヌヒカリ 12%	その他 1%		71%
香川	36%	ヒノヒカリ 26%	コシヒカリ 4%	その他 5%		64%
愛媛	22%	ヒノヒカリ 7%	あきたこまち 3%	コシヒカリ 3%	その他 9%	78%
高知	11%	コシヒカリ 9%	ヒノヒカリ 1%	その他 1%		89%
福岡	30%	ヒノヒカリ 20%	元気つくし 5%	夢つくし 2%	その他 3%	70%
佐賀	55%	ヒノヒカリ 21%	さがびより 18%	夢しずく 8%	その他 8%	45%
長崎	20%	にこまる 7%	ヒノヒカリ 5%	コシヒカリ 4%	その他 3%	80%
熊本	36%	ヒノヒカリ 12%	森のびまん 8%	コシヒカリ 4%	その他 11%	64%
大分	29%	ヒノヒカリ 22%	ひとめぼれ 3%	その他 4%		71%
宮崎	9%	ヒノヒカリ 5%	コシヒカリ 2%	その他 2%		91%
鹿児島	24%	ヒノヒカリ 13%	あきほなみ 7%	コシヒカリ 2%	その他 1%	76%

注1：業務用向けの販売先は、コンビニエンスストア、スーパー、弁当屋、給食事業者等の中食事業者及び牛丼、回転寿司等のファーストフード店、ファミリーレストラン、ホテル等宿泊施設等の外食事業者である。

注2：業務用向け販売量が、10ト未満であった東京、神奈川、沖縄は除いている。

3 業務用販売全体に占める産地品種銘柄別割合（上位20）

- 前年から大きな変化はなく、北海道、東北などの主産地の米が上位を占めている。
- 中でも、宮城ひとめぼれ、山形はえぬき、栃木コシヒカリの3銘柄は、前年に引き続き割合が高く、3銘柄の合計が販売量全体の2割超となっている。

【28/29年】

	産地	品種銘柄	割合
1	宮城	ひとめぼれ	8%
2	山形	はえぬき	7%
3	栃木	コシヒカリ	7%
4	北海道	ななつぼし	5%
5	岩手	ひとめぼれ	5%
6	福島	コシヒカリ	4%
7	茨城	コシヒカリ	4%
8	青森	まっしぐら	4%
9	秋田	あきたこまち	3%
10	新潟	コシヒカリ	2%
11	北海道	きらら397	2%
12	福島	ひとめぼれ	2%
13	富山	コシヒカリ	2%
14	長野	コシヒカリ	1%
15	北海道	ゆめぴりか	1%
16	栃木	あさひの夢	1%
17	石川	コシヒカリ	1%
18	千葉	コシヒカリ	1%
19	青森	つがるロマン	1%
20	新潟	こしいぶき	1%

【前年:27/28年】

	産地	品種銘柄	割合
1	山形	はえぬき	9%
2	宮城	ひとめぼれ	9%
3	栃木	コシヒカリ	7%
4	福島	コシヒカリ	5%
5	茨城	コシヒカリ	4%
6	北海道	ななつぼし	4%
7	青森	まっしぐら	4%
8	岩手	ひとめぼれ	4%
9	秋田	あきたこまち	3%
10	北海道	きらら397	2%
11	新潟	コシヒカリ	2%
12	栃木	あさひの夢	1%
13	富山	コシヒカリ	1%
14	長野	コシヒカリ	1%
15	福島	ひとめぼれ	1%
16	青森	つがるロマン	1%
17	千葉	ふさこがね	1%
18	秋田	ひとめぼれ	1%
19	石川	コシヒカリ	1%
20	千葉	コシヒカリ	1%

※ 割合は、各産地品種銘柄ごとの業務用向け販売量を、全国の業務用向け販売量で除したものである。

4 業務用向けの価格帯別販売量

- 業務用向けに販売された産地品種銘柄ごとに、28年産の相対取引価格（年産平均）を用いて、価格帯別の販売量をみると、14,000円/60kg未満の銘柄が約7割となっており、前年に引き続き、全銘柄平均価格以下の取引が大宗を占めている。

【28年産】

価格帯（60kg当たり、税込み）	割合
16,000円以上	5%
15,000円以上16,000円未満	3%
14,000円以上15,000円未満	22%
13,000円以上14,000円未満	68%
13,000円未満	2%

28年産
全銘柄平均価格
14,307円

【27年産】

価格帯（60kg当たり、税込み）	割合
15,000円以上	5%
14,000円以上15,000円未満	4%
13,000円以上14,000円未満	13%
12,000円以上13,000円未満	62%
12,000円未満	16%

27年産
全銘柄平均価格
13,175円

平成28年7月から平成29年6月までの1年間において、年間玄米取扱量4,000トン以上の販売事業者が、精米販売を行った数量（約330万トン）のうち、業務用向けに販売した数量について調査を実施。（対象業者225社 回収率99.6%）

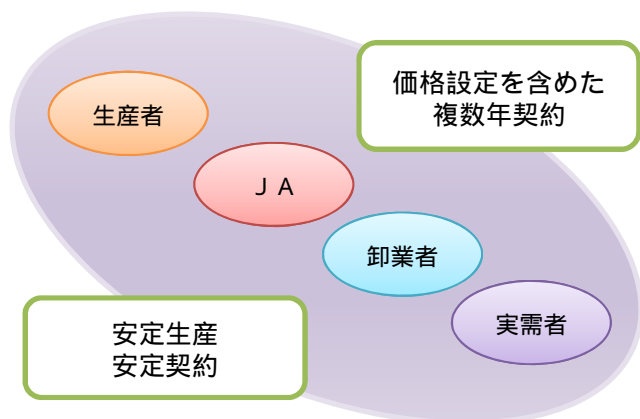
<当データを見る上での留意事項>

- ▶ 販売事業者が、業務用向けに精米販売した数量であり、小売店等に精米販売し、その後、業務用に仕向けられたものは含まれていない。
- ▶ 業務用向けの販売先は、コンビニエンスストア、スーパー、弁当屋、給食事業等の中食事業者及び牛丼、回転寿司等のファーストフード店、ファミリーレストラン、ホテル等宿泊施設等の外食事業者である。
- ▶ 業務用向けには、主に米卸売業者から供給されるが、家庭内食向けには、米卸売業者経由の他に農家直売や縁故米等からも供給されるため、米卸売業者からの供給量のみで作成した当データは、業務用向けの割合が高く出る傾向がある。

J Aが主体となった取組

A農協では、29年産米から、生産者、J A、卸売業者、実需者と、数量だけでなく取引価格等も含めた複数年契約に取り組んでいる。

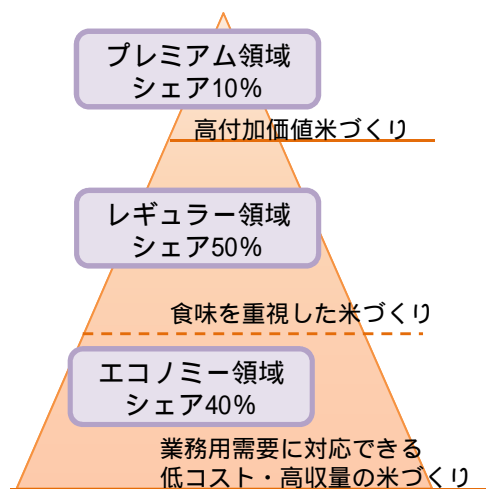
更に、契約期間を3年以上の長期契約とすることにより、生産者の経営安定を目指している。



自治体が主体となって新たな販売戦略を推進

B県では、29年度から5か年を期間として、県再生協議会や全農県本部、J A等との連携により、業務用需要や輸出への対応、産地ブランド力の強化、低コスト生産体制の整備等に取り組むこととしている。

また、販路拡大や安定取引の一環として、新たな販路開拓に向けたJ Aや農業法人等の取組を促すため、実需者と生産者等のマッチングも推進している。

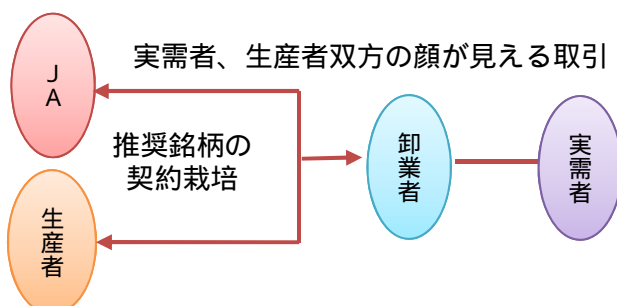


卸売業者と産地の契約栽培による安定取引の取組

C卸では10年前から、自社が奨励する多収性品種と良食味品種を、複数の産地のJ Aや大規模農業法人と契約栽培し、安定生産を推進している。

取引価格は、一定の範囲内で安定した価格で取引している。

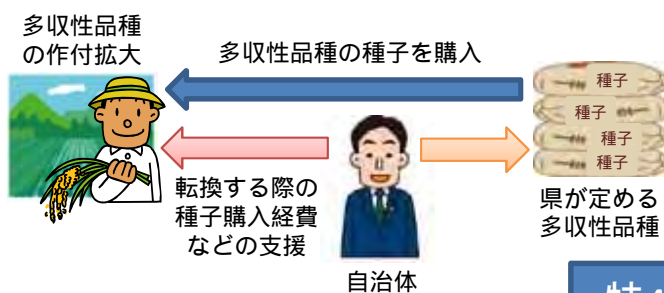
また、集荷した米は、特定の実需者へ販売しており、生産者にとって、実需者が見える生産であることも契約栽培のインセンティブとなっている。



自治体が業務用需要向け銘柄の生産拡大へ支援

D県では、地域における業務用需要等に応じた米の生産体制づくりを進めるため、多収穫・低コスト栽培の取組面積に応じた助成を行っている。

また、30年産の業務用向け銘柄の生産拡大に向けて、主力銘柄から県が定める多収性品種へ緊急的に転換する際の種子購入経費や、それに伴い生じる主力銘柄の余剰種子処理経費などを支援している。



今の特集

【30年産米等の第1回中間的取組状況（平成30年1月末現在）】

都道府県農業再生協議会及び地域農業再生協議会からの聞き取りに基づき、都道府県段階の作付動向（中間的取組状況）を取りまとめました。

各産地・生産者におかれては、今回の公表結果を参考にされ、需要に応じた生産・販売へ向けた取組をより一層進めていただくことが期待されます。

平成29年産実績と比較すると以下のとおりと見込まれています。

【各都道府県の主食用米の作付動向】 増加傾向 6県／前年並み傾向 36県／減少傾向 5県

	主食用米		戦略作物					
	29年産実績 (ha)	30年産の動向 (対前年実績)	飼料用米		加工用米		WCS	
			29年産実績 (ha)	30年産の動向 (対前年実績)	29年産実績 (ha)	30年産の動向 (対前年実績)	29年産実績 (ha)	30年産の動向 (対前年実績)
北海道	98,600	→	2,433	↘	5,279	→	500	→
青森	38,000	↗	6,418	↘	1,738	↘	656	↘
岩手	47,000	↗	4,676	→	1,485	→	1,645	→
宮城	63,500	→	6,228	↘	1,035	↗	2,147	↘
秋田	69,500	↗	2,865	↘	10,683	↘	1,245	↘
山形	56,400	→	3,916	→	4,018	→	885	→
福島	59,900	↗	5,839	↗	281	↗	1,122	↘
茨城	66,400	→	8,504	↘	1,403	→	609	↘
栃木	53,600	→	10,054	→	1,829	↘	1,710	→
群馬	13,900	→	1,541	↘	1,390	↘	556	↘
埼玉	30,700	→	2,264	↘	248	↗	119	→
千葉	53,300	↘	5,051	↗	1,479	→	1,123	↗
東京	141	→	-	-	-	-	-	-
神奈川	3,090	→	19	↘	-	-	-	-
新潟	100,300	→	4,178	→	6,989	↗	370	↗
富山	33,300	→	1,085	↗	1,515	↗	411	→
石川	23,200	→	726	↘	760	→	96	→
福井	23,300	→	1,295	↗	671	↗	122	→
山梨	4,880	→	18	↘	68	↗	11	↗
長野	31,300	→	319	→	825	→	252	→
岐阜	21,500	→	3,047	→	316	↗	225	→
静岡	15,600	→	1,180	→	107	→	404	↘
愛知	26,600	→	1,780	→	571	↗	203	→
三重	26,800	→	1,902	→	377	↘	239	↗
滋賀	30,000	→	998	→	1,277	→	261	→
京都	14,100	→	141	→	538	↗	108	↗
大阪	5,150	↘	7	→	-	-	-	-
兵庫	35,100	→	327	→	688	↘	775	↗
奈良	8,580	→	67	↘	-	↗	55	↘
和歌山	6,560	↘	4	→	-	-	2	→
鳥取	12,400	↗	1,087	↘	96	→	373	→
島根	17,200	→	1,133	↘	332	↘	507	↗
岡山	29,100	→	1,589	→	439	↗	421	→
広島	23,100	→	552	→	401	↘	541	↗
山口	19,300	↗	836	↗	996	↗	313	↘
徳島	11,300	→	729	↗	21	↗	220	→
香川	12,800	→	268	↘	46	→	103	↗
愛媛	13,900	→	365	↘	30	↗	145	↘
高知	11,500	↘	996	→	73	→	225	→
福岡	35,100	→	2,019	↗	379	↘	1,473	→
佐賀	24,400	→	569	↗	111	↗	1,237	↗
長崎	11,600	→	168	→	7	→	1,127	↗
熊本	32,200	→	1,402	↗	866	↘	7,629	↗
大分	20,900	→	1,521	↘	93	→	2,455	→
宮崎	15,000	→	528	→	1,244	↗	6,614	↘
鹿児島	19,600	↘	866	→	814	↗	3,657	↗
沖縄	727	→	-	-	-	-	-	-
全国計	137.0万 (138.7万) ※		91,510		51,517		42,893	

※29年産米の生産数量目標

(注1) 主食用米、戦略作物及び備蓄米の「30年産の動向(対前年実績)」は、29年産作付実績と比較し、「↗:増加傾向」、「→:前年並み傾向」、「↘:減少傾向」で分類。

(注2) 主食用米の「29年産実績(ha)」は、平成29年12月5日統計部公表の主食用作付面積。

平成29年産実績と比較すると以下のとおりと見込まれています。

【各都道府県の飼料用米等の作付動向】

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| (1) 飼料用米 | 増加傾向 9県／前年並み傾向 20県／減少傾向 16県 |
| (2) 加工用米 | 増加傾向 18県／前年並み傾向 14県／減少傾向 10県 |
| (3) WCS（稲発酵粗飼料） | 増加傾向 13県／前年並み傾向 19県／減少傾向 11県 |
| (4) 新市場開拓用米（輸出用米等） | 増加傾向 27県／前年並み傾向 7県／減少傾向 0県 |
| (5) 麦 | 増加傾向 13県／前年並み傾向 25県／減少傾向 7県 |
| (6) 大豆 | 増加傾向 11県／前年並み傾向 31県／減少傾向 3県 |
| (7) 備蓄米 | 増加傾向 0県／前年並み傾向 3県／減少傾向 29県 |
- (注) 「麦」「大豆」については、二毛作面積を含む

	戦略作物						備蓄米	
	新市場開拓用米（輸出用米等）		麦		大豆		29年産実績 (ha)	30年産の動向 (対前年実績)
	29年産実績 (ha)	30年産の動向 (対前年実績)	29年産実績 (ha)	30年産の動向 (対前年実績)	29年産実績 (ha)	30年産の動向 (対前年実績)		
北海道	22	↗	32,465	→	19,109	↘	-	-
青森	17	↗	797	→	4,532	↗	3,622	↘
岩手	113	↗	3,613	→	3,825	→	1,152	↘
宮城	17	↗	2,152	↗	10,731	→	1,722	↘
秋田	101	↗	338	↗	7,999	↗	6,362	↘
山形	116	↗	99	→	4,888	→	3,816	↘
福島	-	↗	198	↗	852	↗	3,818	↘
茨城	45	↗	4,925	↘	2,555	↘	162	↘
栃木	2	→	11,221	→	2,324	→	1,810	↘
群馬	0	→	6,792	↘	108	↗	5	↘
埼玉	0	↗	4,351	→	430	→	59	→
千葉	0	↗	552	→	573	→	256	→
東京	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	-	-	4	→	9	→	-	-
新潟	647	↗	254	↘	4,740	→	5,760	↘
富山	126	↗	3,450	→	4,756	→	2,528	↘
石川	9	↗	1,088	↘	1,242	→	1,277	↘
福井	9	↗	5,280	↘	1,712	↗	833	↘
山梨	-	-	50	↗	115	↗	-	-
長野	20	↗	2,393	→	1,512	→	161	↘
岐阜	0	↗	3,427	↗	2,801	→	76	↘
静岡	0	→	686	→	148	→	4	↘
愛知	17	↗	5,522	→	4,234	→	138	↘
三重	28	↗	6,646	→	4,403	↘	84	↘
滋賀	31	↗	7,716	→	6,490	→	277	↘
京都	-	↗	246	→	213	→	-	-
大阪	-	-	1	→	6	→	-	-
兵庫	7	↗	2,390	→	2,073	→	-	-
奈良	-	-	106	→	49	→	-	-
和歌山	-	-	1	→	16	→	-	-
鳥取	-	-	122	→	658	→	101	↘
島根	0	→	588	→	591	→	30	↘
岡山	0	↗	2,808	↗	1,310	→	403	↘
広島	1	→	244	↗	408	→	-	-
山口	-	↗	1,763	↗	842	↗	-	-
徳島	-	-	116	↘	26	→	243	↘
香川	0	→	2,498	↗	56	→	-	-
愛媛	0	→	1,909	→	324	↗	14	↘
高知	-	-	8	↘	71	→	2	→
福岡	0	↗	21,036	↗	8,337	↗	47	↘
佐賀	-	-	20,338	→	8,226	→	64	↘
長崎	-	-	995	↗	351	↗	10	↘
熊本	0	↗	6,247	↗	2,086	↗	74	↘
大分	-	-	4,453	→	1,515	→	33	↘
宮崎	-	↗	112	→	189	→	-	-
鹿児島	-	↗	111	↗	274	→	-	-
沖縄	-	-	-	-	-	-	-	-
全国計	1,328		170,110		117,710		34,943	

(注3) 飼料用米、加工用米、WCS、新市場開拓用米の「29年産実績(ha)」は、平成29年産新規需要米の取組計画認定面積。

麦・大豆の「29年産実績(ha)」は、平成29年度経営所得安定対策等の加入申請面積で、二毛作を含む。

(注4) 備蓄米の「29年産実績(ha)」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

目 次

特集 業務用向けの米の販売実態について
特集 30年産米等の第1回中間的取組状況（平成30年1月末現在）

I	米の需給・契約・販売	
1	米の基本指針（平成29年11月30日）	
(1)	米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針	1
(2)	平成29/30年の主食用米等の需給見通し	1
(3)	平成30/31年の主食用米等の需給見通し	2
2	米の契約・販売	
(1)	政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入札の結果	3
(2)	平成29年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、平成30年1月末現在）	4
(3)	産地別事前契約数量	8
II	米の在庫情報	
(1)	全国段階の民間在庫の推移（うるち米、平成23年7月末～平成30年1月末）（速報）	10
(2)	産地別民間在庫の状況（前年同月比）	12
(3)	平成28・29年産の産地別民間在庫の推移（うるち米、平成29年7月末から平成30年1月末）（速報）	13
III	米の価格情報	
1	相対取引価格・数量	
(1)	相対取引価格（年産別）	21
(2)	価格帯別分析結果（平成30年1月）	22
(3)	相対取引価格・数量（平成29年産米、産地品種銘柄別、平成30年1月分）	23
(4)	スポット価格の状況	26
2	米の先物取引価格の推移	27
3	米取引関係者の判断（米穀機構による調査、平成30年2月分）	28
IV	主食用米以外（輸出を含む）	
1	29年産米の作付状況	
(1)	29年産米の用途別作付面積及び生産量	30
(2)	主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）	30
(3)	新規需要米の用途別認定状況	30
2	加工用米及び新規需要米の取組状況概要	31
(1)	28米穀年度における加工原材料用米穀の使用状況（推計）	31
(2)	加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移	32
3	飼料用米の需要量	33
4	コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について	35
5	コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について	36
V	支援事業等	
(1)	水田活用の直接支払交付金	37
(2)	畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）	41
(3)	米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）	43
(4)	主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業	45
(5)	コメ海外市場拡大戦略プロジェクト	47
VI	消費動向	
(1)	米の消費動向（米穀機構による調査）	49
(2)	購入数量の推移（家計調査）	50
(3)	消費者物価指数の推移	51
(4)	小売物価統計の推移	52
(5)	小売価格の推移（POSデータ）	53
VII	MA米（一般・SBS）の動向	
(1)	MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	54
(2)	加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果（平成29年度）	55
(3)	SBS輸入米の見積合わせ結果（平成29年度）	55
VIII	その他	
(1)	水稻うるち玄米の農産物検査結果	56
(2)	平成29年産水稻の収穫量	57

I 米の需給・契約・販売

1 米の基本指針（平成29年11月30日公表）

- 平成29年11月30日に公表しました「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」のポイントについて、ご紹介します。

(1) 米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針

- 今回の米政策の見直しを踏まえ、「第1 米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針」に以下の記載を追加。

平成30年産以降は、平成29年6月9日に閣議決定された「未来投資戦略2017」を踏まえ、行政による都道府県別の生産数量目標等の配分は行わないこととし、国が策定する米穀の需給の見通し等の情報を踏まえつつ、生産者や集荷業者・団体が中心となって円滑に需要に応じた生産に取り組む。

(2) 平成29/30年の主食用米等の需給見通し

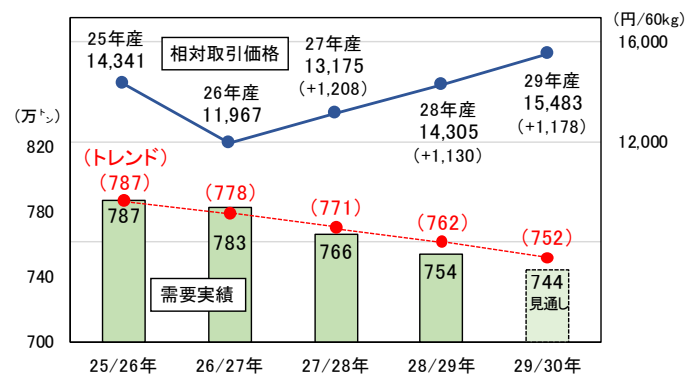
(単位: 万トン)

平成29年6月末民間在庫量	A	199 (確定値)
平成29年産主食用米等生産量	B	731 (10/15現在 予想収穫量)
平成29/30年主食用米等供給量計	C = A + B	930
平成29/30年主食用米等需要量	D	744
平成30年6月末民間在庫量	E = C - D	187

注：ラウンドの関係で内訳と計が一致しない場合がある。

相対取引価格が上昇傾向にあることから、需要量に及ぼす影響を踏まえ、トレンドにより算出した752万トンから8万トン低い744万トンと見通す。

(参考) 相対取引価格と需要実績の推移



(3) 平成30/31年の主食用米等の需給見通し

平成8/9年から平成29/30年までの需要実績等を用いて、トレンドで算出した742万トンと見通す。

注：平成30/31年の価格の状況については、現時点で見通すことが困難であるため、価格の変動が生じた場合の需要量への影響は見込んでいない。

(単位: 万トン)

平成30年6月末民間在庫量	A	187
平成30年産主食用米等生産量	B	735
平成30/31年主食用米等供給量計	$C = A + B$	922
平成30/31年主食用米等需要量	D	742
平成31年6月末民間在庫量	$E = C - D$	180

平成30年産米の生産量は、平成31年6月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準（180万トン）となるものとして、735万トンと設定。
 (735万トンは平成29年産米の生産数量目標と同水準)

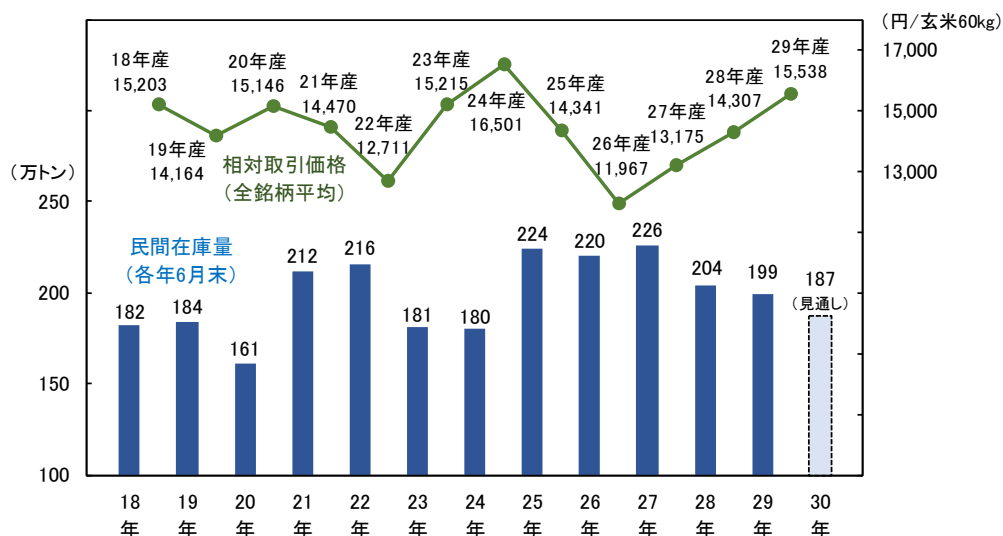
(参考) 6月末民間在庫量の推移

(単位: 万トン)

	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
在庫量	212	216	181	180	224	220	226	204	199

(参考) 相対取引価格と民間在庫量

- 相対取引価格は、その年々の需給状況により変動しているが、6月末における民間在庫量（生産、出荷、販売段階における在庫量）の水準もその要因の一つ。



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月（29年産は30年1月）までの通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

2 米の契約・販売

(1) 政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果

平成30年産

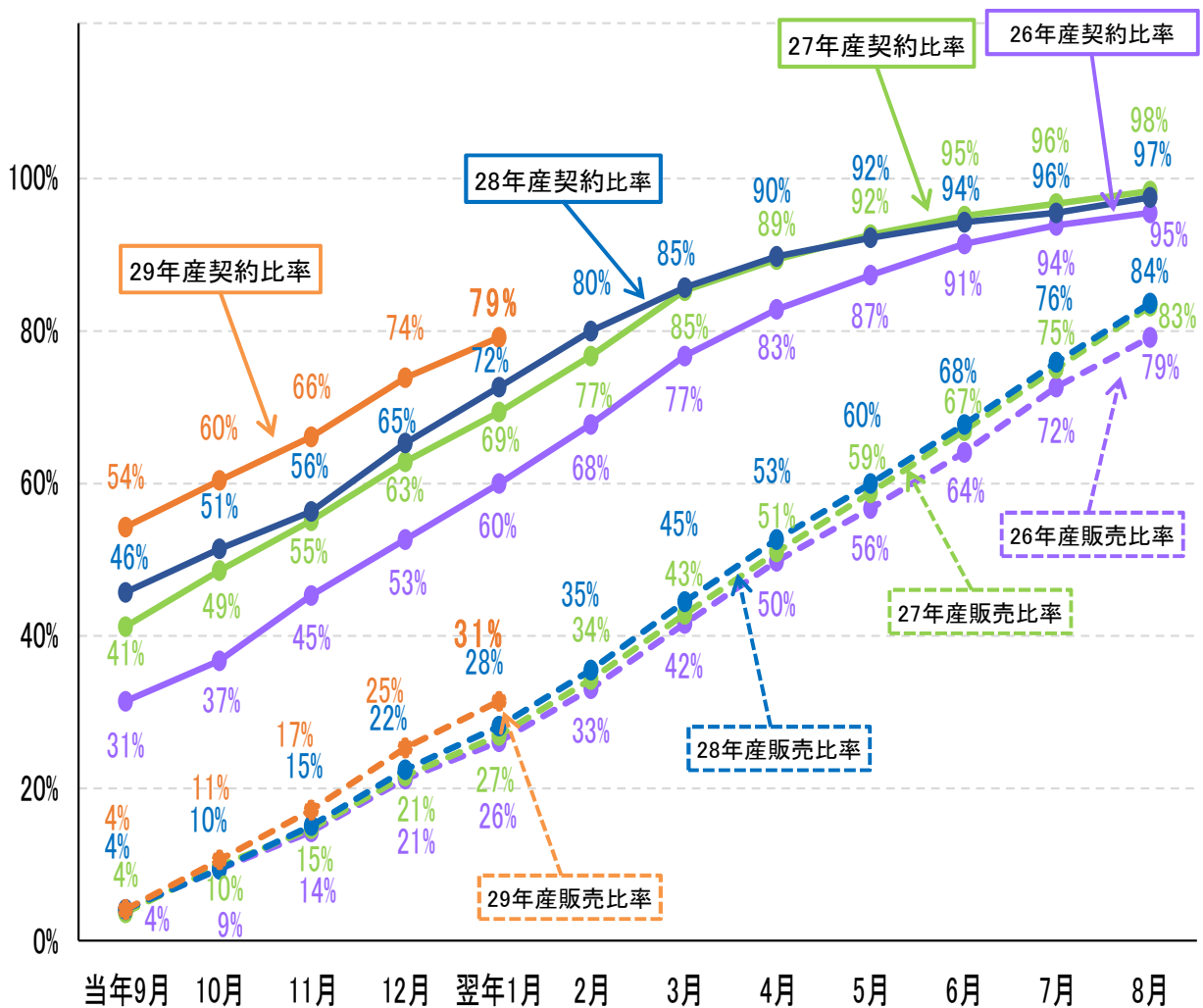
(単位：トン)

買入対象米穀 の産地	都道府県別 優先枠	買入入札の結果			落札合計数量
		第1回 平成30年1月25日 実施	第2回 平成30年2月13日 実施	第3回 平成30年2月27日 実施	
北海道					
青森	11,006	338	10,668		11,006
岩手	3,686	0	225		225
宮城	5,011	10	5,001		5,011
秋田	17,353	490	10,855		11,345
山形	11,140	0	11,140		11,140
福島	12,350	108	12,242		12,350
茨城	469	0	411		411
栃木	4,888	1,779	3,109		4,888
群馬	12	0	12		12
埼玉	191	0	191		191
千葉	688	0	587		587
東京都					
神奈川県					
新潟	15,947	52	12,881		12,933
富山	7,001	7,001	0		7,001
石川	3,255	40	3,215		3,255
福井	2,106	10	2,096		2,106
山梨					
長野	514	0	228		228
岐阜	224	0	224		224
静岡	13	0	0		0
愛知	385	0	385		385
三重	272	0	0		0
滋賀	735	0	735		735
京都					
大阪					
兵庫県					
奈良					
和歌山					
鳥取	345	0	345		345
島根	70	0	70		70
岡山	1,138	0	738		738
広島					
山口					
徳島	484	0	0		0
香川					
愛媛	40	0	0		0
高知	10	0	10		10
福岡	118	0	118		118
佐賀	211	0	211		211
長崎	22	0	0		0
熊本	212	0	0		0
大分	109	0	90		90
宮崎					
鹿児島					
沖縄					
都道府県別枠計	100,000	9,828	75,787		85,615
指定無し	100,000	5,687	21,949	2,462	30,098
合計	200,000	15,515	97,736	2,462	115,713

(2) 平成29年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、平成30年1月末現在）

- 平成30年1月末現在の平成29年産米の集荷数量は、273万トン。
- 契約数量は、前年同月と比較して▲7万トンの216万トン。契約比率は79%。
- 販売数量は、前年同月と比較して▲1万トンの86万トン。販売比率は31%。

契約・販売比率の推移(平成26～29年産)



注：平成26～28年産は、各月末時点の契約・販売数量を生産年の翌年10月末の集荷数量で除して算出した最終実績ベース。

平成29年産は、各月末時点の契約・販売数量を平成30年1月末の集荷数量で除して算出した直近ベースのため、今後、集荷数量の増加に伴い契約・販売比率に変動が生じる可能性がある。

集荷・契約・販売数量(北海道から千葉まで)

	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考:前年同月比 (27年産の同時期との比較)		
						集荷数量 (%)	契約数量 (%)	販売数量 (%)
北海道	347.8	277.6	80%	114.0	33%	+ 1%	▲ 6%	▲ 13%
ななつぼし	161.6	145.2	90%	53.6	33%	▲ 4%	▲ 1%	▲ 20%
ゆめびりか	88.1	56.4	64%	27.6	31%	+ 14%	▲ 13%	+ 8%
きらら397	36.4	33.6	92%	6.3	17%	+ 0%	+ 12%	▲ 10%
青森	128.5	92.0	72%	28.9	22%	▲ 7%	▲ 17%	▲ 13%
まっしぐら	81.0	55.6	69%	16.4	20%	▲ 10%	▲ 21%	▲ 15%
つがるロマン	36.6	26.4	72%	7.6	21%	▲ 7%	▲ 15%	▲ 19%
岩手	123.6	118.1	95%	29.0	23%	▲ 11%	+ 3%	▲ 2%
ひとめぼれ	95.8	94.5	99%	23.1	24%	▲ 14%	+ 3%	+ 5%
あきたこまち	16.6	13.8	83%	2.3	14%	▲ 10%	▲ 13%	▲ 53%
いわてっこ	2.5	2.0	80%	0.3	12%	▲ 26%	+ 1%	▲ 28%
宮城	137.4	134.5	98%	31.6	23%	▲ 17%	▲ 11%	▲ 6%
ひとめぼれ	109.0	114.0	105%	22.2	20%	▲ 19%	▲ 8%	▲ 11%
つや姫	11.5	8.3	72%	4.4	38%	▲ 2%	▲ 26%	▲ 3%
ササニシキ	8.4	6.4	77%	2.5	30%	▲ 18%	▲ 27%	▲ 4%
秋田	230.7	142.3	62%	66.8	29%	▲ 10%	+ 2%	▲ 11%
あきたこまち	187.4	120.5	64%	58.6	31%	▲ 9%	+ 0%	▲ 11%
めんこいな	8.8	3.4	39%	1.9	22%	▲ 19%	▲ 28%	▲ 16%
ひとめぼれ	20.2	13.3	66%	3.2	16%	▲ 15%	+ 57%	▲ 12%
山形	182.8	132.7	73%	44.5	24%	▲ 9%	+ 2%	▲ 11%
はえぬき	107.0	77.0	72%	20.5	19%	▲ 12%	+ 1%	▲ 18%
つや姫	37.0	29.6	80%	12.7	34%	+ 0%	+ 20%	+ 13%
ひとめぼれ	17.3	11.6	67%	5.9	34%	▲ 12%	▲ 1%	▲ 4%
福島	147.8	97.3	66%	23.3	16%	▲ 5%	+ 3%	+ 10%
コシヒカリ中通り	48.5	31.8	66%	10.5	22%	▲ 10%	+ 66%	+ 38%
コシヒカリ会津	41.2	34.0	83%	5.0	12%	▲ 7%	▲ 9%	+ 1%
コシヒカリ浜通り	8.9	4.2	47%	0.4	5%	+ 29%	▲ 34%	+ 1%
ひとめぼれ	27.6	16.7	61%	3.7	14%	▲ 11%	▲ 18%	▲ 4%
天のつぶ	11.0	4.8	43%	1.2	11%	+ 13%	+ 13%	▲ 27%
茨城	65.2	48.9	75%	26.9	41%	▲ 9%	▲ 22%	▲ 2%
コシヒカリ	50.2	37.6	75%	17.8	35%	▲ 12%	▲ 24%	▲ 6%
あきたこまち	8.9	7.9	88%	7.5	84%	+ 2%	▲ 20%	+ 8%
ゆめひたち	0.3	0.0	13%	0.0	13%	▲ 47%	▲ 85%	▲ 69%
栃木	121.9	80.1	66%	21.1	17%	▲ 14%	▲ 22%	▲ 12%
コシヒカリ	99.4	69.9	70%	17.3	17%	▲ 17%	▲ 18%	▲ 10%
あさひの夢	8.0	3.0	38%	1.0	13%	▲ 4%	▲ 57%	▲ 48%
なすひかり	7.3	3.0	41%	1.4	20%	+ 9%	▲ 40%	+ 18%
群馬	25.8	10.9	42%	3.7	14%	+ 19%	▲ 37%	▲ 2%
あさひの夢	17.4	7.4	42%	2.6	15%	+ 26%	▲ 35%	▲ 7%
ゆめまつり	5.8	1.6	27%	0.4	7%	+ 17%	▲ 63%	+ 0%
埼玉	20.4	16.8	83%	4.7	23%	▲ 8%	+ 6%	▲ 17%
彩のかがやき	9.8	8.3	85%	2.4	25%	▲ 9%	+ 13%	▲ 7%
コシヒカリ	6.2	5.3	85%	1.7	27%	▲ 10%	▲ 6%	▲ 21%
彩のきずな	3.1	2.8	90%	0.1	4%	+ 14%	+ 53%	▲ 66%
千葉	69.9	61.5	88%	38.7	55%	▲ 8%	▲ 10%	+ 6%
コシヒカリ	35.2	30.6	87%	18.4	52%	▲ 18%	▲ 20%	▲ 3%
ふさこがね	13.3	13.1	99%	7.5	56%	▲ 2%	+ 4%	+ 29%
ふさおとめ	16.9	14.1	84%	10.7	63%	+ 6%	▲ 1%	+ 11%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

4 契約数量は、報告対象業者が自ら販売するために契約を締結（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）した数量である。

5 販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。

6 銘柄ごとの集荷数量、契約数量、販売数量は、当該産地の内数として掲載している。

7 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

8 「-」は、集荷数量、契約数量、販売数量に該当がないものである。

9 「参考：前年同月比」で、現時点において29年産又は28年産に数量がなかった場合は、「…」としている。

集荷・契約・販売数量(東京から鳥取まで)

	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考:前年同月比 (27年産の同時期との比較)		
						集荷数量 (%)	契約数量 (%)	販売数量 (%)
東京	(千玄米ト)	(千玄米ト)		(千玄米ト)		(%)	(%)	(%)
神奈川	2.5	1.0	42%	1.0	42%	▲15%	▲5%	▲5%
山梨	6.1	1.8	30%	1.8	30%	▲2%	+0%	+0%
コシヒカリ	5.2	1.6	31%	1.6	31%	▲3%	+8%	+8%
あさひの夢	0.2	0.0	21%	0.0	21%	▲1%	▲25%	▲25%
長野	67.8	63.9	94%	17.2	25%	▲5%	+19%	+1%
コシヒカリ	53.4	50.9	95%	11.8	22%	▲6%	+22%	▲1%
あきたこまち	7.8	7.1	91%	2.3	29%	▲5%	+18%	+2%
静岡	6.5	2.8	42%	2.7	41%	▲31%	+17%	+15%
コシヒカリ	4.3	2.0	47%	2.0	46%	▲29%	+22%	+19%
きぬむすめ	0.7	0.3	36%	0.3	36%	▲43%	+5%	+5%
あいちのかおり	0.9	0.3	30%	0.3	30%	▲5%	+32%	+32%
新潟	252.1	217.5	86%	88.2	35%	▲10%	+2%	+7%
コシヒカリ一般	137.2	117.9	86%	43.3	32%	▲15%	+1%	+14%
コシヒカリ魚沼	29.3	23.7	81%	11.2	38%	+18%	+63%	+22%
コシヒカリ岩船	11.2	10.4	93%	3.9	35%	▲15%	▲8%	▲5%
コシヒカリ佐渡	13.5	12.4	91%	5.1	37%	▲14%	▲12%	▲11%
こしいぶき	37.3	32.3	87%	13.7	37%	▲13%	▲12%	▲5%
富山	89.8	66.3	74%	30.8	34%	▲18%	▲19%	+8%
コシヒカリ	72.6	55.6	77%	24.9	34%	▲20%	▲16%	+10%
てんたかく	7.3	5.5	76%	3.5	48%	▲23%	▲20%	+0%
石川	24.5	24.7	100%	5.2	21%	▲26%	▲9%	+14%
コシヒカリ	16.6	17.8	107%	3.3	20%	▲29%	▲7%	▲6%
ゆめみづほ	4.7	4.1	88%	0.5	12%	▲32%	▲32%	+13%
福井	66.4	60.3	91%	27.4	41%	+4%	▲4%	+22%
コシヒカリ	31.9	29.3	92%	11.4	36%	+3%	▲5%	+39%
ハナエチゼン	18.5	17.3	94%	10.7	58%	▲4%	▲9%	+9%
岐阜	24.8	20.5	83%	11.0	44%	▲9%	+17%	+30%
ハツシモ	11.9	9.4	78%	5.0	42%	+2%	+28%	+96%
コシヒカリ	7.1	5.9	83%	2.9	41%	▲19%	+29%	+31%
あきたこまち	2.0	1.6	82%	1.2	62%	▲5%	▲14%	▲19%
愛知	34.1	20.2	59%	10.6	31%	▲8%	▲32%	▲12%
あいちのかおり	18.0	9.5	53%	4.0	22%	▲2%	▲39%	▲16%
コシヒカリ	9.8	7.6	77%	4.0	41%	▲13%	▲23%	▲12%
大地の風	1.3	0.9	64%	0.7	51%	▲10%	▲17%	+46%
三重	28.1	23.1	82%	11.3	40%	▲10%	+19%	+18%
コシヒカリ一般	15.1	13.3	88%	6.6	44%	▲14%	+25%	+41%
コシヒカリ伊賀	6.8	4.5	67%	2.1	32%	+1%	+2%	▲10%
キヌヒカリ	2.2	1.4	63%	0.6	27%	▲15%	+45%	+18%
滋賀	52.1	61.8	119%	24.8	48%	▲13%	▲2%	+3%
コシヒカリ	20.1	23.8	119%	10.7	53%	▲12%	▲2%	+29%
キヌヒカリ	9.9	12.6	127%	4.6	46%	▲16%	▲4%	▲8%
日本晴	3.7	5.3	141%	1.0	26%	▲32%	▲18%	▲29%
京都	12.0	10.2	85%	4.7	39%	▲5%	▲5%	+4%
コシヒカリ	7.0	6.3	90%	2.7	38%	▲10%	▲11%	+0%
キヌヒカリ	2.6	2.8	108%	1.3	49%	▲8%	+13%	+4%
大阪	-	-	-	-	-
兵庫	37.4	33.3	89%	17.2	46%	▲14%	+41%	+4%
コシヒカリ	11.5	10.0	87%	5.0	43%	▲21%	+94%	+22%
ヒノヒカリ	4.4	2.7	61%	1.0	24%	▲3%	+85%	▲15%
キヌヒカリ	3.3	2.9	90%	1.3	40%	▲27%	+89%	▲1%
奈良	8.7	2.9	34%	2.9	34%	▲5%	▲68%	▲10%
ヒノヒカリ	6.8	2.0	29%	2.0	29%	▲6%	▲73%	▲19%
コシヒカリ	0.5	0.3	56%	0.3	56%	▲5%	▲47%	+23%
和歌山	1.5	0.6	38%	0.6	37%	▲25%	▲72%	▲9%
鳥取	21.0	17.4	83%	7.2	34%	▲4%	+23%	▲2%
コシヒカリ	7.7	6.6	85%	2.4	31%	+3%	+66%	+0%
きぬむすめ	7.3	5.6	77%	2.2	30%	+5%	+29%	+27%
ひとめぼれ	5.4	4.9	91%	2.4	45%	▲20%	▲11%	▲21%

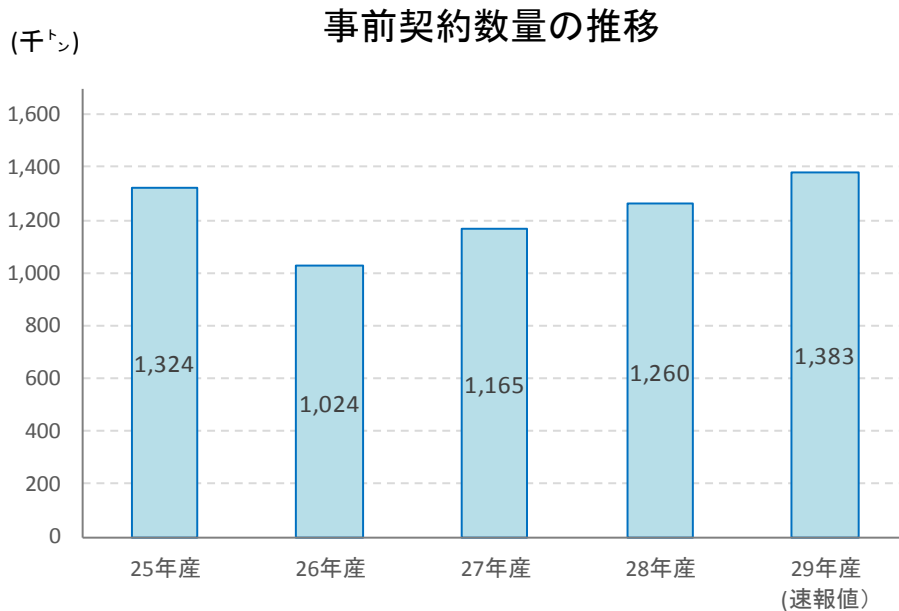
集荷・契約・販売数量(島根から沖縄まで、全国計)

	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考:前年同月比 (27年産の同時期との比較)		
						集荷数量 (%)	契約数量 (%)	販売数量 (%)
島 根	38.0	35.3	93%	12.9	34%	▲ 3%	+ 9%	+ 1%
コシヒカリ	17.7	17.0	96%	6.6	37%	▲ 9%	+ 13%	+ 4%
きぬむすめ	13.1	11.6	89%	3.3	25%	+ 5%	+ 2%	▲ 6%
つや姫	4.3	3.9	91%	1.5	36%	+ 7%	+ 9%	+ 10%
岡 山	21.9	17.9	82%	5.4	25%	+ 82%	+ 45%	+ 20%
アケボノ	5.3	4.5	84%	0.8	15%	+ 264%	+ 190%	+ 35%
あきたこまち	1.7	1.1	65%	0.5	33%	+ 43%	▲ 35%	▲ 12%
ヒノヒカリ	2.9	2.3	81%	0.4	16%	+ 97%	+ 66%	+ 46%
広 島	34.4	32.1	93%	11.7	34%	+ 3%	+ 5%	▲ 2%
コシヒカリ	15.2	14.3	94%	4.7	31%	▲ 4%	▲ 1%	+ 1%
あきろまん	3.8	3.1	83%	1.1	29%	+ 18%	▲ 10%	▲ 14%
ヒノヒカリ	1.2	1.2	98%	0.5	45%	▲ 52%	▲ 46%	+ 7%
山 口	32.6	25.8	79%	8.0	24%	+ 3%	+ 2%	▲ 2%
コシヒカリ	9.3	8.3	89%	2.6	28%	▲ 5%	+ 2%	+ 0%
ひとめぼれ	7.8	5.8	74%	2.3	30%	▲ 4%	+ 4%	▲ 7%
ヒノヒカリ	6.8	6.0	88%	1.4	21%	+ 6%	+ 5%	+ 3%
徳 島	5.3	2.8	53%	2.4	45%	▲ 13%	▲ 6%	▲ 7%
コシヒカリ	2.9	1.5	53%	1.4	49%	▲ 17%	▲ 18%	▲ 13%
キヌヒカリ	1.5	0.7	48%	0.7	47%	▲ 16%	+ 0%	+ 10%
香 川	22.3	14.1	63%	6.8	30%	▲ 12%	+ 9%	+ 4%
ヒノヒカリ	9.4	5.9	62%	1.9	21%	▲ 11%	+ 6%	▲ 13%
コシヒカリ	7.3	5.5	75%	2.8	39%	▲ 14%	+ 25%	+ 6%
愛 媛	11.4	6.0	53%	4.8	42%	▲ 1%	+ 38%	+ 14%
コシヒカリ	4.3	2.4	56%	2.0	46%	▲ 4%	+ 19%	+ 2%
ヒノヒカリ	2.2	0.9	42%	0.7	30%	+ 9%	+ 64%	+ 25%
あきたこまち	1.5	0.7	45%	0.6	42%	▲ 17%	+ 9%	+ 4%
高 知	6.9	5.9	86%	4.2	60%	+ 6%	+ 59%	+ 13%
コシヒカリ	5.7	4.7	83%	3.0	53%	+ 10%	+ 85%	+ 20%
ヒノヒカリ	0.2	0.2	94%	0.2	94%	▲ 36%	▲ 8%	▲ 7%
福 岡	52.9	43.4	82%	15.8	30%	+ 0%	+ 7%	+ 14%
夢つくし	16.7	13.9	84%	5.9	35%	▲ 2%	+ 18%	+ 7%
ヒノヒカリ	14.3	12.4	87%	4.3	30%	▲ 8%	▲ 13%	+ 48%
元氣つくし	18.8	15.4	82%	5.0	27%	+ 6%	+ 13%	+ 2%
佐 賀	39.6	31.8	80%	11.6	29%	▲ 2%	+ 1%	+ 3%
さがびより	11.2	11.2	100%	2.5	22%	▲ 3%	+ 3%	▲ 7%
夢しずく	12.8	8.8	69%	4.3	34%	+ 1%	▲ 1%	+ 17%
ヒノヒカリ	9.9	7.3	73%	1.9	19%	▲ 4%	▲ 1%	▲ 2%
長 崎	9.7	5.0	51%	3.2	34%	▲ 3%	+ 54%	+ 11%
ヒノヒカリ	3.2	1.4	44%	1.0	32%	▲ 1%	+ 46%	+ 17%
にこまる	3.5	1.8	51%	1.0	29%	+ 0%	+ 73%	+ 8%
コシヒカリ	1.5	1.0	68%	0.7	49%	▲ 12%	+ 57%	+ 14%
熊 本	33.7	21.9	65%	11.3	33%	▲ 7%	▲ 11%	+ 4%
ヒノヒカリ	13.5	7.7	57%	4.0	30%	▲ 12%	▲ 30%	▲ 2%
森のくまさん	6.3	4.9	77%	1.2	19%	▲ 11%	+ 10%	▲ 15%
コシヒカリ	6.4	5.4	84%	3.5	54%	+ 2%	+ 18%	+ 15%
大 分	13.1	10.9	84%	3.0	23%	▲ 7%	+ 24%	▲ 3%
ヒノヒカリ	9.5	7.5	79%	1.6	16%	▲ 6%	+ 15%	▲ 14%
ひとめぼれ	0.8	0.7	94%	0.2	32%	▲ 9%	+ 23%	▲ 2%
宮 崎	15.2	15.2	100%	12.4	81%	+ 2%	+ 2%	+ 7%
コシヒカリ	9.9	9.9	100%	9.9	100%	+ 6%	+ 6%	+ 6%
ヒノヒカリ	4.4	4.4	100%	1.7	39%	▲ 6%	▲ 6%	+ 7%
鹿 児 島	10.8	10.8	100%	8.6	80%	▲ 22%	▲ 22%	▲ 6%
ヒノヒカリ	3.8	3.8	100%	2.1	56%	▲ 40%	▲ 40%	▲ 21%
あきほなみ	1.1	1.1	100%	0.6	53%	▲ 54%	▲ 54%	▲ 58%
コシヒカリ	3.9	3.9	100%	3.9	100%	+ 15%	+ 15%	+ 15%
沖 縄	1.5	1.5	100%	1.5	97%	▲ 6%	▲ 6%	▲ 3%
全 国 ①	2,729	2,159	79%	859	31%	▲ 7%	▲ 3%	▲ 1%
参考	前年同月(28年産)②	2,938	2,230	76%	867			
	前年同月差(①-②)	▲ 209	▲ 71	3ポイント	▲ 8		+ 1ポイント	

(3) 産地別事前契約数量

- 事前契約数量は、3年続けて増加、平成29年産米では、前年産に比べ12万トン多い138万トンという水準。

〔 事前契約数量とは、複数年契約、は種前契約、収穫前契約といった米の収穫時期の前にあらかじめ契約されたもの。 〕



生産法人と業務用実需者との事前契約の取組事例

- 平成24年産米の価格上昇により、中食・外食事業者においては、弁当や寿司業界等のニーズに応じた値頃感のある米の確保が困難となっていたところ。
- こうした中、A県の農業生産法人では、品質（食味）、価格条件等の実需者のニーズに応じて品種を作り分けることにより、生産量の約8割を事前契約や複数年契約で安定的な取引を実現。
- 例えば、当該農業生産法人は、炊飯事業者との取引において、希望のあった品種を一定の数量、価格で事前契約を行っており、翌年産米の取引では、前年の10倍の数量契約を締結し、安定した品質の米を納入。現在まで契約数量の全てが納入済といった状況。価格は、生産コストや流通コスト等を踏まえた再生産可能な価格を基本に実需者と協議して決定。

農業生産法人

- 経営安定のため、事前契約率を高めたい。
- 販売先だけでなく、事前に価格が決まっているのは生産者にとってありがたい。
- 概ね年内中に引き取ってくれるので余計なコスト負担がない。

契約

双方がウィンウィンの取引に！

炊飯事業者

- 安定的な数量の確保。
- 食味の良さと品質のバラつきのないさを実感。
- 品種に応じて白飯や酢飯に使い分けている。
- 業務用といっても安ければいいということではなく、一定の価格で安定取引ができる。

産地別事前契約及び複数年契約の状況

(単位:千玄米ト)

産地	平成28年産					平成29年産(平成30年1月末現在)		
	集荷数量 ①	うち事前契約 ②	事前契約比率 ②/①	うち複数年契約 ③	複数年契約比率 ③/①	集荷数量 ④	うち事前契約 ⑤	事前契約比率 ⑤/④
北海道	358.7	169.6	47%	43.4	12%	347.8	183.1	53%
青森	140.6	45.1	32%	32.9	23%	128.5	55.2	43%
岩手	140.0	91.1	65%	84.7	61%	123.6	93.0	75%
宮城	181.0	112.0	62%	84.5	47%	137.4	124.2	90%
秋田	271.2	83.2	31%	57.4	21%	230.7	90.5	39%
山形	221.2	52.3	24%	1.5	1%	182.8	70.9	39%
福島	169.9	52.8	31%	27.0	16%	147.8	47.6	32%
茨城	77.7	27.6	36%	-	-	65.2	24.5	38%
栃木	141.6	60.3	43%	49.5	35%	121.9	66.3	54%
群馬	21.9	-	-	-	-	25.8	0.1	0%
埼玉	22.3	8.2	37%	-	-	20.4	8.2	40%
千葉	79.7	34.0	43%	2.2	3%	69.9	27.6	40%
東京	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2.9	-	-	-	-	2.5	-	-
山梨	6.3	-	-	-	-	6.1	-	-
長野	72.5	26.3	36%	23.7	33%	67.8	27.4	40%
静岡	7.2	-	-	-	-	6.5	2.5	38%
新潟	285.2	141.3	50%	87.4	31%	252.1	166.2	66%
富山	111.6	43.7	39%	-	-	89.8	46.1	51%
石川	33.9	20.1	59%	1.6	5%	24.5	23.9	97%
福井	65.2	6.8	10%	6.8	10%	66.4	6.8	10%
岐阜	27.5	12.0	44%	-	-	24.8	15.1	61%
愛知	37.3	15.1	40%	-	-	34.1	14.5	42%
三重	31.9	17.7	56%	-	-	28.1	19.9	71%
滋賀	65.6	46.8	71%	36.0	55%	52.1	49.0	94%
京都	14.4	8.0	55%	0.3	2%	12.0	8.0	67%
大阪	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	41.0	-	-	-	-	37.4	10.0	27%
奈良	9.2	-	-	-	-	8.7	-	-
和歌山	2.1	1.7	83%	-	-	1.5	-	-
鳥取	22.2	6.0	27%	-	-	21.0	5.4	26%
島根	39.4	31.9	81%	0.8	2%	38.0	35.0	92%
岡山	15.0	-	-	-	-	21.9	-	-
広島	33.7	26.6	79%	2.0	6%	34.4	27.3	79%
山口	32.0	24.3	76%	0.6	2%	32.6	24.4	75%
徳島	6.1	-	-	-	-	5.3	0.9	17%
香川	26.7	12.9	48%	-	-	22.3	14.1	63%
愛媛	12.6	-	-	-	-	11.4	0.9	8%
高知	6.5	1.1	18%	-	-	6.9	2.1	30%
福岡	55.7	30.3	54%	-	-	52.9	32.3	61%
佐賀	43.8	25.2	58%	-	-	39.6	26.4	67%
長崎	11.7	-	-	-	-	9.7	4.0	41%
熊本	38.3	16.0	42%	-	-	33.7	15.3	45%
大分	14.6	1.4	10%	-	-	13.1	5.5	42%
宮崎	16.3	8.4	51%	-	-	15.2	8.6	56%
鹿児島	14.9	-	-	-	-	10.8	-	-
沖縄	1.6	-	-	-	-	1.5	-	-
全国	3,076	1,260	41%	542	18%	2,729	1,383	51%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
 2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。
 3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。
 4 事前契約分とは、3の集荷数量のうち、は種前・収穫前契約及び複数年の契約による数量（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）である。
 5 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。
 6 「-」は、集荷数量や事前契約等に該当がないもの。

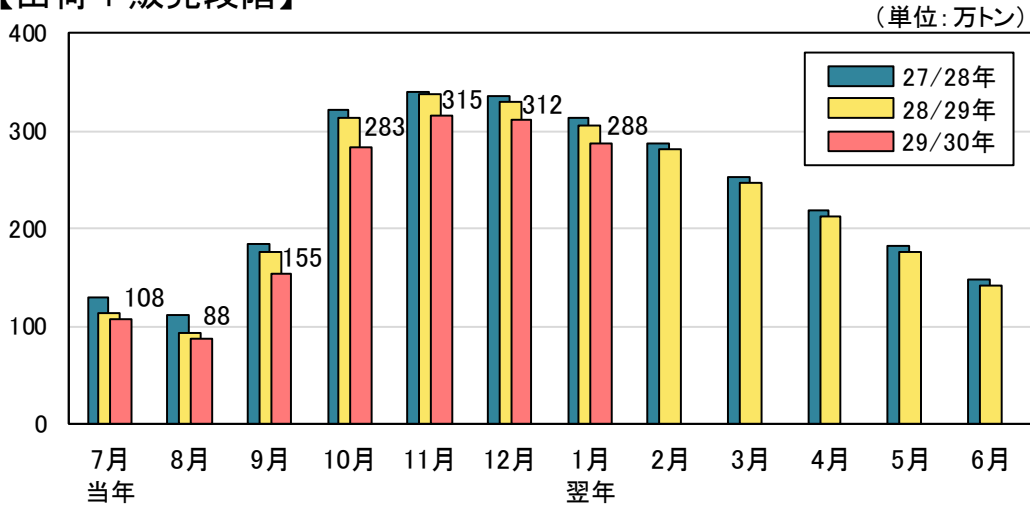
Ⅱ 米の在庫情報

(1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）

- 平成30年1月末の出荷及び販売段階における在庫は、対前年同月▲18万トンの288万トンとなっている。

※ 都道府県別在庫量は、13頁以降参照。

【出荷＋販売段階】



(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	83	55	134	298	327	320	291	259	224	185	147	113
対前年差	▲36	▲47	▲78	▲53	▲46	▲43	▲48	▲46	▲14	▲14	▲9	▲5
23年産米	0	8	106	273	304	300	275	246	214	177	141	108
1年古米(22年産)	69	37	19	13	11	8	6	5	2	2	1	1
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44
24年産米	0	16	135	306	331	331	307	279	252	219	182	150
1年古米(23年産)	73	41	26	20	15	9	7	5	4	3	2	2
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33
25年産米	1	19	145	310	337	345	320	297	264	236	205	175
1年古米(24年産)	114	82	59	47	43	32	25	22	17	13	10	8
26/27年	119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21
26年産米	0	14	131	285	316	323	306	283	255	220	188	155
1年古米(25年産)	106	78	55	45	37	28	23	19	15	13	11	9
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21
27年産米	0	13	112	261	289	297	282	262	233	201	168	135
1年古米(26年産)	119	90	66	52	43	32	25	19	15	12	11	8
28/29年	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141
対前年差	▲16	▲19	▲7	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲7	▲7
28年産米	1	14	122	267	299	299	284	264	233	201	167	135
1年古米(27年産)	104	72	48	38	30	22	16	12	9	7	5	4
29/30年	108	88	155	283	315	312	288					
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲30	▲22	▲17	▲18					
29年産米	1	15	104	241	282	288	270					
1年古米(28年産)	103	71	48	39	29	21	14					

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
 4 期間については、29/30年であれば、29年7月～30年6月である。
 5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。
 6 26年産米以降は、政府備蓄米を含まない。それ以前の年産は、政府による買入までの間の政府備蓄米を含む。
 7 米穀機構の25年産買入数量（35万トン）は、26/27年7月以降の在庫に含まれていない。

【出荷段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	62	39	112	260	286	275	252	222	185	150	117	86
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲50	▲43	▲45	▲49	▲46	▲16	▲15	▲11	▲6
23年産米	0	5	94	249	276	266	245	217	182	148	116	85
1年古米(22年産)	55	29	14	7	6	4	3	2	1	1	0	0
24/25年	56	41	136	287	305	295	275	247	213	183	151	121
対前年差	▲6	+2	+24	+26	+19	+20	+23	+25	+28	+33	+34	+35
24年産米	0	12	118	274	296	290	271	243	210	181	150	120
1年古米(23年産)	55	29	17	10	7	3	2	2	1	1	1	1
25/26年	90	77	173	309	332	331	306	282	244	217	188	159
対前年差	+34	+35	+37	+23	+27	+36	+31	+35	+31	+34	+37	+38
25年産米	1	16	132	285	310	316	294	271	236	210	183	155
1年古米(24年産)	89	61	40	21	19	13	10	8	6	5	4	3
26/27年	93	78	165	293	316	313	295	270	234	199	170	139
対前年差	+2	+2	▲8	▲16	▲17	▲18	▲11	▲12	▲10	▲18	▲18	▲20
26年産米	0	12	119	261	289	293	280	257	225	192	165	134
1年古米(25年産)	89	64	44	29	22	16	13	10	7	5	4	4
27/28年	105	89	157	278	296	292	273	249	210	178	149	117
対前年差	+12	+11	▲8	▲15	▲20	▲21	▲22	▲22	▲24	▲21	▲22	▲21
27年産米	0	11	100	237	262	267	254	234	202	171	143	112
1年古米(26年産)	101	76	55	39	32	23	18	14	8	6	5	4
28/29年	89	70	145	261	284	276	260	236	201	170	142	112
対前年差	▲16	▲20	▲12	▲17	▲11	▲16	▲13	▲12	▲9	▲7	▲7	▲5
28年産米	1	11	108	239	268	265	252	230	197	167	139	111
1年古米(27年産)	84	56	35	19	14	9	6	5	3	2	2	1
29/30年	84	66	124	231	262	258	239					
対前年差	▲4	▲4	▲21	▲30	▲23	▲18	▲21					
29年産米	0	11	89	211	247	249	233					
1年古米(28年産)	83	54	34	19	13	9	6					

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

【販売段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	21	16	22	37	40	45	40	37	39	35	30	27
対前年差	+2	▲1	▲3	▲3	▲3	+2	+2	+1	+2	±0	+2	+1
23年産米	0	3	13	24	28	34	30	29	32	30	25	23
1年古米(22年産)	14	9	5	6	5	4	3	2	2	1	1	1
24/25年	22	21	30	50	52	56	49	46	51	46	39	36
対前年差	+1	+5	+8	+13	+11	+11	+9	+9	+12	+10	+8	+9
24年産米	0	4	17	32	35	41	37	36	42	38	32	31
1年古米(23年産)	18	13	8	10	8	6	5	3	3	2	2	1
25/26年	30	28	37	59	60	58	51	47	47	41	35	31
対前年差	+8	+7	+6	+9	+9	+3	+2	+1	▲4	▲4	▲4	▲5
25年産米	0	3	13	25	27	29	27	25	28	26	21	20
1年古米(24年産)	25	21	19	26	24	19	16	13	10	8	6	5
26/27年	27	24	32	51	52	52	47	44	46	44	37	30
対前年差	▲3	▲3	▲4	▲8	▲8	▲6	▲4	▲4	▲1	+3	+3	▲1
26年産米	0	3	13	24	26	30	27	26	29	29	24	21
1年古米(25年産)	17	14	11	16	15	12	10	8	8	8	7	5
27/28年	25	23	27	43	45	45	41	39	44	40	35	30
対前年差	▲2	▲2	▲5	▲8	▲7	▲7	▲7	▲5	▲2	▲4	▲3	±0
27年産米	0	2	11	24	27	29	27	28	32	30	25	23
1年古米(26年産)	17	14	10	13	12	9	7	5	7	6	6	4
28/29年	25	24	32	53	53	53	46	45	47	42	35	29
対前年差	+1	+1	+5	+10	+8	+8	+5	+7	+3	+2	±0	▲2
28年産米	0	3	14	28	31	35	31	33	37	34	28	25
1年古米(27年産)	19	16	13	20	17	13	9	7	6	4	3	3
29/30年	23	22	31	52	54	54	48					
対前年差	▲2	▲1	▲1	±0	±0	+1	+3					
29年産米	0	4	15	30	35	39	37					
1年古米(28年産)	20	16	13	20	16	12	8					

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

(2) 産地別民間在庫の状況（前年同月比）

平成29年産(30年1月末)

【出荷＋販売段階】

(単位:千トン)

産地	29年産 (H30.1末)	28年産 (H29.1末)	前年 同月比	産地	29年産 (H30.1末)	28年産 (H29.1末)	前年 同月比
北海道	313.1	282.6	111%	滋賀	44.0	54.0	81%
青森	135.3	133.6	101%	京都	12.0	7.1	170%
岩手	111.6	124.0	90%	大阪	2.2	2.4	94%
宮城	145.4	165.3	88%	兵庫	32.7	42.5	77%
秋田	213.7	227.7	94%	奈良	6.8	6.8	101%
山形	174.5	185.7	94%	和歌山	1.7	2.2	76%
福島	177.0	182.6	97%	鳥取	28.3	25.4	111%
茨城	106.7	105.2	101%	島根	27.1	28.2	96%
栃木	128.6	139.4	92%	岡山	42.4	37.3	114%
群馬	31.8	25.8	123%	広島	31.9	32.2	99%
埼玉	28.9	26.6	109%	山口	28.8	27.3	105%
千葉	85.8	84.5	101%	徳島	9.5	8.4	113%
東京	0.0	0.0	-	香川	16.3	19.7	83%
神奈川	1.7	2.0	82%	愛媛	11.2	11.3	99%
新潟	218.0	255.6	85%	高知	8.7	8.5	102%
富山	74.4	94.9	78%	福岡	60.7	61.3	99%
石川	47.2	55.6	85%	佐賀	31.9	32.3	99%
福井	54.4	54.4	100%	長崎	8.0	9.7	83%
山梨	4.8	4.9	99%	熊本	39.8	44.6	89%
長野	61.8	65.5	94%	大分	17.5	18.5	95%
岐阜	17.4	22.0	79%	宮崎	12.0	12.8	94%
静岡	11.9	16.2	73%	鹿児島	14.2	17.6	81%
愛知	33.3	33.5	99%	沖縄	0.0	0.1	-
三重	29.8	37.5	80%	全国計	2,698	2,836	95%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

注2：出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)である。

注3：販売段階は、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。

(3) 平成28・29年産の産地別民間在庫の推移（うるち米）（速報）

(北海道から秋田) (単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	
北海道	出荷+販売段階	96.9	66.1	95.1	287.7	357.3	343.7	324.0						
	29年産米			54.1	256.8	334.6	328.3	313.1						
	1年古米(28年産)	95.3	64.9	40.2	30.4	22.4	15.1	10.8						
	出荷段階	70.6	45.9	72.6	221.9	290.1	272.3	258.5						
	29年産米			45.9	206.6	280.0	266.3	254.7						
	1年古米(28年産)	70.3	45.7	26.7	15.3	10.1	6.0	3.8						
	販売段階	26.3	20.2	22.4	65.8	67.2	71.4	65.5						
	29年産米			8.2	50.2	54.6	62.0	58.4						
	1年古米(28年産)	25.0	19.2	13.5	15.2	12.3	9.1	7.0						
	青森	出荷+販売段階	58.3	44.5	44.9	126.2	146.0	155.6	144.8					
		29年産米			13.1	102.6	129.2	143.5	135.3					
		1年古米(28年産)	57.0	43.5	31.0	22.9	16.3	11.7	9.2					
出荷段階		45.1	32.6	33.9	103.8	121.9	131.8	123.4						
29年産米				12.8	93.7	116.5	128.2	120.7						
1年古米(28年産)		45.0	32.6	21.0	10.1	5.4	3.6	2.7						
販売段階		13.2	11.9	11.0	22.4	24.1	23.7	21.4						
29年産米				0.2	8.9	12.8	15.3	14.6						
1年古米(28年産)		12.0	10.9	9.9	12.9	10.8	8.1	6.5						
岩手		出荷+販売段階	51.3	36.8	25.6	97.0	119.6	127.7	119.3					
		29年産米			1.2	71.5	99.9	115.2	111.6					
		1年古米(28年産)	50.2	36.0	23.8	25.0	19.4	12.2	7.5					
	出荷段階	44.5	30.6	20.2	78.8	100.6	109.8	105.6						
	29年産米			0.9	66.4	91.6	104.5	102.2						
	1年古米(28年産)	44.3	30.5	19.1	12.3	9.0	5.4	3.4						
	販売段階	6.7	6.2	5.4	18.2	19.0	17.8	13.7						
	29年産米			0.2	5.1	8.2	10.7	9.5						
	1年古米(28年産)	6.0	5.5	4.7	12.7	10.4	6.9	4.1						
	宮城	出荷+販売段階	80.2	58.9	54.8	150.3	153.0	160.5	155.7					
		29年産米			15.2	117.1	130.3	145.3	145.4					
		1年古米(28年産)	78.8	57.7	38.7	32.6	22.4	14.8	10.0					
出荷段階		69.4	49.3	46.2	129.5	130.2	136.6	136.2						
29年産米				14.4	109.4	118.1	129.5	131.5						
1年古米(28年産)		69.1	49.0	31.7	20.0	12.2	7.1	4.8						
販売段階		10.7	9.6	8.6	20.7	22.8	23.9	19.5						
29年産米				0.8	7.7	12.2	15.8	13.9						
1年古米(28年産)		9.7	8.7	7.0	12.5	10.2	7.8	5.2						
秋田		出荷+販売段階	73.7	46.1	63.7	237.6	248.2	243.4	226.0					
		29年産米			38.8	216.8	230.5	228.3	213.7					
		1年古米(28年産)	69.4	42.9	22.6	19.0	16.4	13.9	10.9					
	出荷段階	57.4	34.0	52.0	215.4	223.5	213.5	198.4						
	29年産米			36.0	205.6	215.6	207.4	193.5						
	1年古米(28年産)	55.2	32.4	14.8	8.8	7.1	5.6	4.8						
	販売段階	16.3	12.1	11.7	22.2	24.7	29.8	27.6						
	29年産米			2.8	11.2	14.9	20.9	20.2						
	1年古米(28年産)	14.3	10.6	7.8	10.2	9.2	8.4	6.1						

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
 4 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、28年産米と1年古米（27年産）の合計と一致しない場合がある。

(山形から埼玉)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
山形	出荷+販売段階	82.4	63.1	60.0	174.1	198.4	208.9	188.3					
	29年産米			12.0	141.0	172.7	187.2	174.5					
	1年古米(28年産)	79.1	60.6	45.8	31.5	24.7	21.0	13.4					
	出荷段階	71.4	52.1	49.5	155.8	178.5	185.0	168.4					
	29年産米			11.8	134.0	162.5	173.7	161.7					
	1年古米(28年産)	70.4	51.4	37.0	21.2	15.8	11.1	6.5					
	販売段階	10.9	11.0	10.5	18.3	19.9	23.9	20.0					
	29年産米			0.3	7.0	10.2	13.5	12.8					
	1年古米(28年産)	8.7	9.2	8.8	10.3	9.0	10.0	6.9					
福島	出荷+販売段階	82.4	57.3	47.2	179.0	209.2	205.0	186.9					
	29年産米			7.3	130.7	172.1	184.0	177.0					
	1年古米(28年産)	80.7	56.0	39.0	47.7	36.6	20.6	9.6					
	出荷段階	65.2	43.1	35.7	139.0	165.2	166.2	153.9					
	29年産米			6.6	117.3	149.5	158.3	150.7					
	1年古米(28年産)	64.7	42.7	28.8	21.6	15.7	7.9	3.2					
	販売段階	17.2	14.2	11.6	40.1	43.9	38.8	33.0					
	29年産米			0.7	13.5	22.6	25.8	26.3					
	1年古米(28年産)	16.0	13.3	10.2	26.1	20.9	12.7	6.5					
茨城	出荷+販売段階	29.0	36.7	115.6	129.0	122.1	115.7	110.4					
	29年産米		20.8	105.2	121.7	116.4	111.0	106.7					
	1年古米(28年産)	28.7	15.6	10.2	7.2	5.5	4.5	3.6					
	出荷段階	16.2	20.2	76.4	86.3	82.4	78.3	73.5					
	29年産米		13.4	73.8	84.7	81.0	77.2	72.6					
	1年古米(28年産)	16.1	6.8	2.6	1.6	1.3	1.1	0.8					
	販売段階	12.9	16.5	39.3	42.7	39.7	37.4	36.9					
	29年産米		7.4	31.4	37.0	35.4	33.8	34.1					
	1年古米(28年産)	12.6	8.8	7.7	5.6	4.2	3.4	2.7					
栃木	出荷+販売段階	66.1	48.0	104.6	142.1	151.7	150.6	138.8					
	29年産米			70.1	107.9	129.8	136.5	128.6					
	1年古米(28年産)	61.8	45.0	32.6	33.2	21.3	13.7	9.8					
	出荷段階	49.7	34.9	88.1	109.5	123.2	124.6	117.5					
	29年産米			63.8	95.6	115.2	119.7	114.0					
	1年古米(28年産)	48.2	34.0	23.7	13.7	7.9	4.9	3.5					
	販売段階	16.4	13.1	16.5	32.6	28.5	26.0	21.3					
	29年産米			6.2	12.4	14.5	16.8	14.6					
	1年古米(28年産)	13.5	11.0	8.8	19.4	13.4	8.8	6.3					
群馬	出荷+販売段階	8.7	5.9	4.3	5.3	17.1	30.0	32.4					
	29年産米			0.6	3.4	15.8	29.1	31.8					
	1年古米(28年産)	8.3	5.7	3.7	1.9	1.3	0.8	0.6					
	出荷段階	6.5	3.9	2.7	3.3	14.3	27.0	29.8					
	29年産米			0.5	3.1	14.2	27.0	29.8					
	1年古米(28年産)	6.5	3.9	2.2	0.2	0.1							
	販売段階	2.2	2.0	1.6	2.0	2.8	3.0	2.6					
	29年産米			0.1	0.3	1.6	2.1	1.9					
	1年古米(28年産)	1.8	1.8	1.5	1.7	1.2	0.8	0.6					
埼玉	出荷+販売段階	13.0	10.7	18.3	26.7	32.0	33.6	31.3					
	29年産米		1.1	8.6	20.4	27.9	30.7	28.9					
	1年古米(28年産)	12.9	9.5	9.7	6.2	4.1	3.0	2.3					
	出荷段階	8.5	6.6	11.0	19.5	24.0	25.8	24.3					
	29年産米		0.7	7.1	17.0	22.4	24.7	23.4					
	1年古米(28年産)	8.5	5.9	4.0	2.5	1.6	1.1	0.8					
	販売段階	4.5	4.1	7.3	7.1	8.1	7.8	7.0					
	29年産米		0.4	1.6	3.4	5.6	5.9	5.5					
	1年古米(28年産)	4.4	3.6	5.7	3.7	2.5	1.9	1.5					

(千葉から静岡)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
千葉	出荷+販売段階	16.5	60.3	116.6	108.8	99.8	90.0	87.0					
	29年産米		52.5	111.6	105.5	97.3	88.3	85.8					
	1年古米(28年産)	16.4	7.7	5.0	3.3	2.5	1.7	1.2					
	出荷段階	10.6	48.9	94.7	86.8	79.8	67.8	61.9					
	29年産米		46.5	93.7	86.1	79.4	67.6	61.8					
	1年古米(28年産)	10.6	2.4	1.1	0.7	0.5	0.3	0.1					
	販売段階	5.9	11.4	21.9	22.0	20.0	22.2	25.1					
	29年産米		6.0	17.9	19.4	17.9	20.7	23.9					
	1年古米(28年産)	5.8	5.3	3.9	2.6	2.0	1.5	1.1					
東京	出荷+販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
	出荷段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
	販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
神奈川	出荷+販売段階	0.5	0.4	0.6	2.2	2.4	2.0	1.7					
	29年産米			0.3	2.2	2.3	2.0	1.7					
	1年古米(28年産)	0.5	0.4	0.3	0.1								
	出荷段階	0.5	0.4	0.6	2.2	2.3	1.9	1.7					
	29年産米			0.3	2.2	2.3	1.9	1.7					
	1年古米(28年産)	0.5	0.4	0.3									
	販売段階				0.1		0.1						
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
山梨	出荷+販売段階	1.7	1.0	1.6	3.8	4.2	5.4	5.0					
	29年産米			1.1	3.5	4.0	5.3	4.8					
	1年古米(28年産)	1.7	1.0	0.5	0.2	0.2	0.1	0.1					
	出荷段階	1.4	0.8	1.4	3.4	3.6	4.7	4.4					
	29年産米			1.1	3.3	3.5	4.7	4.3					
	1年古米(28年産)	1.3	0.8	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1					
	販売段階	0.4	0.3	0.2	0.4	0.6	0.7	0.6					
	29年産米				0.3	0.5	0.6	0.5					
	1年古米(28年産)	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1					
長野	出荷+販売段階	24.8	17.8	28.7	60.9	77.0	72.0	63.7					
	29年産米			16.8	50.5	69.9	67.6	61.8					
	1年古米(28年産)	24.7	17.8	11.9	10.4	7.1	4.4	1.8					
	出荷段階	21.6	15.0	26.0	54.2	69.9	63.6	57.6					
	29年産米			16.2	48.0	65.8	61.8	57.1					
	1年古米(28年産)	21.6	15.0	9.8	6.2	4.1	1.9	0.5					
	販売段階	3.3	2.9	2.7	6.6	7.1	8.3	6.1					
	29年産米			0.7	2.4	4.1	5.8	4.8					
	1年古米(28年産)	3.1	2.8	2.0	4.2	3.1	2.5	1.3					
静岡	出荷+販売段階	2.9	6.0	15.2	16.9	17.5	15.9	12.1					
	29年産米		4.3	14.2	16.5	17.2	15.6	11.9					
	1年古米(28年産)	2.8	1.6	0.9	0.3	0.3	0.2	0.1					
	出荷段階	2.1	3.9	9.9	11.3	12.5	11.5	8.3					
	29年産米		2.5	9.2	11.3	12.5	11.5	8.3					
	1年古米(28年産)	2.1	1.3	0.7									
	販売段階	0.8	2.1	5.4	5.6	5.1	4.3	3.8					
	29年産米		1.7	5.1	5.2	4.7	4.1	3.6					
	1年古米(28年産)	0.7	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.1					

(新潟から愛知)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
新潟	出荷+販売段階	93.9	60.8	200.2	306.6	297.9	265.7	238.8					
	29年産米		0.1	160.1	268.5	265.1	238.8	218.0					
	1年古米(28年産)	89.4	58.5	39.2	37.6	32.3	26.4	20.5					
	出荷段階	80.0	50.8	184.3	276.5	269.5	238.0	215.1					
	29年産米		0.1	150.1	251.5	248.0	220.6	201.1					
	1年古米(28年産)	77.6	49.5	33.6	24.6	21.1	17.1	13.7					
	販売段階	13.9	10.0	15.9	30.2	28.4	27.6	23.8					
	29年産米			10.0	16.9	17.0	18.3	16.9					
	1年古米(28年産)	11.8	9.0	5.5	13.0	11.2	9.3	6.8					
富山	出荷+販売段階	31.5	20.2	72.8	94.4	93.9	84.9	77.1					
	29年産米		0.6	59.5	87.3	88.5	80.9	74.4					
	1年古米(28年産)	31.3	19.5	13.2	7.1	5.3	3.9	2.7					
	出荷段階	25.2	15.1	65.9	82.7	83.3	74.6	68.5					
	29年産米		0.3	55.8	82.0	82.9	74.4	68.4					
	1年古米(28年産)	25.2	14.8	10.1	0.7	0.4	0.1	0.1					
	販売段階	6.3	5.0	6.8	11.7	10.6	10.3	8.6					
	29年産米		0.3	3.7	5.3	5.6	6.5	6.0					
	1年古米(28年産)	6.1	4.6	3.1	6.4	4.9	3.8	2.6					
石川	出荷+販売段階	17.7	12.1	54.2	64.5	59.9	55.4	48.8					
	29年産米		1.2	46.8	58.6	55.5	52.8	47.2					
	1年古米(28年産)	17.5	10.8	7.3	5.8	4.3	2.6	1.6					
	出荷段階	14.2	8.9	34.5	42.6	40.0	37.7	34.0					
	29年産米		0.4	28.6	38.7	37.2	36.2	33.0					
	1年古米(28年産)	14.1	8.5	5.8	3.9	2.8	1.4	1.0					
	販売段階	3.5	3.1	19.7	21.9	20.0	17.8	14.8					
	29年産米		0.8	18.2	20.0	18.4	16.6	14.2					
	1年古米(28年産)	3.4	2.3	1.5	1.9	1.6	1.1	0.6					
福井	出荷+販売段階	15.8	15.8	50.2	76.2	69.5	62.6	56.1					
	29年産米		4.9	42.8	70.1	65.4	60.2	54.4					
	1年古米(28年産)	15.8	10.9	7.4	6.1	4.1	2.4	1.8					
	出荷段階	12.7	11.1	41.7	59.9	55.8	49.2	44.9					
	29年産米		2.4	35.9	57.6	54.1	48.2	44.1					
	1年古米(28年産)	12.7	8.7	5.8	2.3	1.7	1.0	0.8					
	販売段階	3.1	4.7	8.5	16.3	13.7	13.4	11.2					
	29年産米		2.5	6.8	12.5	11.3	12.0	10.2					
	1年古米(28年産)	3.1	2.2	1.6	3.7	2.4	1.4	1.0					
岐阜	出荷+販売段階	12.0	10.5	10.9	13.3	20.8	21.1	19.7					
	29年産米		1.6	4.1	8.4	16.8	18.2	17.4					
	1年古米(28年産)	10.9	8.1	6.1	4.3	3.4	2.4	1.9					
	出荷段階	9.0	7.8	8.0	9.1	16.0	16.3	15.3					
	29年産米		1.3	3.4	6.6	14.0	14.9	14.2					
	1年古米(28年産)	8.9	6.5	4.5	2.4	2.0	1.4	1.0					
	販売段階	3.0	2.7	3.0	4.2	4.8	4.7	4.4					
	29年産米		0.3	0.7	1.8	2.9	3.2	3.1					
	1年古米(28年産)	2.0	1.6	1.6	1.8	1.4	1.0	0.8					
愛知	出荷+販売段階	12.8	11.9	14.3	22.6	34.0	36.8	34.7					
	29年産米		2.3	8.9	20.6	32.0	35.4	33.3					
	1年古米(28年産)	12.4	9.4	5.3	2.0	2.0	1.3	1.4					
	出荷段階	10.8	9.6	11.3	18.5	27.9	29.4	27.9					
	29年産米		1.6	7.2	17.2	26.8	28.9	27.5					
	1年古米(28年産)	10.8	8.0	4.1	1.3	1.0	0.5	0.4					
	販売段階	2.0	2.2	2.9	4.2	6.2	7.3	6.8					
	29年産米		0.7	1.7	3.4	5.2	6.5	5.8					
	1年古米(28年産)	1.6	1.4	1.2	0.7	0.9	0.8	1.0					

(三重から奈良)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
三重	出荷+販売段階	7.5	16.9	40.1	41.2	38.6	34.9	31.6					
	29年産米		12.7	37.1	38.7	36.2	32.7	29.8					
	1年古米(28年産)	7.0	4.0	3.0	2.5	2.3	2.1	1.8					
	出荷段階	5.5	13.4	35.3	36.8	34.4	30.4	27.7					
	29年産米		10.4	33.3	35.2	32.9	29.0	26.5					
	1年古米(28年産)	5.2	2.7	2.0	1.7	1.5	1.4	1.2					
	販売段階	2.0	3.6	4.7	4.4	4.1	4.5	3.9					
	29年産米		2.2	3.8	3.5	3.3	3.7	3.3					
	1年古米(28年産)	1.8	1.2	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7					
滋賀	出荷+販売段階	15.1	13.3	52.0	56.1	56.5	51.8	46.7					
	29年産米		3.7	45.1	50.7	52.1	48.3	44.0					
	1年古米(28年産)	14.7	9.3	6.6	5.2	4.4	3.5	2.7					
	出荷段階	12.3	10.0	45.9	50.0	50.3	44.6	40.4					
	29年産米		3.3	42.3	47.1	47.8	42.7	38.8					
	1年古米(28年産)	11.9	6.5	3.5	2.8	2.4	1.9	1.6					
	販売段階	2.9	3.2	6.0	6.1	6.2	7.1	6.4					
	29年産米		0.4	2.9	3.6	4.3	5.6	5.2					
	1年古米(28年産)	2.8	2.8	3.1	2.4	1.9	1.5	1.2					
京都	出荷+販売段階	5.3	3.6	10.2	12.2	12.8	13.6	12.5					
	29年産米		0.1	8.0	11.2	11.8	12.8	12.0					
	1年古米(28年産)	5.2	3.6	2.2	1.0	1.0	0.8	0.5					
	出荷段階	4.0	2.8	8.8	9.9	10.3	11.0	10.5					
	29年産米		0.1	7.3	9.8	10.2	10.9	10.4					
	1年古米(28年産)	4.0	2.7	1.5	0.1	0.1	0.1	0.1					
	販売段階	1.3	0.9	1.4	2.3	2.5	2.6	2.0					
	29年産米			0.7	1.4	1.6	1.9	1.6					
	1年古米(28年産)	1.3	0.9	0.7	0.9	0.9	0.7	0.4					
大阪	出荷+販売段階	0.9	0.6	0.8	1.2	1.2	2.5	2.4					
	29年産米			0.4	0.9	0.9	2.3	2.2					
	1年古米(28年産)	0.9	0.6	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2					
	出荷段階	0.7	0.5	0.6	0.9	1.0	2.1	1.9					
	29年産米			0.4	0.8	0.9	2.1	1.9					
	1年古米(28年産)	0.7	0.5	0.2	0.1	0.1							
	販売段階	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.4	0.5					
	29年産米					0.1	0.3	0.3					
	1年古米(28年産)	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2					
兵庫	出荷+販売段階	15.7	11.0	25.9	29.3	49.7	47.0	33.9					
	29年産米			18.8	26.9	47.8	45.5	32.7					
	1年古米(28年産)	15.4	10.6	6.9	2.2	1.7	1.2	1.0					
	出荷段階	13.2	8.9	23.4	24.8	44.8	42.7	28.9					
	29年産米			17.7	24.5	44.6	42.6	28.9					
	1年古米(28年産)	13.2	8.9	5.7	0.3	0.2	0.1	0.1					
	販売段階	2.5	2.0	2.6	4.4	4.9	4.3	5.0					
	29年産米			1.1	2.3	3.2	2.9	3.9					
	1年古米(28年産)	2.1	1.7	1.2	1.8	1.5	1.2	0.9					
奈良	出荷+販売段階	2.2	1.5	1.6	4.6	8.6	7.8	7.1					
	29年産米			0.7	4.2	8.2	7.5	6.8					
	1年古米(28年産)	2.1	1.4	0.8	0.4	0.3	0.3	0.2					
	出荷段階	0.5	0.3	0.8	3.4	7.0	6.3	5.8					
	29年産米			0.7	3.4	7.0	6.3	5.8					
	1年古米(28年産)	0.5	0.3	0.1									
	販売段階	1.7	1.2	0.8	1.2	1.6	1.5	1.3					
	29年産米			0.1	0.7	1.2	1.2	1.1					
	1年古米(28年産)	1.6	1.1	0.7	0.4	0.3	0.3	0.2					

(和歌山から山口)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
和歌山	出荷+販売段階	0.8	0.5	0.9	1.7	1.7	2.0	1.7					
	29年産米			0.5	1.5	1.6	1.8	1.7					
	1年古米(28年産)	0.8	0.5	0.4	0.2	0.2	0.1	0.1					
	出荷段階	0.6	0.4	0.5	1.4	1.3	1.1	1.0					
	29年産米			0.5	1.4	1.3	1.1	1.0					
	1年古米(28年産)	0.6	0.4										
	販売段階	0.3	0.1	0.4	0.4	0.4	0.9	0.8					
	29年産米				0.1	0.2	0.7	0.7					
	1年古米(28年産)	0.2	0.1	0.4	0.2	0.2	0.1	0.1					
鳥取	出荷+販売段階	7.2	4.6	9.5	21.0	21.9	29.5	29.0					
	29年産米			6.6	18.7	20.2	28.3	28.3					
	1年古米(28年産)	7.2	4.5	2.8	2.2	1.7	1.2	0.7					
	出荷段階	5.2	3.0	7.8	18.1	19.1	26.7	23.9					
	29年産米			6.0	17.1	18.3	26.1	23.7					
	1年古米(28年産)	5.2	3.0	1.8	1.1	0.8	0.5	0.2					
	販売段階	2.0	1.6	1.7	2.9	2.9	2.9	5.2					
	29年産米			0.6	1.7	1.9	2.2	4.6					
	1年古米(28年産)	1.9	1.5	1.0	1.2	0.9	0.7	0.5					
島根	出荷+販売段階	8.3	6.3	28.0	33.6	33.4	30.1	27.6					
	29年産米		1.0	24.3	31.6	32.0	29.3	27.1					
	1年古米(28年産)	8.2	5.2	3.7	1.9	1.3	0.7	0.5					
	出荷段階	6.7	4.7	25.6	30.0	30.1	27.3	25.2					
	29年産米		0.8	23.0	29.7	29.8	27.1	25.1					
	1年古米(28年産)	6.7	3.8	2.5	0.3	0.3	0.2	0.1					
	販売段階	1.6	1.6	2.5	3.6	3.3	2.7	2.4					
	29年産米		0.1	1.3	2.0	2.2	2.2	2.0					
	1年古米(28年産)	1.5	1.4	1.2	1.6	1.0	0.5	0.4					
岡山	出荷+販売段階	14.9	10.2	15.9	23.2	40.2	53.2	43.2					
	29年産米			8.9	19.4	37.8	51.9	42.4					
	1年古米(28年産)	14.8	10.1	6.9	3.7	2.3	1.3	0.8					
	出荷段階	11.4	7.5	11.3	17.3	32.7	45.2	36.1					
	29年産米			7.5	16.6	32.3	45.1	36.0					
	1年古米(28年産)	11.4	7.4	3.9	0.7	0.4	0.1						
	販売段階	3.5	2.7	4.5	5.8	7.5	8.0	7.1					
	29年産米			1.5	2.8	5.5	6.8	6.4					
	1年古米(28年産)	3.4	2.6	3.0	3.0	1.9	1.2	0.7					
広島	出荷+販売段階	10.4	6.9	23.2	38.6	40.3	36.8	32.6					
	29年産米		0.3	19.5	36.5	38.8	35.9	31.9					
	1年古米(28年産)	10.3	6.4	3.5	2.0	1.4	0.8	0.6					
	出荷段階	7.5	4.8	19.6	33.4	35.0	31.7	28.2					
	29年産米		0.2	17.8	33.0	34.8	31.7	28.1					
	1年古米(28年産)	7.5	4.6	1.8	0.3	0.2							
	販売段階	3.0	2.1	3.7	5.2	5.3	5.0	4.5					
	29年産米			1.8	3.5	4.0	4.1	3.8					
	1年古米(28年産)	2.8	1.9	1.7	1.6	1.2	0.8	0.6					
山口	出荷+販売段階	11.5	8.8	20.0	30.9	34.2	33.6	30.9					
	29年産米		0.5	14.1	26.8	30.8	30.9	28.8					
	1年古米(28年産)	11.1	8.0	5.8	4.0	3.3	2.7	2.1					
	出荷段階	10.0	7.4	18.6	26.0	29.8	29.3	27.2					
	29年産米		0.4	13.6	26.0	29.8	29.2	27.2					
	1年古米(28年産)	10.0	7.0	4.9									
	販売段階	1.5	1.4	1.5	4.8	4.4	4.4	3.8					
	29年産米		0.1	0.4	0.8	1.1	1.7	1.7					
	1年古米(28年産)	1.1	1.0	0.8	4.0	3.2	2.7	2.0					

(徳島から佐賀)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
徳島	出荷+販売段階	2.3	10.8	14.2	13.7	12.5	11.5	10.0					
	29年産米		9.4	13.1	12.8	11.7	10.9	9.5					
	1年古米(28年産)	2.1	1.2	0.9	0.7	0.6	0.5	0.5					
	出荷段階	0.7	7.9	10.6	9.8	8.6	8.0	7.0					
	29年産米		7.6	10.3	9.8	8.6	8.0	7.0					
	1年古米(28年産)	0.7	0.3	0.3									
	販売段階	1.6	2.9	3.6	3.9	3.9	3.5	3.1					
	29年産米		1.8	2.8	3.0	3.2	2.9	2.5					
	1年古米(28年産)	1.4	0.9	0.6	0.7	0.6	0.5	0.5					
香川	出荷+販売段階	7.5	6.0	6.6	13.0	19.4	18.7	17.0					
	29年産米		0.7	3.2	11.4	18.5	18.0	16.3					
	1年古米(28年産)	7.3	5.2	3.3	1.5	0.9	0.7	0.6					
	出荷段階	6.4	5.1	5.4	11.6	17.4	17.0	15.6					
	29年産米		0.6	3.1	11.0	17.4	17.0	15.6					
	1年古米(28年産)	6.4	4.5	2.3	0.6								
	販売段階	1.1	0.9	1.2	1.3	2.0	1.8	1.4					
	29年産米		0.1	0.2	0.4	1.1	1.0	0.8					
	1年古米(28年産)	0.9	0.7	1.0	0.9	0.9	0.7	0.6					
愛媛	出荷+販売段階	4.2	5.3	7.9	12.5	15.1	13.5	12.2					
	29年産米		2.4	5.8	10.9	13.7	12.3	11.2					
	1年古米(28年産)	3.9	2.8	2.0	1.5	1.3	1.1	0.9					
	出荷段階	3.8	5.0	7.5	12.0	14.6	12.9	11.7					
	29年産米		2.3	5.6	10.5	13.3	11.9	10.8					
	1年古米(28年産)	3.5	2.5	1.7	1.3	1.2	0.9	0.8					
	販売段階	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5					
	29年産米		0.1	0.2	0.3	0.4	0.4	0.4					
	1年古米(28年産)	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1					
高知	出荷+販売段階	3.7	11.7	10.7	12.5	11.9	10.7	9.9					
	29年産米	0.4	9.2	8.7	10.7	10.3	9.3	8.7					
	1年古米(28年産)	3.1	2.4	1.9	1.6	1.5	1.2	1.1					
	出荷段階	1.1	6.6	5.9	6.8	6.3	5.9	5.6					
	29年産米	0.1	5.8	5.2	6.2	5.8	5.4	5.1					
	1年古米(28年産)	0.9	0.7	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4					
	販売段階	2.6	5.1	4.9	5.7	5.6	4.8	4.3					
	29年産米	0.3	3.3	3.5	4.5	4.6	3.9	3.5					
	1年古米(28年産)	2.2	1.6	1.3	1.1	1.0	0.8	0.7					
福岡	出荷+販売段階	22.5	16.7	25.6	43.0	61.3	70.3	64.1					
	29年産米		0.7	15.0	34.2	54.6	65.7	60.7					
	1年古米(28年産)	22.1	15.7	10.4	8.7	6.6	4.6	3.4					
	出荷段階	18.9	12.9	17.7	30.6	49.8	60.5	56.0					
	29年産米		0.4	9.6	26.5	46.9	58.6	54.6					
	1年古米(28年産)	18.8	12.4	8.1	4.0	2.8	1.8	1.3					
	販売段階	3.6	3.8	7.8	12.5	11.6	9.9	8.2					
	29年産米		0.3	5.4	7.7	7.7	7.1	6.1					
	1年古米(28年産)	3.3	3.3	2.3	4.7	3.8	2.8	2.1					
佐賀	出荷+販売段階	10.4	8.2	9.5	25.2	31.3	33.1	32.7					
	29年産米		1.2	5.2	23.9	29.8	32.1	31.9					
	1年古米(28年産)	10.2	6.9	4.2	1.2	1.4	0.9	0.8					
	出荷段階	9.1	7.0	8.5	23.0	28.0	30.0	29.7					
	29年産米		1.1	5.0	22.9	27.9	30.0	29.6					
	1年古米(28年産)	9.1	6.0	3.5	0.1	0.1							
	販売段階	1.3	1.2	1.1	2.2	3.3	3.1	3.1					
	29年産米		0.1	0.2	1.0	2.0	2.1	2.2					
	1年古米(28年産)	1.1	0.9	0.7	1.1	1.3	0.9	0.8					

(長崎から沖縄)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
長崎	出荷+販売段階	3.2	3.0	2.9	6.4	9.0	9.0	8.3					
	29年産米		0.8	1.6	5.1	8.1	8.5	8.0					
	1年古米(28年産)	3.2	2.2	1.3	1.3	1.0	0.5	0.3					
	出荷段階	2.8	2.7	2.5	5.3	8.0	8.2	7.6					
	29年産米		0.8	1.4	4.8	7.5	8.0	7.5					
	1年古米(28年産)	2.8	1.9	1.1	0.5	0.4	0.2	0.1					
	販売段階	0.3	0.3	0.4	1.1	1.1	0.8	0.7					
	29年産米			0.2	0.3	0.6	0.5	0.5					
	1年古米(28年産)	0.3	0.3	0.2	0.7	0.5	0.3	0.2					
熊本	出荷+販売段階	15.3	12.7	11.7	29.8	39.6	41.0	41.3					
	29年産米		2.6	5.4	27.0	37.6	39.3	39.8					
	1年古米(28年産)	15.1	9.8	6.2	2.7	2.0	1.5	1.3					
	出荷段階	11.5	8.6	7.3	21.0	29.3	30.0	31.3					
	29年産米		1.7	3.4	19.8	28.6	29.8	31.2					
	1年古米(28年産)	11.5	6.9	3.9	1.2	0.7	0.2	0.2					
	販売段階	3.9	4.0	4.4	8.9	10.3	11.0	9.9					
	29年産米		0.9	2.0	7.2	8.9	9.5	8.6					
	1年古米(28年産)	3.6	2.9	2.3	1.5	1.3	1.3	1.1					
大分	出荷+販売段階	6.5	5.0	4.6	9.6	16.3	19.5	18.1					
	29年産米		0.5	1.9	8.1	15.3	18.7	17.5					
	1年古米(28年産)	6.3	4.4	2.6	1.4	1.0	0.8	0.6					
	出荷段階	4.8	3.6	2.9	6.2	11.7	14.1	13.4					
	29年産米		0.3	1.1	5.5	11.3	13.7	13.1					
	1年古米(28年産)	4.8	3.3	1.8	0.7	0.5	0.4	0.3					
	販売段階	1.7	1.4	1.6	3.4	4.6	5.4	4.7					
	29年産米		0.2	0.8	2.6	4.0	5.0	4.4					
	1年古米(28年産)	1.6	1.1	0.8	0.8	0.5	0.4	0.3					
宮崎	出荷+販売段階	8.7	8.0	4.1	11.0	13.3	14.0	12.8					
	29年産米	5.2	5.6	2.7	10.1	12.5	13.1	12.0					
	1年古米(28年産)	3.4	2.3	1.3	0.9	0.7	0.9	0.8					
	出荷段階	6.8	4.3	1.0	7.7	10.4	11.2	10.2					
	29年産米	4.5	2.9	0.3	7.5	10.1	11.0	10.0					
	1年古米(28年産)	2.3	1.5	0.6	0.3	0.3	0.3	0.2					
	販売段階	1.9	3.7	3.1	3.3	2.9	2.8	2.6					
	29年産米	0.8	2.8	2.4	2.6	2.4	2.2	2.0					
	1年古米(28年産)	1.1	0.9	0.7	0.6	0.5	0.6	0.5					
鹿児島	出荷+販売段階	7.7	9.9	7.7	14.1	19.3	17.7	15.9					
	29年産米	0.5	4.3	3.7	11.2	16.9	15.7	14.2					
	1年古米(28年産)	6.8	5.3	3.8	2.9	2.4	2.0	1.7					
	出荷段階	5.4	5.3	3.6	9.7	13.9	12.5	11.5					
	29年産米	0.1	1.0	0.5	7.3	11.8	10.9	10.0					
	1年古米(28年産)	5.0	4.1	3.0	2.4	2.0	1.6	1.5					
	販売段階	2.2	4.6	4.1	4.4	5.4	5.1	4.4					
	29年産米	0.4	3.3	3.2	3.9	5.1	4.8	4.2					
	1年古米(28年産)	1.7	1.2	0.8	0.5	0.4	0.3	0.2					
沖縄	出荷+販売段階	0.6	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1						
	29年産米	0.6	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1						
	1年古米(28年産)												
	出荷段階	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1						
	29年産米	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1						
	1年古米(28年産)												
	販売段階	0.3	0.1	0.1									
	29年産米	0.3	0.1	0.1									
	1年古米(28年産)												

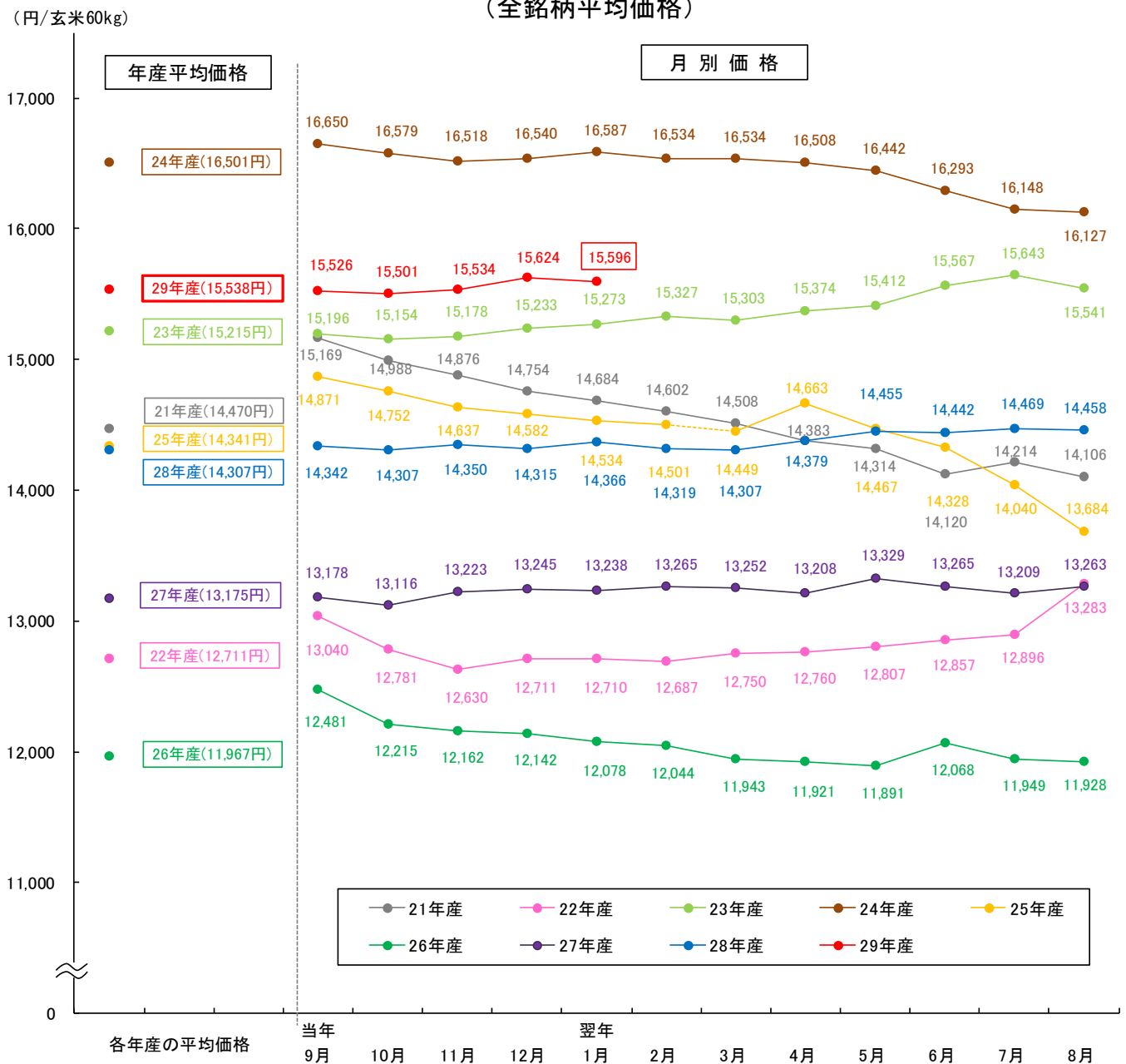
Ⅲ 米の価格情報

1 相対取引価格・数量

(1) 相対取引価格（年産別）

- 平成29年産米の平成30年1月の全銘柄平均価格は、前年産の同時期と比べ+1,230円/60kg。
- ※ 産地銘柄ごとの価格は、23頁以降を参照。

相対取引価格の推移（税込）
（全銘柄平均価格）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 価格には、運賃、包装代、消費税（平成26年3月までは5%、同年4月以降は8%）が含まれている。

3 グラフの左側は各年産の平均価格（注4）、それ以降は月ごとの価格の推移。

4 平均価格とは、当該年産の出回りから翌年10月（29年産は平成30年1月）までの通年平均価格。（29年産は速報値ベース）

(2) 価格帯別分析結果（平成30年1月）

- 平成28年産米と平成29年産米の価格帯別平均価格を比較したところ、平成28年産の価格が15,000円以上の銘柄は+620円、13,000円未満の銘柄では+1,562円。
- 産地銘柄ごとでは、「茨城県産あきたこまち」が最も上昇しており、次いで、「秋田県産ひとめぼれ」、「奈良県産ヒノヒカリ」という状況。

価格帯別相対取引価格

単位：円/玄米60kg（税込）

	平成28年産の相対取引価格			
	15,000円以上の銘柄の平均	15,000円～14,000円の銘柄の平均	14,000円～13,000円の銘柄の平均	13,000円未満の銘柄の平均
平成28年産(出回り～29年10月) ①	16,357	14,340	13,649	12,876
平成29年産(出回り～30年1月) (28年産価格帯ベース) ②	16,977	15,551	15,012	14,438
価格差 ②-①	+ 620	+ 1,211	+ 1,363	+ 1,562

平成28年産と平成29年産の価格差（相対取引価格上昇幅上位10銘柄）

単位：円/玄米60kg（税込）

		平成28年産 (出回り～平成29年10月) ①	平成29年産 (出回り～平成30年1月) ②	価格差 ②-①
茨城	あきたこまち	13,247	15,424	+ 2,177
秋田	ひとめぼれ	13,685	15,656	+ 1,971
奈良	ヒノヒカリ	12,953	14,756	+ 1,803
群馬	ゆめまつり	13,606	15,382	+ 1,776
奈良	コシヒカリ	13,155	14,857	+ 1,702
岡山	アケボノ	13,362	15,048	+ 1,686
秋田	あきたこまち	14,175	15,856	+ 1,681
千葉	ふさこがね	12,835	14,506	+ 1,671
千葉	ふさおとめ	12,993	14,651	+ 1,658
福島	天のつぶ	13,360	15,007	+ 1,647

(3) 相対取引価格・数量（平成29年産米、産地品種銘柄別、平成30年1月分）

相対取引価格・数量①（北海道から栃木まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 29年産米 (30年1月) ①	数量 29年産米 (30年1月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				29年産米 (出回り～ 30年1月)	28年産米 (出回り～ 29年10月)	対前年比 /
				29年産米 (29年12月)	対前月比 /	28年産米 (29年1月)	対前年比 /	29年産米 (29年12月)	対前月比 /	28年産米 (29年1月)	対前年比 /			
北海道	ななつぼし	15,785	18,149	15,922	99%	14,493	109%	24,658	74%	17,171	106%	15,801	14,244	111%
北海道	ゆめびりか	17,387	5,360	17,480	99%	17,284	101%	11,376	47%	5,850	92%	17,508	16,479	106%
北海道	きらら397	15,498	7,177	16,066	96%	14,623	106%	5,718	126%	2,854	251%	15,697	14,146	111%
青森	まっしぐら	14,862	14,457	14,805	100%	13,438	111%	9,115	159%	19,797	73%	14,724	13,216	111%
青森	つがるロマン	15,041	8,044	15,118	99%	13,121	115%	5,377	150%	5,291	152%	14,996	13,434	112%
岩手	ひとめぼれ	15,090	17,665	15,213	99%	13,619	111%	7,492	236%	6,526	271%	15,122	13,840	109%
岩手	あきたこまち	15,265	798	14,968	102%	13,314	115%	1,794	44%	5,165	15%	14,848	13,476	110%
岩手	いわてっこ	-	-	-	-	13,405	-	-	-	111	-	14,660	13,242	111%
宮城	ひとめぼれ	15,429	11,631	15,478	100%	13,993	110%	15,953	73%	21,906	53%	15,390	13,950	110%
宮城	つや姫	16,105	531	15,937	101%	14,376	112%	632	84%	1,605	33%	15,790	14,376	110%
宮城	ササニシキ	16,008	133	15,983	100%	14,253	112%	270	49%	994	13%	15,559	14,115	110%
秋田	あきたこまち	15,941	11,292	15,956	100%	14,149	113%	34,220	33%	13,299	85%	15,856	14,175	112%
秋田	めんこいな	14,815	403	14,691	101%	13,325	111%	756	53%	666	61%	14,754	13,433	110%
秋田	ひとめぼれ	15,860	3,549	15,707	101%	13,703	116%	1,399	254%	2,048	173%	15,656	13,685	114%
山形	はえぬき	15,204	19,349	15,501	98%	14,186	107%	26,605	73%	13,362	145%	15,341	13,841	111%
山形	つや姫	18,057	3,515	18,189	99%	17,977	100%	7,306	48%	4,750	74%	18,121	17,848	102%
山形	ひとめぼれ	15,490	1,211	15,519	100%	14,112	110%	2,904	42%	1,767	69%	15,819	14,511	109%
福島	コシヒカリ(中通り)	14,829	4,909	15,465	96%	13,557	109%	19,154	26%	1,806	272%	15,308	13,876	110%
福島	コシヒカリ(会津)	15,181	20,876	15,363	99%	14,357	106%	1,546	1350%	1,469	1421%	15,227	14,212	107%
福島	コシヒカリ(浜通り)	-	-	14,592	-	13,346	-	1,885	-	1,620	-	14,640	13,392	109%
福島	ひとめぼれ	14,618	2,905	15,241	96%	12,973	113%	4,750	61%	556	522%	14,932	13,401	111%
福島	天のつぶ	14,427	349	15,200	95%	12,911	112%	2,875	12%	844	41%	15,007	13,360	112%
茨城	コシヒカリ	15,100	8,354	15,121	100%	14,041	108%	6,381	131%	4,818	173%	15,197	13,784	110%
茨城	あきたこまち	-	-	15,470	-	13,413	-	1,256	-	486	-	15,424	13,247	116%
茨城	ゆめひたち	-	-	-	-	12,903	-	-	-	150	-	-	13,025	-
栃木	コシヒカリ	15,753	3,164	15,601	101%	13,806	114%	9,793	32%	16,755	19%	15,463	13,832	112%
栃木	あさひの夢	15,077	452	-	-	13,756	110%	-	-	2,888	16%	14,836	13,586	109%
栃木	なすひかり	15,494	316	14,946	104%	13,873	112%	249	127%	3,309	10%	14,762	13,882	106%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
- 2 産地品種銘柄ごとの価格（①）は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）を加重平均したものであり、数量（②）は、同契約の数量の合計である。
ただし、全農が締結する「福島、茨城、鳥取、岡山、高知」の契約では、27年産から契約方法を見直し、これまでの運賃（東京、大阪着基準）を含めた契約方法から、産地在姿での契約方法に変更したため、当該産地の相対取引価格には全農契約分の運賃が含まれていない。
- 3 価格に含む消費税は、平成26年4月分から8%で算定している。
- 4 加重平均に際しては、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。
- 5 相対取引価格は、個々の契約内容に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて価格調整（等級及び付加価値等（栽培方法等））が行われることがある。
- 6 全銘柄平均価格（次々頁）は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均により算定。
- 7 ④及び⑥は前年産の価格、数量である。
- 8 「-」は、当該月の相対取引契約がなかったもの又は当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表を行わないもの。
- 9 斜線は、当該年産米において産地品種銘柄の報告対象でなかったもの。

相対取引価格・数量②（群馬から兵庫まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 29年産米 (30年1月) ①	数量 29年産米 (30年1月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				29年産米	28年産米	対前年比
				29年産米 (29年12月)	対前月比	28年産米 (29年1月)	対前年比	29年産米 (29年12月)	対前月比	28年産米 (29年1月)	対前年比	(出回り～ 30年1月)	(出回り～ 29年10月)	
				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
群馬	あさひの夢	15,453	3,452	15,542	99%	13,653	113%	1,456	237%	3,372	102%	15,410	13,796	112%
群馬	ゆめまつり	15,335	472	15,444	99%	13,802	111%	609	78%	807	58%	15,382	13,606	113%
埼玉	彩のかがやき	-	-	14,913	-	13,639	-	2,064	-	2,260	-	14,780	13,375	111%
埼玉	コシヒカリ	-	-	15,323	-	14,007	-	1,493	-	2,022	-	14,928	13,843	108%
埼玉	彩のきずな	-	-	15,080	-	13,433	-	1,740	-	740	-	14,848	13,301	112%
千葉	コシヒカリ	15,265	1,106	14,864	103%	13,826	110%	5,280	21%	1,797	62%	14,972	13,719	109%
千葉	ふさこがね	14,848	379	14,343	104%	12,837	116%	2,439	16%	698	54%	14,506	12,835	113%
千葉	ふさおとめ	14,683	299	14,536	101%	12,971	113%	2,032	15%	956	31%	14,651	12,993	113%
山梨	コシヒカリ	17,784	303	17,632	101%	16,902	105%	403	75%	286	106%	17,668	16,969	104%
山梨	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,697	-
長野	コシヒカリ	15,560	17,143	15,561	100%	14,533	107%	11,795	145%	7,378	232%	15,535	14,538	107%
長野	あきたこまち	14,850	2,190	14,716	101%	13,612	109%	2,103	104%	1,400	156%	14,733	13,596	108%
静岡	コシヒカリ	15,514	248	15,389	101%	14,868	104%	306	81%	234	106%	15,385	14,856	104%
静岡	きぬむすめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,960	13,335	105%
静岡	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,315	13,396	107%
新潟	コシヒカリ(一般)	16,982	20,643	16,907	100%	16,390	104%	11,925	173%	11,551	179%	16,904	16,175	105%
新潟	コシヒカリ(魚沼)	20,640	2,834	20,578	100%	20,945	99%	2,670	106%	1,066	266%	20,653	20,434	101%
新潟	コシヒカリ(岩船)	17,452	574	17,339	101%	16,955	103%	1,253	46%	1,114	52%	17,331	16,834	103%
新潟	コシヒカリ(佐渡)	17,362	4,008	17,340	100%	17,042	102%	737	544%	1,845	217%	17,351	16,968	102%
新潟	こしいぶき	15,269	3,914	14,871	103%	13,680	112%	6,827	57%	2,225	176%	14,894	13,671	109%
富山	コシヒカリ	16,127	3,336	16,115	100%	14,809	109%	8,254	40%	17,250	19%	15,913	15,098	105%
富山	てんたかく	14,610	1,102	14,487	101%	13,898	105%	936	118%	523	211%	14,538	13,860	105%
石川	コシヒカリ	15,633	456	15,582	100%	14,775	106%	1,107	41%	5,562	8%	15,668	14,815	106%
石川	ゆめみづほ	14,526	402	14,213	102%	13,278	109%	100	402%	1,600	25%	14,481	13,233	109%
福井	コシヒカリ	16,042	7,757	15,965	100%	-	-	3,193	243%	-	-	15,906	14,930	107%
福井	ハナエチゼン	14,940	2,246	14,912	100%	-	-	1,341	167%	-	-	14,704	13,521	109%
岐阜	ハツシモ	15,077	2,993	15,241	99%	14,088	107%	516	580%	932	321%	14,982	13,963	107%
岐阜	コシヒカリ	15,453	1,547	15,593	99%	14,927	104%	795	195%	710	218%	15,485	15,160	102%
岐阜	あきたこまち	-	-	14,449	-	-	-	308	-	-	-	14,283	13,221	108%
愛知	あいちのかおり	13,472	698	14,339	94%	13,443	100%	138	506%	155	450%	13,738	13,530	102%
愛知	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,922	13,826	108%
愛知	大地の風	14,122	170	14,341	98%	-	-	159	107%	-	-	14,084	13,531	104%
三重	コシヒカリ(一般)	15,100	1,440	15,226	99%	14,310	106%	121	1190%	592	243%	14,929	14,369	104%
三重	コシヒカリ(伊賀)	15,738	165	-	-	14,705	107%	-	-	326	51%	15,342	14,781	104%
三重	キヌヒカリ	14,314	182	-	-	13,291	108%	-	-	133	137%	14,189	13,356	106%
滋賀	コシヒカリ	15,092	1,884	15,047	100%	14,436	105%	3,541	53%	7,819	24%	15,056	14,346	105%
滋賀	キヌヒカリ	14,773	693	14,100	105%	13,217	112%	1,366	51%	5,768	12%	14,327	13,270	108%
滋賀	日本晴	-	-	-	-	12,813	-	-	-	2,295	-	14,190	12,902	110%
京都	コシヒカリ	15,769	1,727	15,262	103%	15,265	103%	1,131	153%	3,680	47%	15,643	15,193	103%
京都	キヌヒカリ	14,949	618	14,500	103%	13,718	109%	455	136%	1,483	42%	14,673	13,706	107%
兵庫	コシヒカリ	15,715	109	17,154	92%	15,004	105%	185	59%	1,271	9%	15,693	15,102	104%
兵庫	ヒノヒカリ	14,488	190	14,337	101%	13,229	110%	1,921	10%	380	50%	14,211	13,229	107%
兵庫	キヌヒカリ	14,685	184	14,392	102%	13,292	110%	1,388	13%	311	59%	14,297	13,190	108%

注：本表の注意点は、前頁の脚注を参照。

相対取引価格・数量③（奈良から鹿児島まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 29年産米 (30年1月) ①	数量 29年産米 (30年1月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				29年産米 (出回り～ 30年1月)	28年産米 (出回り～ 29年10月)	対前年比
				29年産米 (29年12月)	対前年比	28年産米 (29年1月)	対前年比	29年産米 (29年12月)	対前年比	28年産米 (29年1月)	対前年比			
				/	/	/	/	/	/	/	/			
奈良	ヒノヒカリ	14,812	448	14,811	100%	13,124	113%	489	92%	632	71%	14,756	12,953	114%
奈良	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,857	13,155	113%
鳥取	コシヒカリ	14,897	1,391	-	-	14,090	106%	-	-	854	163%	15,067	14,014	108%
鳥取	きぬむすめ	14,233	972	14,030	101%	13,152	108%	137	709%	2,439	40%	14,261	13,183	108%
鳥取	ひとめぼれ	14,142	990	-	-	13,001	109%	-	-	1,601	62%	14,112	13,065	108%
島根	コシヒカリ	15,231	729	16,299	93%	14,525	105%	455	160%	1,060	69%	15,159	14,792	102%
島根	きぬむすめ	13,944	236	14,356	97%	13,421	104%	148	159%	1,014	23%	14,322	13,426	107%
島根	つや姫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,153	14,531	104%
岡山	アケボノ	15,045	380	15,081	100%	13,349	113%	299	127%	523	73%	15,048	13,362	113%
岡山	あきたこまち	-	-	15,364	-	13,781	-	375	-	248	-	15,367	13,842	111%
岡山	ヒノヒカリ	15,253	203	15,410	99%	13,781	111%	232	88%	884	23%	15,416	13,804	112%
広島	コシヒカリ	15,021	618	14,991	100%	14,038	107%	1,400	44%	923	67%	15,050	14,153	106%
広島	あきろまん	13,805	759	13,835	100%	-	-	537	141%	-	-	13,938	13,155	106%
広島	ヒノヒカリ	13,334	269	13,832	96%	-	-	108	249%	-	-	13,680	12,840	107%
山口	コシヒカリ	14,957	664	14,993	100%	14,401	104%	454	146%	491	135%	14,904	14,446	103%
山口	ひとめぼれ	14,036	1,218	14,136	99%	13,224	106%	566	215%	426	286%	14,039	13,291	106%
山口	ヒノヒカリ	14,183	952	14,117	100%	13,322	106%	560	170%	676	141%	14,083	13,355	105%
徳島	コシヒカリ	15,120	120	15,411	98%	14,074	107%	159	75%	246	49%	15,255	14,032	109%
徳島	キヌヒカリ	14,256	120	14,580	98%	13,608	105%	120	100%	240	50%	14,418	13,275	109%
香川	ヒノヒカリ	14,271	645	14,096	101%	13,199	108%	514	125%	668	97%	14,130	13,184	107%
香川	コシヒカリ	14,898	494	14,625	102%	13,878	107%	521	95%	505	98%	14,650	13,879	106%
愛媛	コシヒカリ	14,378	655	14,212	101%	13,209	109%	332	197%	285	230%	14,380	13,307	108%
愛媛	ヒノヒカリ	13,860	331	13,623	102%	12,469	111%	129	257%	127	261%	13,755	12,440	111%
愛媛	あきたこまち	13,788	120	13,657	101%	12,429	111%	115	104%	109	110%	13,762	12,493	110%
高知	コシヒカリ	15,114	120	15,114	100%	14,250	106%	240	50%	240	50%	15,357	14,481	106%
高知	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,358	13,602	106%
福岡	夢つくし	15,997	1,162	15,966	100%	15,631	102%	1,572	74%	1,356	86%	16,143	15,761	102%
福岡	ヒノヒカリ	15,109	1,283	15,111	100%	14,022	108%	1,080	119%	4,313	30%	15,047	14,196	106%
福岡	元気つくし	15,989	1,226	15,778	101%	15,654	102%	2,094	59%	1,009	122%	15,875	15,612	102%
佐賀	さがびより	15,152	577	15,022	101%	14,228	106%	696	83%	625	92%	15,086	14,147	107%
佐賀	夢しずく	14,121	608	14,151	100%	13,301	106%	604	101%	604	101%	14,189	13,329	106%
佐賀	ヒノヒカリ	13,842	480	13,919	99%	13,147	105%	331	145%	152	316%	13,855	13,042	106%
長崎	ヒノヒカリ	15,304	258	15,372	100%	14,442	106%	397	65%	331	78%	15,316	14,395	106%
長崎	にこまる	15,582	326	15,589	100%	14,745	106%	356	92%	349	93%	15,585	14,713	106%
長崎	コシヒカリ	-	-	16,015	-	-	-	147	-	-	-	16,103	15,191	106%
熊本	ヒノヒカリ	14,851	656	14,817	100%	14,329	104%	790	83%	414	158%	14,807	14,278	104%
熊本	森のくまさん	-	-	14,894	-	-	-	110	-	-	-	14,980	14,518	103%
熊本	コシヒカリ	-	-	15,897	-	15,894	-	152	-	532	-	15,479	15,767	98%
大分	ヒノヒカリ	15,545	1,811	15,730	99%	14,262	109%	305	594%	2,893	63%	15,570	14,169	110%
大分	ひとめぼれ	15,165	332	-	-	14,342	106%	-	-	345	96%	15,216	14,446	105%
宮崎	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,049	14,721	102%
宮崎	ヒノヒカリ	15,335	155	15,626	98%	-	-	163	95%	-	-	15,484	14,388	108%
鹿児島	ヒノヒカリ	-	-	15,662	-	15,126	-	178	-	502	-	15,191	15,210	100%
鹿児島	あきほなみ	16,248	120	-	-	15,104	108%	-	-	760	16%	15,817	15,525	102%
鹿児島	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,542	15,222	102%
全銘柄平均価格、合計数量		15,596	272,220	15,624	100%	14,366	109%	303,022	90%	277,606	98%	15,538	14,307	109%

注：本表の注意点は、前々頁の脚注を参照。

(4) スポット価格の状況

〔○ スポット取引は、相当期間にわたり安定的に行う相対取引等と性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。〕

スポット価格 [日本コメ市場株式会社]

税抜価格

【平成29年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成29年 8月	平成29年 9月	平成29年 10月	平成29年 11月	平成29年 12月	平成30年 1月	平成30年 2月
北海道なつぼし	日本コメ市場(取引会)							
北海道きらら397	日本コメ市場(随時)						15,600	
青森まっしぐら	日本コメ市場(取引会)							
青森つがるロマン	日本コメ市場(随時)							
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)							
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場(随時)							
	日本コメ市場(取引会)							
秋田あきたこまち	日本コメ市場(随時)		15,193	15,508	15,756	15,700	15,846	
	日本コメ市場(取引会)		15,297				16,052	
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場(随時)		14,600		15,003		15,391	
	日本コメ市場(取引会)				15,003			
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)						15,033	
茨城コシヒカリ	日本コメ市場(随時)			14,903			15,474	15,584
	日本コメ市場(取引会)						15,453	
茨城あきたこまち	日本コメ市場(取引会)		14,600					
栃木コシヒカリ	日本コメ市場(随時)					15,100		15,875
	日本コメ市場(取引会)							
栃木あさひの夢	日本コメ市場(取引会)				14,510			
千葉コシヒカリ	日本コメ市場(取引会)	14,550	14,680		15,000		14,880	
千葉あきたこまち	日本コメ市場(取引会)	14,387						
千葉ふさこがね	日本コメ市場(取引会)		14,225		14,600		14,880	
千葉ふさおとめ	日本コメ市場(取引会)	14,003						
新潟コシヒカリ(一般)	日本コメ市場(随時)		15,613				16,539	16,785
	日本コメ市場(取引会)		15,500		16,271		16,524	
富山コシヒカリ	日本コメ市場(取引会)							

【平成28年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
北海道なつぼし	日本コメ市場(取引会)									15,193				
北海道きらら397	日本コメ市場(随時)								14,106					
青森まっしぐら	日本コメ市場(取引会)		12,925											
青森つがるロマン	日本コメ市場(随時)				13,093	13,175		13,451						
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)					13,500	13,557		13,500					
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場(随時)							13,550					14,367	
	日本コメ市場(取引会)												14,700	
秋田あきたこまち	日本コメ市場(随時)		13,507	13,691	13,635	13,646	13,893	14,544	14,466	14,419	14,958	15,300	15,600	
	日本コメ市場(取引会)		13,471			13,731	13,883		14,391	14,614			15,500	
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場(随時)			13,200			13,160			13,533	13,550	14,390		
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)									13,360				
茨城コシヒカリ	日本コメ市場(随時)								13,481	13,631	14,011	14,250		
	日本コメ市場(取引会)	13,151	13,450				13,441		13,495	13,700				13,997
茨城あきたこまち	日本コメ市場(取引会)	12,834												14,043
栃木コシヒカリ	日本コメ市場(随時)				13,200	13,147	13,500	13,586	13,601	13,725	13,765	14,168		
	日本コメ市場(取引会)					13,145							14,350	
栃木あさひの夢	日本コメ市場(取引会)					12,900	12,919							
千葉ふさこがね	日本コメ市場(取引会)		12,913						13,310					
千葉ふさおとめ	日本コメ市場(取引会)	12,661												
新潟コシヒカリ(一般)	日本コメ市場(随時)										14,717	14,864	14,933	
	日本コメ市場(取引会)		15,231			14,400	14,325		14,117	13,950			15,300	
富山コシヒカリ	日本コメ市場(取引会)											14,412	14,550	

出典：日本コメ市場株式会社HP

注：1 日本コメ市場(随時)の価格は、随時取引(取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引)の下期(16日～月末分。ただし、下期が公表されていない場合は上期)の価格で、関東到着基準、1等、包装代込の価格。

2 日本コメ市場(取引会)の価格は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において日本コメ市場、クリスタルライスの共同で開催される取引会での成約価格(取引数量により加重平均)であり、関東到着基準、1等、包装代込みの価格。

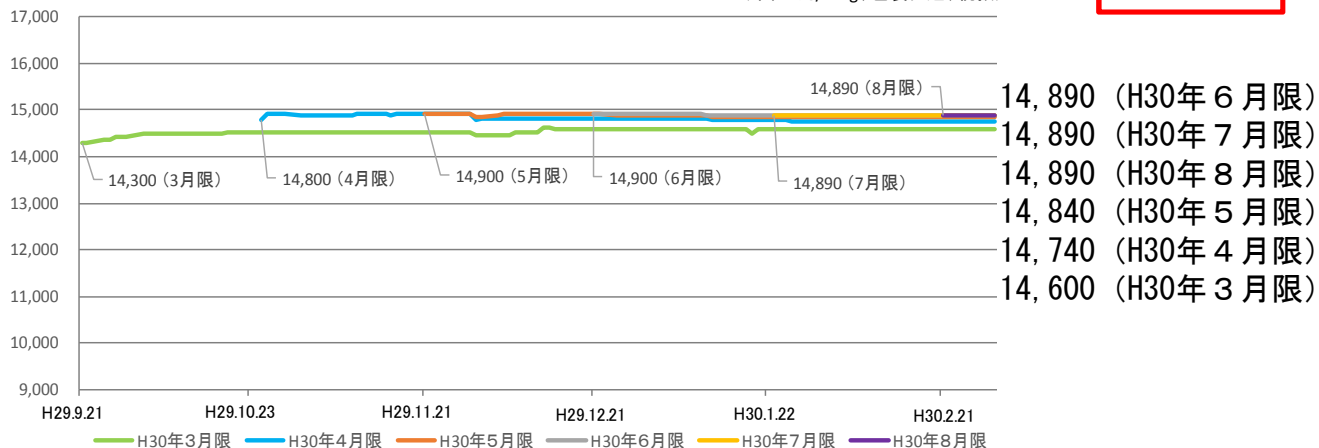
2 米の先物取引価格の推移

- 米の先物取引価格（3月2日）は、先月（2月2日）に比べ終値で、東京コメが±0円/60kg（3、4、5、6、7月限）、大阪コメが±0円/60kg（3月限）～+100円/60kg（7月限）、新潟コシが+230円/60kg（12月限）～+1,050円/60kg（4月限）。

①東京コメ

（単位：円/60kg、包装代込、税抜）

税抜価格



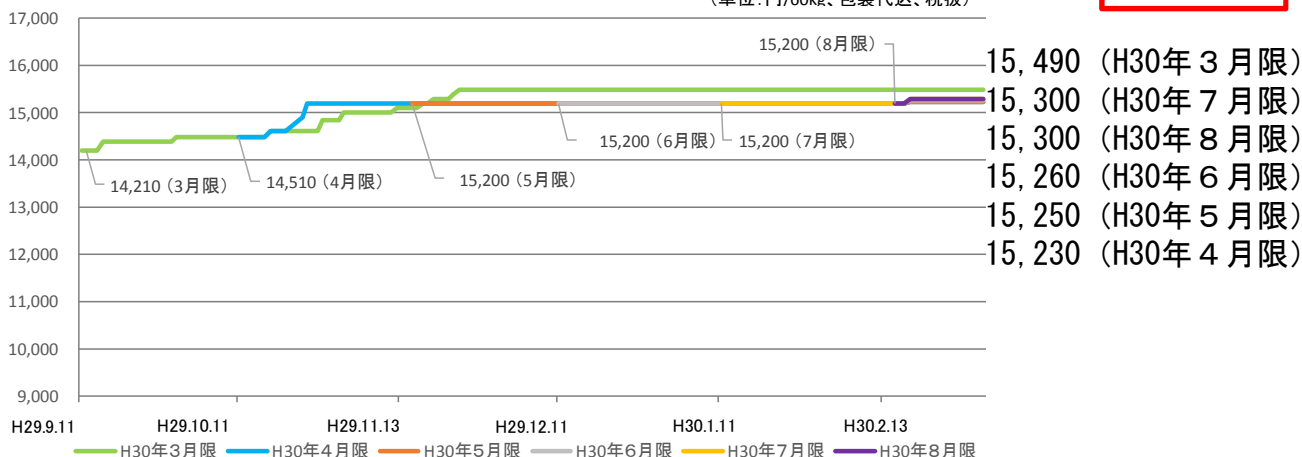
出典：大阪堂島商品取引所

注：平成29年9月21日から平成30年3月2日までの価格の推移である。

②大阪コメ

（単位：円/60kg、包装代込、税抜）

税抜価格



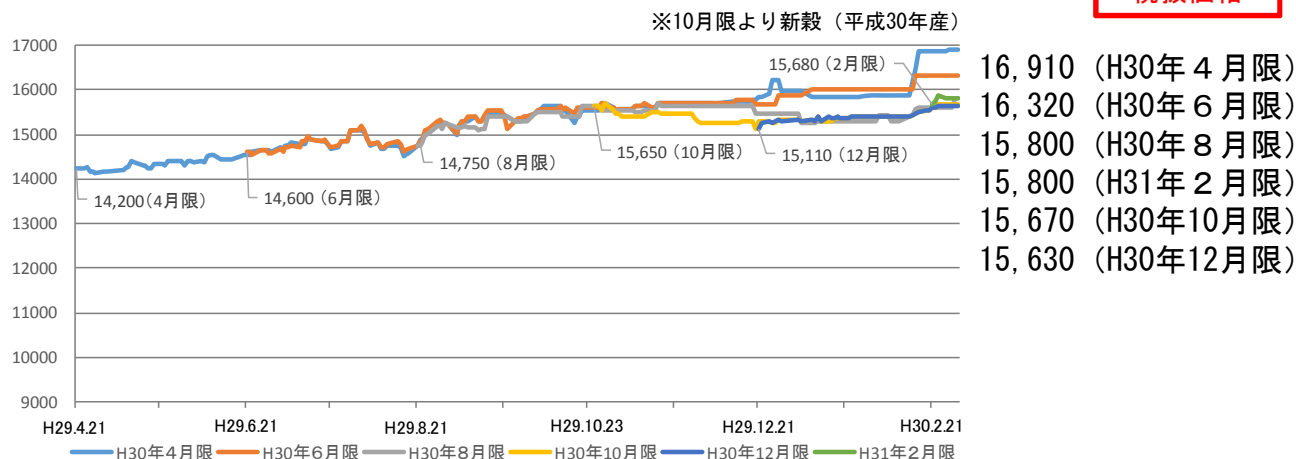
出典：大阪堂島商品取引所

注：平成29年9月11日から平成30年3月2日までの価格の推移である。

③新潟コシ

（単位：円/60kg、包装代込、税抜）

税抜価格



出典：大阪堂島商品取引所

注：平成29年4月21日から平成30年3月2日までの価格の推移である。

3 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成30年2月分)

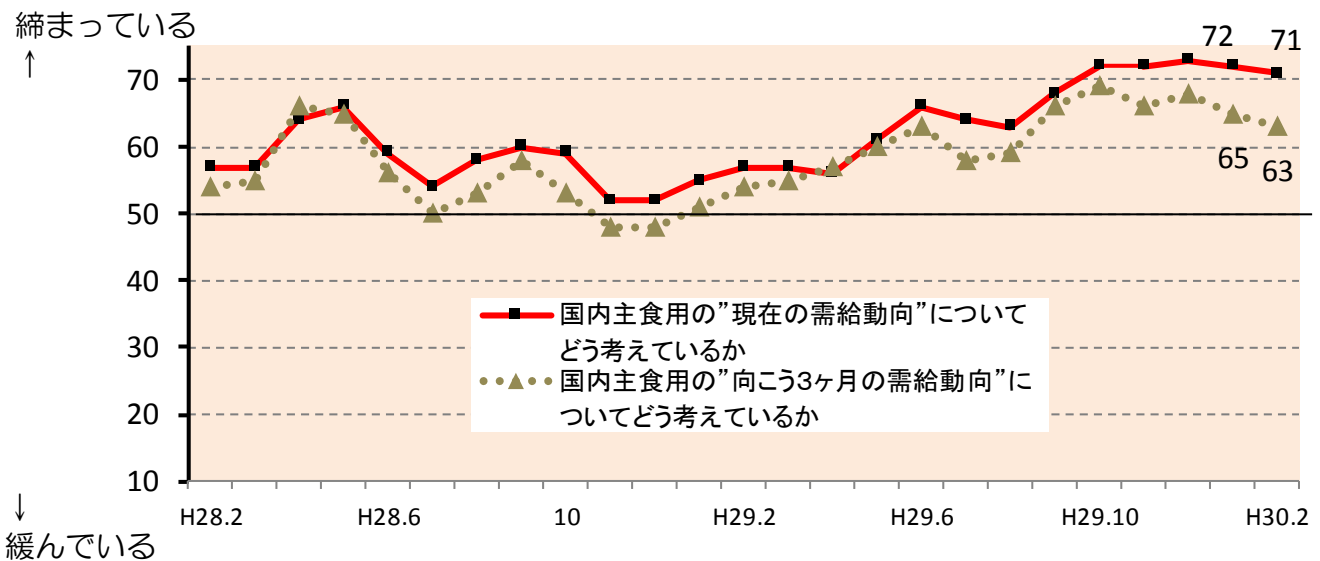
- 米穀機構が公表している米取引関係者の判断に関する調査(平成30年2月分)によると、主食用米の需給動向は、前月に比べ現状判断は▲1ポイント、見通し(向こう3ヶ月)判断は▲2ポイント。

国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

① 主食用米の需給動向

- (ア) 現状判断D I 前月からの増減 ▲ 1 (今月の数値 71)
 (イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月) 前月からの増減 ▲ 2 (今月の数値 63)

主食用米の需給動向



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来) 締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来) 緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

以上の他、「自社の取引状況に関する判断(業態ごと)」など
 詳細な情報は、米穀機構ホームページ(米ネット)を参照ください。
 【<http://www.komenet.jp/>】
 また、マンスリーレポート(資料編)にも掲載しております。

《アンケート方法等》

- 調査期間: 毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答
- 調査方法: 電子メールを利用したアンケート調査
- 調査対象者: 全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の164客体
- 有効回答数: 131客体
 - 生産者…………… 9
 - 集出荷業者/団体…………… 24
 - 卸売業者(主に主食用米) …… 29
 - 小売業者/中食・外食業者 …… 50
 - その他…………… 19

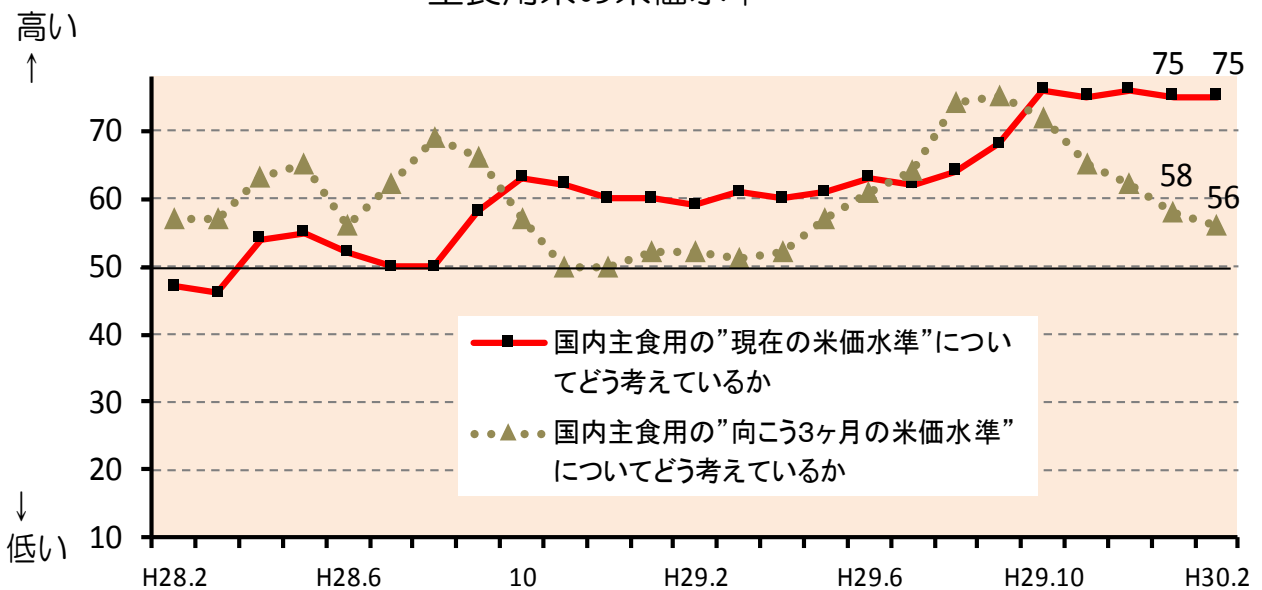
※「その他」は以下の業者です。
 ・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
 ・加工原材料米穀を使用し、加工食品(酒類を含む)を製造・販売する者

- 米価水準は、前月に比べ現状判断は±0ポイント、見通し（向こう3ヶ月）判断は▲2ポイント。

② 主食用米の米価水準

(ア) 現状判断D I	前月からの増減	±0	(今月の数値 75)
(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月)	前月からの増減	▲2	(今月の数値 56)

主食用米の米価水準



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

《利用上の注意》

○ 表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳が一致しないことがあります。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断(評価)にそれぞれ点数(評価点)を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じてDIを算出します。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ(量感)を表すものではありません。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが観測されることに注意が必要です。

《DIの算出例》

問: 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

Ⅳ 主食用米以外（輸出を含む）

1 29年産米の作付状況

- 平成29年産米の作付面積は、主食用米が137.0万ha、主食用米以外が約23万ha。
- 主食用米以外の取組は、新規需要米14.3万ha、加工用米5.2万ha、備蓄米3.5万ha。

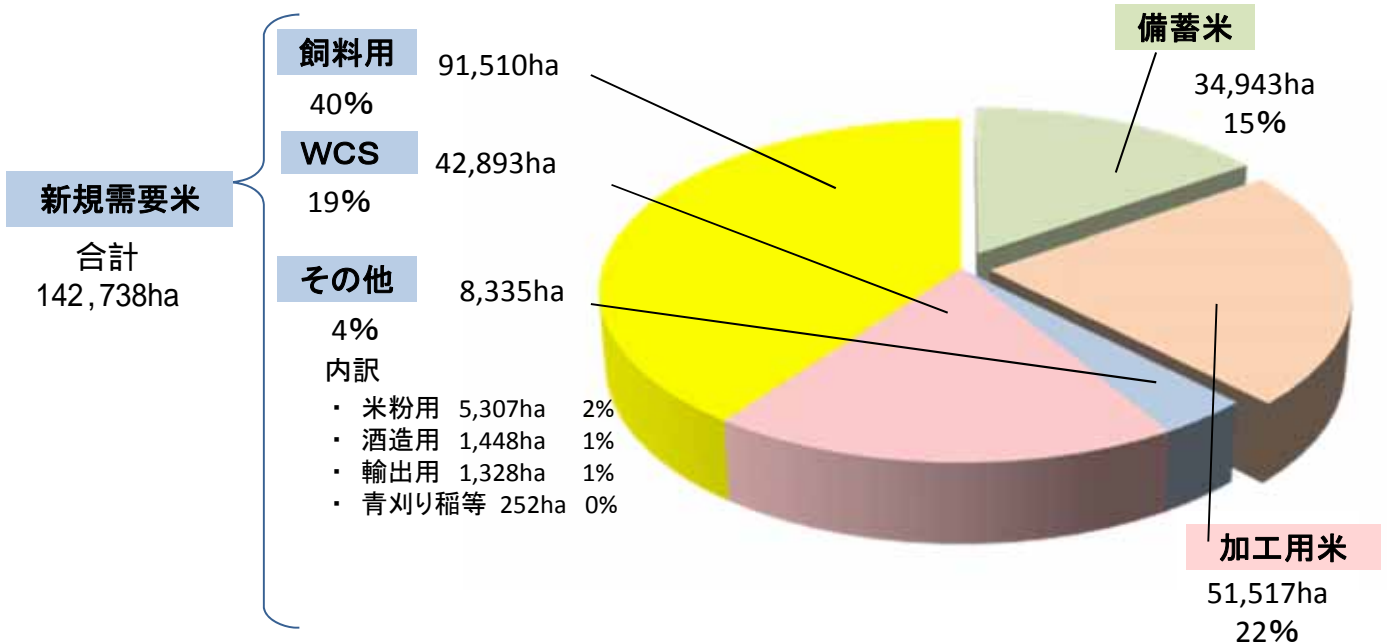
(1) 29年産米の用途別作付面積及び生産量

	計	主食用米	新規需要米	加工用米	備蓄米
作付面積（万ha）	160.0	137.0	14.3	5.2	3.5
生産量（万トン）		731	53	28	20

※主食用米の生産量は、農林水産省「平成29年産水稻の作付面積及び収穫量（12月5日現在）」の収穫量である。

※新規需要米のうちWCS、青刈り等、子実を持たないものは、生産量に計上していない

(2) 主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）



資料：農林水産省「新規需要米等の用途別認定状況の推移（認定計画版）」より

なお、備蓄米作付面積は、都道府県農業再生協議会からの29年度報告値。

注：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

(3) 新規需要米の用途別認定状況

	新規需要米（29年産）							
	飼料用	米粉用	輸出用	酒造用	稲発酵粗飼料稲	青刈り稲等	その他	
作付面積（ha）	142,738	91,510	5,307	1,328	1,448	42,893	241	11
計画生産量（t）	526,461	483,325	28,331	7,349	7,424			31

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況（認定計画版）」。

注1：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

2 加工用米及び新規需要米の取組状況概要

- 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成28米穀年度における使用量は対前年と同程度の約96万トン（推計）。
- 種類別には、うるち米が約77万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約8割。残りの約2割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米。
- 特定米穀の流通量の減少及び価格の上昇により、味噌を中心に、外国産原料への転換が見られたところ。

(1) 28米穀年度（平成27年11月～28年10月）における加工原材料用米穀の使用状況（推計）

＜うるち米＞ (単位:万トン)

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	13 (10)	9		3			25 (10)
米菓用	1	2		6	3	1	12
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	5	5					10
味噌用		1		6	2		9
焼酎用 (泡盛含む)		2		4	2		8
米穀粉用		1	2	1	3	1	8
その他用	1	1		2	1		4
合計	20	21	2	21	11	1	77

＜もち米＞ (単位:万トン)

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	3	2				2	8
米菓用	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	1						1
その他用						1	2
合計	6	5		1	2	5	19

- 注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。
 注2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米約8万トンを含んでいない。
 注3： 焼酎は単式蒸留しょうちゅう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。
 注4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。
 注5： 特定米穀とは、水稻収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。
 注6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

【推計根拠】

- 用途別の原料米使用量合計は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。
 清酒用・・・「清酒の製造状況等について」（国税庁）
 焼酎用・・・「課税移出数量」（国税庁）
 米菓用、米穀粉用、加工米飯用、味噌用、包装もち用、その他用・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量等
- 制度別の使用状況は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。
 主食用米・・・全国出荷団体等からの聞き取り。なお、酒造好適米は「酒造好適米の需要量調査」（農林水産省）等に基づく推計
 加工用米・・・「需要に応じた米生産の推進に関する要領」（農林水産省）に基づく報告
 新規需要米（米粉用米）・・・「米粉をめぐる状況について」（農林水産省）による利用量
 MA米（SBS含む）・・・「販売実績」（農林水産省）
 輸入米粉調製品・・・「貿易統計」（財務省）
 特定米穀・・・1で推計した用途別原料米使用量から主食用米、加工用米、新規需要米（米粉用米）、MA米及び輸入米粉調製品を差し引いた数量

(2) 加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移

＜うるち米＞

(単位:万トン)

用途	米穀年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	26	11 (8)	9		4			24 (8)
	27	12 (9)	10		3			25 (9)
	28	13 (10)	9		3			25 (10)
米菓用	26	1	1		5	3	2	12
	27	1	2		7	2	1	13
	28	1	2		6	3	1	12
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26	5	5					10
	27	5	5					10
	28	5	5					10
味噌用	26		1		3	6		10
	27		1		7	1		9
	28		1		6	2		9
焼酎用 (泡盛含む)	26				6	3		9
	27		1		5	2		8
	28		2		4	2		8
米穀粉用	26		1	3	1	2	1	8
	27		1	2	2	2	1	8
	28		1	2	1	3	1	8
その他用	26	1			2	1		4
	27	1			2	1		4
	28	1	1		2	1		4
合計	26	18	18	3	21	14	3	77
	27	18	22	2	24	9	2	77
	28	20	21	2	21	11	1	77

＜もち米＞

(単位:万トン)

用途	米穀年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
包装もち用	26	3	1			1	2	7
	27	3	2				2	7
	28	3	2				2	8
米菓用	26	2	1			1	2	6
	27	2	1		1	1	2	6
	28	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	26	1					1	3
	27	1					1	3
	28	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26							1
	27	1						1
	28	1						1
その他用	26						2	2
	27						1	2
	28						1	2
合計	26	7	3		1	2	7	19
	27	7	4		1	1	6	19
	28	6	5		1	2	5	19

注1: 清酒用の()書きは、酒造好適米で内数。

2: 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米を含んでいない。

3: 焼酎は単式蒸留しょうちゆう(穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの(酒税法第3条第10号))であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

4: その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

5: 特定米穀とは、水稻収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75~1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米(一般的に「くず米」と呼ばれているもの)の総称。

6: ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

3 飼料用米の需要量

- 畜産側の平成30年産に係る飼料用米の需要量は、約120万トン。
 - ① 全農グループ飼料会社：年間約56万トン（米使用可能数量約82万トンのうちMA米・備蓄米含まない数量）
 - ② (協)日本飼料工業会組合員工場：年間約42万トン～62万トン（MA米・備蓄米を含まない数量）
 - ③ 全国酪農農業協同組合連合会の年間使用可能数量は、約1万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
 - ④ 日本養鶏連の年間使用量は、約4万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
 - ⑤ 畜産農家の新規需要量：64件、約2万トン（平成29年12月25日現在の報告分。追加情報は随時更新）
- 上記の地域別内訳、問い合わせ先は以下のとおり。

① 全農グループ飼料会社の飼料用米の使用可能数量（平成30年1月現在）

地区	年間使用可能数量 (千トン)	備考
北海道	88	ホクレンくみあい飼料
東北	217	J A全農北日本くみあい飼料
関東	146	J A東日本くみあい飼料・科学飼料研究所
北陸	30	J A東日本くみあい飼料
東海	46	//
近畿・中国	46	J A西日本くみあい飼料
四国	32	//
北九州	49	ジェイエイ北九州くみあい飼料
南九州	162	南日本くみあい飼料・科学飼料研究所
合計	817	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等により制限される可能性がある。

※問い合わせ先：JA全農 耕種総合対策部飼料用米対策課 TEL:03-6271-8279

② 日本飼料工業会組合員の工場の飼料用米需要量見込み（平成30年1月調査）

地区	需要量 (千トン：単年度)	備考
北海道	14～36	
東北	114～155	
関東	107～117	
中部	44～49	
関西	55～82	
九州	84～177	
合計	418～618	

注1) 輸入トウモロコシ価格以下であることが前提、価格水準により需要量は変動する。

注2) 上記の需要量には、MA米、備蓄米は含まない。

注3) 四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※(協)日本飼料工業会は「飼料用米ダイヤル」を設置し、飼料用米を生産して売りたい産地の生産者や集荷業者、JA、飼料用米を使用したい傘下の全国の飼料メーカー（工場）との仲介を実施。

※問い合わせ先：「飼料用米ダイヤル」TEL:03-3583-8031 E-mail:Esamai@jafma.or.jp

③ 全国酪農農業協同組合連合会の飼料用米の使用可能数量（平成30年1月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン)	備考
北海道	9.8	政府所有米穀(MA米)使用
東北	2.0	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
関東	1.2	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
中部	0.4	新規需要米使用
関西	1.0	政府所有米穀(MA米)と新規需要米併用
九州	0.0	原料タンクの調整が必要
合計	14.4	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先：全国酪農農業協同組合連合会 購買部飼料製造課 TEL:03-5931-8007

④ 日本養鶏連の飼料用米の使用可能数量（平成30年1月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン：単年度)	備考
北海道	0.0	
東北	0.5	*粳米、不可
関東	1.5	
北陸	0.0	
東海	1.2	
近畿・中国	6.0	*粳米、不可
四国	0.0	
九州	26.0	*一部、粳米不可
合計	35.2	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。

※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先：日本養鶏連 事業部 TEL:03-5296-7041

⑤ 畜産農家の平成30年産飼料用米の新規需要量（平成29年12月25日現在）

都道府県	新規需要量	
	件数	数量（トン）
岩手県	7	2,153
宮城県	1	2,400
茨城県	3	30
群馬県	2	250
埼玉県	1	1
千葉県	7	6,983
山梨県	8	53
長野県	10	819
静岡県	1	5
愛知県	2	220
大阪府	2	12
奈良県	5	1,610
広島県	1	200
香川県	4	110
福岡県	3	1,462
長崎県	3	280
大分県	2	2,020
宮崎県	2	2,254
合計	64	20,862

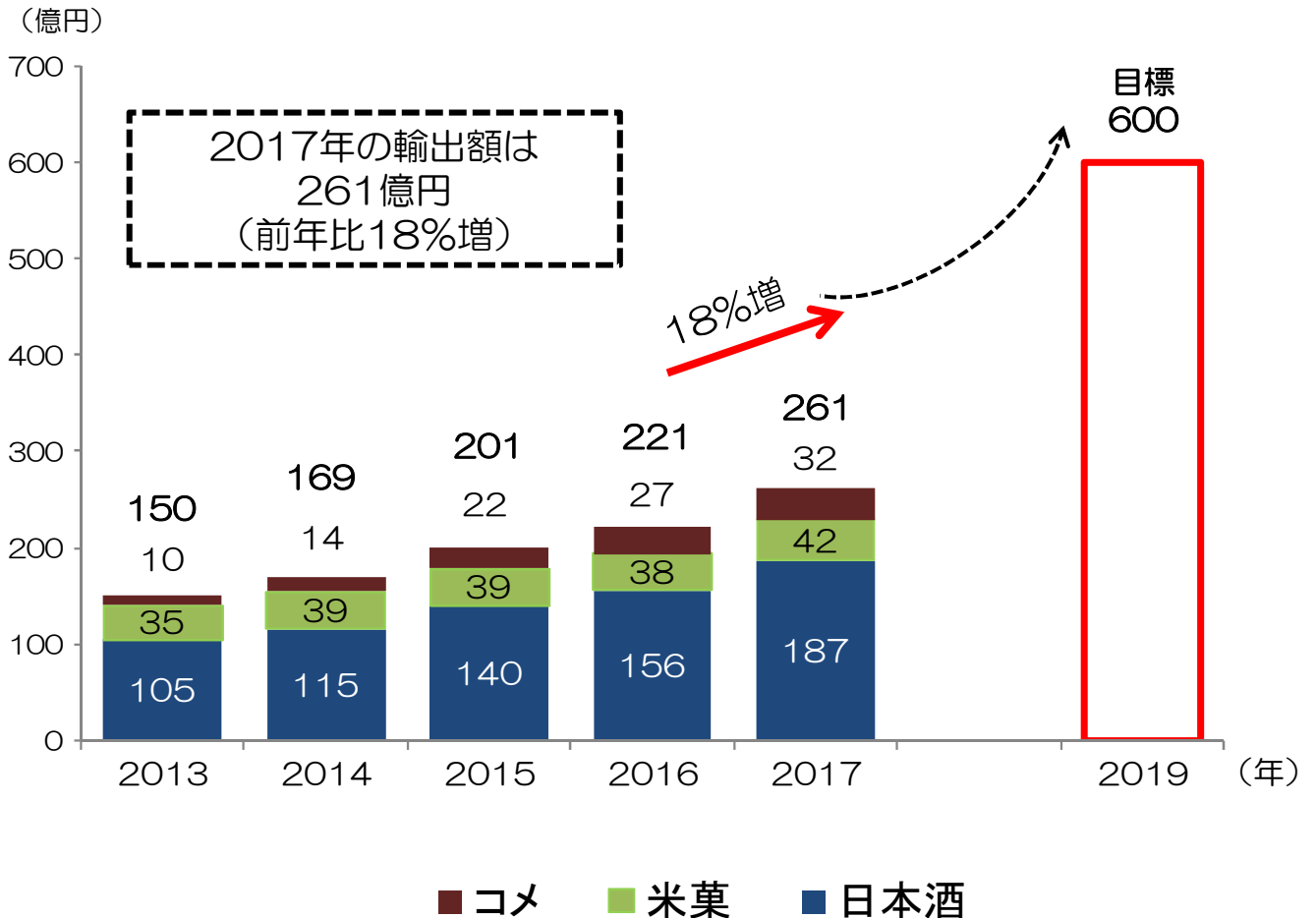
※供給先が確保されていない新たな需要及びマッチング状況について、都道府県から報告のあった件数・数量を記載

※問い合わせ先：生産局畜産部飼料課 TEL:03-3502-5993

4 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について

- 「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を2020年（平成32年）までに600億円とすることが決定。
- 2020年（平成32年）の輸出額1兆円目標について、「未来への投資を実現する経済対策」（平成28年8月決定）において、平成31年に1年前倒しすることとされ、オールジャパンでの輸出拡大を推進。
- 2017年の輸出額は、261億円（前年比18%増）。

コメ・コメ加工品の輸出状況



コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額

	日本酒		米菓		コメ	
	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
2013年	16,202	10,524	3,606	3,487	3,121	1,030
2014年	16,314	11,507	4,012	3,944	4,516	1,428
2015年	18,180	14,011	3,679	3,869	7,640	2,234
2016年	19,737	15,581	3,567	3,808	9,986	2,709
2017年	23,482	18,679	3,849	4,186	11,841	3,198

資料：財務省「貿易統計」（政府による食料援助を除く。）

注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

5 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

2020年に向けた輸出額目標

「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を600億円とすることとしている。

輸出拡大に向けた対応方向

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、精米だけでなく、包装米飯・日本酒・米菓も含めたコメ加工品の輸出に力を入れることとしている。

【コメ（包装米飯含む）】

現地での精米の取組や炊飯ロボットと合わせた外食への販売など、日本米のプレゼンスを高める取組を推進。

重点国

新興市場：台湾、豪州、EU、ロシア、中国、米国等

安定市場：香港、シンガポール



【米菓】

相手国のニーズに合った商品の開発、手軽なスナックとしてのプロモーション強化。

重点国

新興市場：中東、中国、EU

安定市場：台湾、香港、シンガポール、米国



【日本酒】

発信力の高い都市や重点市場でのイベント・事業を実施するほか、セミナー等を通じて、日本酒の良さについて普及。日本酒の生産増に対応した酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

重点国

新興市場：EU、台湾、中国、ブラジル、ロシア、韓国

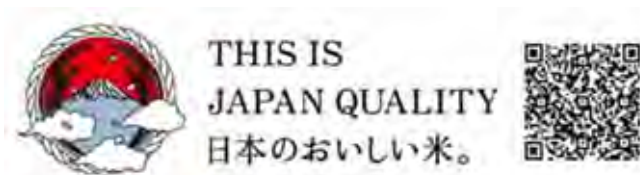
安定市場：米国、香港



輸出拡大に向けた取組

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、他の品目に先がけて、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）を平成26年11月27日に立ち上げ、統一ロゴマークの開発・発表、海外でのPRイベント等を開催。

日本産米輸出の統一ロゴマーク



（注）QRコードから、日本産米のPR映像が流れるHPへリンク

V 支援事業等

(1) 水田活用の直接支払交付金

- 水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米等の作物を生産する農業者に対して交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力を向上。

水田活用の直接支払交付金(1)

【平成30年度予算概算決定額:3,304(3,150)億円】

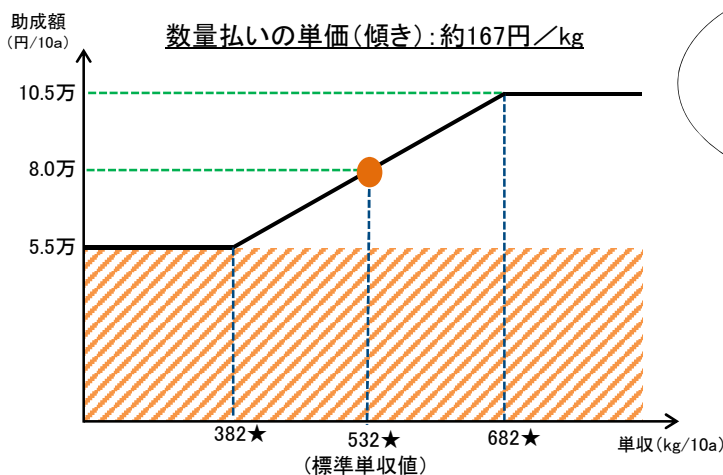
(1) 支援内容

① 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a
WCS用稲	8.0万円/10a
加工用米	2.0万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 5.5万円～10.5万円/10a

※ 子実用とうもろこし(飼料用)を含む

<飼料用米、米粉用米の交付単価のイメージ>



- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量確認を受けていることを条件とします。
- ★は全国平均の平年単収(標準単収値)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収(配分単収)を適用します。なお、各地域における標準単収値を当年産の作柄(作柄表示地帯別)に応じて調整します。

<標準単収値の作柄調整の考え方>

$$\text{標準単収値} = \text{配分単収} \times \frac{\text{当年産のふるい目1.70mm以上の10アール当たり収量}}{\text{ふるい目1.70mm以上の10アール当たり平年収量}}$$

(小数点以下切り上げ)

水田活用の直接支払交付金(2)

② 産地交付金

- 地域の作物振興の設計図となる「水田フル活用ビジョン」に基づき、高付加価値化や低コスト化を図りながら、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、地域の裁量で活用可能な産地交付金により、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援
- また、取組に応じた配分(下表参照)を都道府県に対して行う

対象作物	取組内容	配分単価
飼料用米、米粉用米	多収品種への取組	1.2万円/10a
加工用米	複数年契約(3年間)の取組 ※継続分のみ。	1.2万円/10a
そば、なたね	作付の取組 ※基幹作のみ。	2.0万円/10a

上記のほか、以下の取組に応じた配分を都道府県に対して行う

- ① 転換作物拡大(1.0万円/10a)
前年度実績よりも転換作物が拡大し、主食用米の作付面積が減少した場合に、その面積に応じて配分
- ② コメの新市場開拓(2.0万円/10a)
内外の新市場の開拓を図る米穀の作付面積に応じて配分
- ③ 畑地化(10.5万円/10a)
水田の畑地化面積(交付対象水田からの除外面積)に応じて配分

水田活用の直接支払交付金の支払面積等(1)

- 支払対象者数は45万7千件で、平成27年度の支払実績と比べて2万1千件減少。
- 支払面積は、戦略作物全体では57万8千haと、平成27年度に比べて2万4千ha増加。
- 作物別には、
 - (ア) 麦は、北海道、九州地方を中心に作付けがやや増加し、2千ha増の17万2千ha
 - (イ) 大豆は、北海道、東北、北陸地方及び熊本県で作付けが増加し、3千ha増の11万6千ha
 - (ウ) 飼料作物は、東北、九州地方を中心に作付けがやや増加、2千ha増の10万5千ha。
 - (エ) 新規需要米（WCS用稲、米粉用米、飼料用米）は、主食用米からの転換が全国的に進み、米粉用米を除いて作付けが増加、1万4千ha増の13万5千ha。
 - (オ) 加工用米は、4千ha増の5万ha。

(1) 水田活用の直接支払交付金の支払対象者数

	支払対象者数 (件)	支払対象者		
		個人	法人	集落営農
平成28年度	457,225	440,118	11,037	6,070
平成27年度	478,293	461,858	9,931	6,504
対前年度比較	▲ 21,068	▲ 21,740	+ 1,106	▲ 434

(2) 水田活用の直接支払交付金における戦略作物の支払面積

① 基幹作物＋二毛作物

(単位: ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)		
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね	備蓄米
平成28年度	172,305	115,734	104,943	135,371	41,106	3,501	90,764	49,981	578,334	35,551	792	39,333
平成27年度	170,590	113,016	103,234	121,533	37,860	4,206	79,467	46,157	554,529	34,125	585	43,771
対前年度比較	+ 1,715	+ 2,718	+ 1,709	+ 13,839	+ 3,246	▲ 705	+ 11,298	+ 3,824	+ 23,805	+ 1,426	+ 207	▲ 4,438

② 基幹作物

(単位: ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	99,365	87,941	72,441	135,370	41,105	3,501	90,764	47,817	442,935	26,038	649
平成27年度	98,950	85,805	72,176	121,528	37,860	4,206	79,462	44,098	422,556	25,019	471
対前年度比較	+ 416	+ 2,136	+ 265	+ 13,843	+ 3,246	▲ 705	+ 11,302	+ 3,719	+ 20,379	+ 1,019	+ 178

③ 二毛作物

(単位: ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	72,939	27,793	32,502	1	1	—	0	2,165	135,399	9,513	142
平成27年度	71,640	27,211	31,057	5	—	—	5	2,059	131,973	9,106	114
対前年度比較	+ 1,299	+ 582	+ 1,445	▲ 4	+ 1	—	▲ 5	+ 105	+ 3,427	+ 407	+ 29

水田活用の直接支払交付金の支払面積等(2)

- 平成26年度から導入した米粉用米及び飼料用米の数量払い分の対象面積、数量、平均単収については、
 - (ア) 米粉用米では、3千5百ha（7百ha減）、1万9千トン（4千トン減）542kg/10a。
 - (イ) 飼料用米では、8万9千ha（1万1千ha増）、49万6千トン（6万4千トン増）、558kg/10a。

(3) 米粉用米、飼料用米(数量払い分)の支払面積、支払数量、平均単収

	米粉用米			飼料用米		
	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)
平成28年度	3,487	18,896	542	88,900	496,017	558
平成27年度	4,180	22,519	539	77,731	431,696	555
対前年度比較	▲ 693	▲ 3,623	+ 3	+ 11,168	+ 64,321	+ 3

注) 飼料用米等の数量払いは平成26年度から実施している。面積は、数量払いで交付した面積であるため、前記戦略作物の支払面積と異なっている。数量は、農産物検査機関による数量確認を受けた数量、単収は上記「数量」/「面積」により算定。数量払いの実績には、農産物検査を受けていない取組及び飼料用米を生もみで出荷又は利用する取組の面積及び数量は含まない。

(4) 耕畜連携助成の支払面積

(単位:ha)

	飼料用米 のわら 利用	水田放牧	資源循環 の取組	合計
平成28年度	23,055	1,298	28,208	52,560
平成27年度	19,866	1,299	25,636	46,800
対前年度比較	+ 3,189	▲ 1	+ 2,572	+ 5,760

米の直接支払交付金の支払面積等

- 支払対象者数は77万8千件で、平成27年度に比べて4万2千件減少。
- 支払面積は94万4千ha（10a控除前：102万6千ha）で、平成27年度に比べて9千ha減少。

(5) 米の直接支払交付金の支払対象者数、支払面積

	支払対象者数 (件)				支払面積 (ha)	(参考)
		個人	法人	集落営農		支払面積 10a控除前 (ha)
平成28年度	778,026	765,175	8,651	4,200	943,757	1,026,079
平成27年度	820,373	808,023	7,806	4,544	953,064	1,039,251
対前年度比較	▲ 42,347	▲ 42,848	+ 845	▲ 344	▲ 9,307	▲ 13,172

(2) 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

- 諸外国との生産条件の格差により不利がある国産農産物（麦、大豆等）について、引き続き生産コストと販売額の差に相当する額を直接交付。

畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【平成30年度予算概算決定額： 2,065(1,950)億円】

(1) 支援内容（数量払）

① 麦類

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (ハフ・中華麺用品種:60kg当たり)	8,990円	8,490円	8,340円	8,280円	7,830円	7,330円	7,180円	7,120円
小麦 (上記品種以外:60kg当たり)	6,690円	6,190円	6,040円	5,980円	5,530円	5,030円	4,880円	4,820円
二条大麦 (50kg当たり)	5,520円	5,100円	4,980円	4,930円	4,660円	4,240円	4,110円	4,060円
六条大麦 (50kg当たり)	6,000円	5,580円	5,450円	5,400円	4,970円	4,550円	4,430円	4,380円
はだか麦 (60kg当たり)	8,610円	8,110円	7,960円	7,870円	7,040円	6,540円	6,390円	6,310円

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分。A~Dランク:たんばく質の含有率等の違いで区分

② 大豆

品質区分(等級)	1等	2等	3等
普通大豆(60kg当たり)	9,940円	9,250円	8,570円
特定加工用大豆(60kg当たり)	7,890円		

特定加工用:豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆

③ そば

品質区分(等級)	1等	2等
45kg当たり	17,470円	15,360円

等級:容積重の違いや被害粒の割合で区分

④ なたね

品質区分(品種)	キザキノナタネ キラリボシ ナナシキブ	その他の 品種
60kg当たり	9,940円	9,200円

⑤ てん菜

品質区分(糖度)	← (+0.1度)	16.3度	→ (▲0.1度)
1t当たり	+ 62円	7,180円	▲ 62円

糖度:てん菜の重量に対するショ糖の含有量

⑥ でん粉原料用ばれいしょ

品質区分 (でん粉含有率)	← (+0.1%)	19.5%	→ (▲0.1%)
1t当たり	+ 64円	11,610円	▲ 64円

でん粉含有率:ばれいしょの重量に対するでん粉の含有量

(2) 支援内容（面積払（営農継続支払））

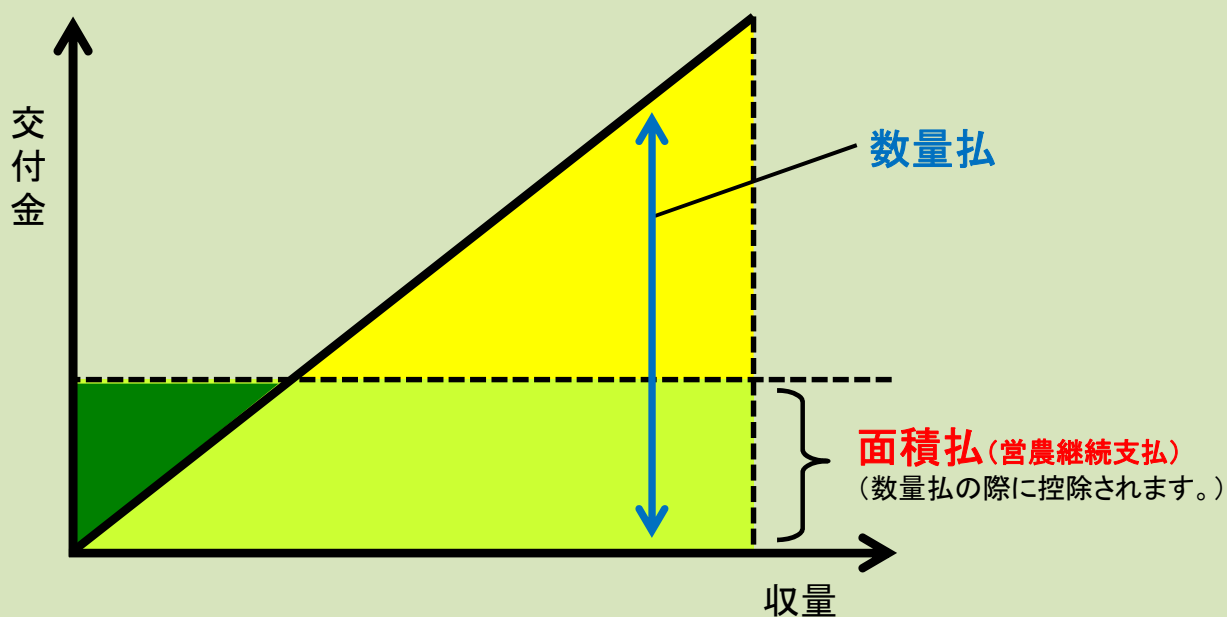
① 交付対象面積

当年産の作付面積に応じて交付

② 交付単価

10aあたり2万円
※「そば」は、10aあたり1万3千円

③ 数量払と面積払（営農継続支払）の関係



交付対象者

※ 交付対象者に変更ありません。

認定農業者、集落営農、認定新規就農者
(いずれも規模要件は課しません。)

対象作物

麦、大豆、そば、なたね
てん菜、でん粉原料用ばれいしょ(北海道産のみ)
(ビール用麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象外)

(3) 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）

米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)

【平成30年度予算概算決定額：746(746)億円(所要額)】

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）は、農家抛出を伴う経営に着目したセーフティネットであり、米及び畑作物の農業収入全体の減少による影響を緩和するための保険的制度です。

(1) 交付対象者

支援の対象となる農業者は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者です（いずれも規模要件はありません）。

※ 集落営農の要件は、2要件（組織の規約の作成、対象作物の共同販売経理の実施）に緩和し、「農業経営の法人化」及び「地域における農地利用の集積」については、市町村が確実に行われると判断するものとします。

(2) 対象農産物

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょです。

- ※1 ビール麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象となりません。
- ※2 てん菜、でん粉原料用ばれいしょは、北海道で生産されるものが対象です。

【10a当たり標準的収入額とは】

通常年に想定される収入額として、前年産以前5か年の収入額のうち、最高年と最低年を除いた3か年の平均収入額で、品目ごと、地域ごとに計算しています。各年産の収入額は、米であれば、地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、地域の実単収を乗じて算出します。

【10a当たり当年産収入額とは】

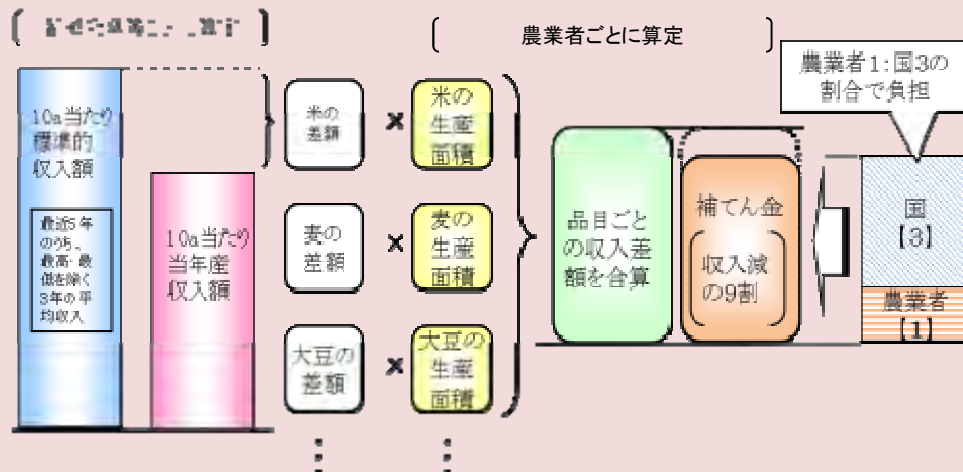
当年産の収入額として、品目ごと、地域ごとに計算しています。当年産の収入額は、米であれば、当年産の地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、当年産の地域の実単収を乗じて算出します。

(3) ナラシ対策の仕組み

- 農業者の米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 0.9$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。
- このため、補てんを受けるには、農業者からの積立金の抛出が必要となります。
- 補てん後の積立金の残額は、翌年産へ繰り越されるため、掛け捨てとはなりません。



(参考) 平成28年産ナラシ対策の支払い実績 (平成29年8月31日現在)

全 国 都 道 府 県			加入件数 (件)	支払件数 (件)	補てん総額 (億円)	(参考1) ※ 米の10a当たり 補てん単価 (円/10a)	(参考2) ※ 米加入面積10haの 場合の補てん額の推計 (万円)
全 国			106,991	57,064	178.65		
北 海 道			19,529	14,857	100.47	0	0
東 北	青 森 県		5,082	24	0.02	0	0
	岩 手 県		3,329	3,125	4.73	3,010	30
	宮 城 県		4,291	4,102	5.89	386	3
	秋 田 県		8,602	188	0.32	0	0
	山 形 県		7,597	1	0.00	0	0
福 島 県		4,878	4,717	0.48	149	1	
関 東	茨 城 県		3,140	2,988	3.40	3,612	36
	栃 木 県		5,230	874	1.32	0	0
	群 馬 県		943	302	0.62	0	0
	埼 玉 県		1,252	1,193	0.70	886	8
	千 葉 県		1,088	1,064	0.46	713	7
	東 京 都		3	3	0.00	1,101	11
	神 奈 川 県		125	124	0.03	1,806	18
	山 梨 県		129	116	0.09	3,849	38
	長 野 県		1,429	1,351	3.10	2,989	29
静 岡 県		326	321	0.78	3,099	30	
北 陸	新 潟 県		12,546	4,140	4.58	0	0
	富 山 県		1,506	377	2.53	0	0
	石 川 県		1,783	1,672	0.93	567	5
	福 井 県		1,163	194	0.12	0	0
東 海	岐 阜 県		663	642	3.46	2,485	24
	愛 知 県		614	463	3.44	145	1
	三 重 県		919	446	2.07	0	0
近 畿	滋 賀 県		2,324	2,291	7.42	2,472	24
	京 都 府		325	298	0.14	1,297	12
	大 阪 府		31	30	0.00	270	2
	兵 庫 県		1,109	860	0.75	2,405	24
	奈 良 県		91	80	0.09	8,366	83
	和 歌 山 県		73	0	0.00	0	0
中 国 ・ 四 国	鳥 取 県		399	380	0.99	3,693	36
	島 根 県		719	98	0.20	0	0
	岡 山 県		858	50	0.15	0	0
	広 島 県		516	32	0.06	0	0
	山 口 県		827	769	0.80	538	5
	徳 島 県		160	10	0.01	0	0
	香 川 県		626	591	0.87	670	6
	愛 媛 県		628	601	0.98	4,151	41
	高 知 県		264	222	0.03	1,469	14
九 州	福 岡 県		2,084	1,282	7.76	0	0
	佐 賀 県		1,573	1,538	14.14	4,380	43
	長 崎 県		753	698	0.20	62	0
	熊 本 県		3,422	1,586	2.31	0	0
	大 分 県		1,353	515	1.36	0	0
	宮 崎 県		1,702	1,512	0.77	2,073	20
鹿 児 島 県		887	337	0.10	0	0	
沖 縄 県		100	0	0.00	0	0	

(注1) 加入件数は、平成28年7月31日時点(熊本県は9月末時点)の積立金納付者の件数である。

(注2) 支払件数及び補てん総額は、平成29年8月31日時点の数値である。

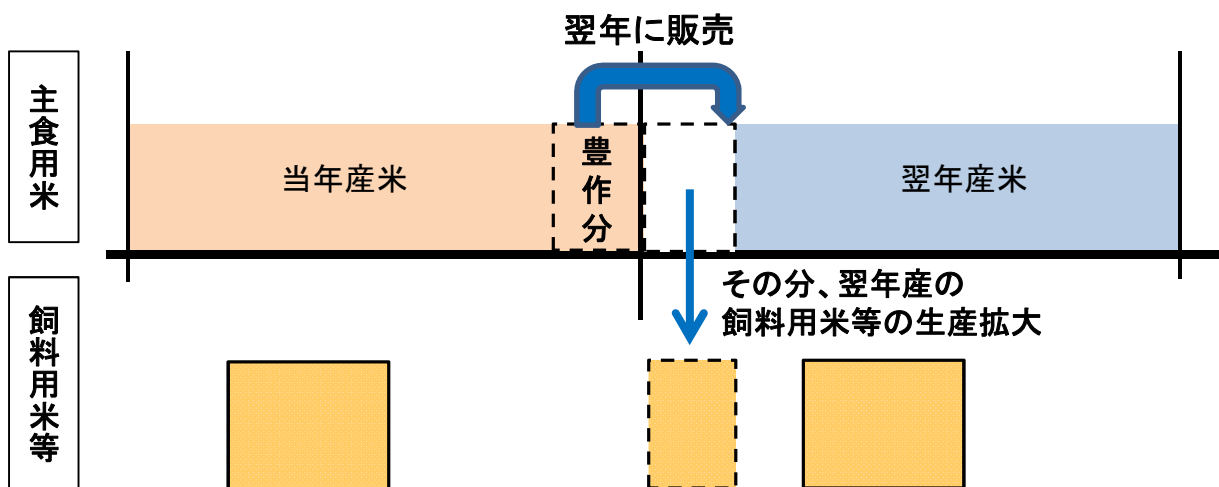
(注3) ラウンドの関係で合計数値は一致しない場合がある。

※ 米の10a当たり補てん単価及び米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、20%コースの場合。米のみで試算したものであり、実際の支払では、麦・大豆等との合算相殺がある。また、(参考2)の米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、表記上、1万円未満は切り捨てている。

(4) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

① 主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：30年度予算概算決定額50億円（対前年同額））
- 平成30年産に向けては、必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。
（水田活用の直接支払交付金：30年度予算概算決定額 3,304億円（対前年+154億円））



② 米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

- 業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催に対して支援。
- 産地の自主的な取組により、需要に応じた生産・販売が行われる環境整備を図る観点から、気象の影響等により必要が生じた場合には、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施する体制を構築していくことが必要。
- あらかじめ生産者等が積立てを行い、産地の取組を実施する場合に国も一定の支援。

全国事業

業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催支援(定額)

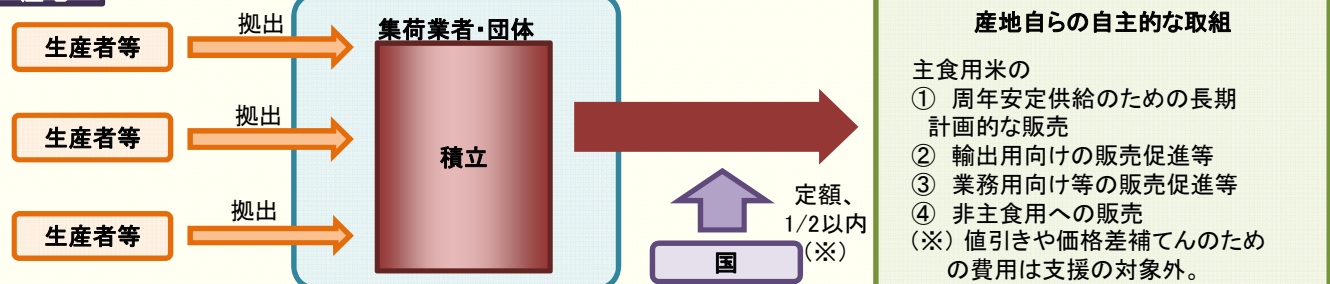
〔業務用米取引セミナー〕

〔展示商談会〕

民間団体が行う業務用米の生産・流通の拡大に向けたセミナー、展示商談会を支援。
→ 生産者と実需者の連携(マッチング)促進による安定供給の拡大



産地



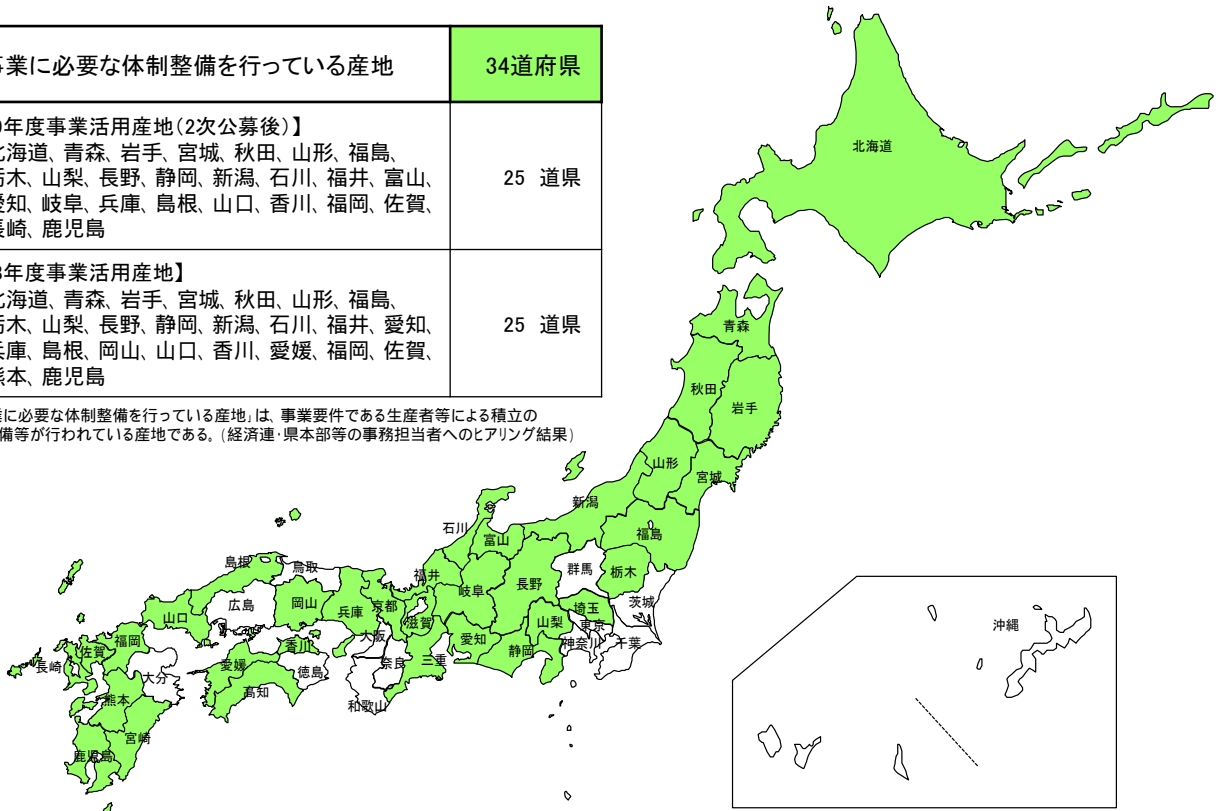
また、取引参加者の利便性を向上させるため、現物市場が共同でシステムの開発・導入を行う場合等に支援。

③ 米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備状況

- 米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備は、34道府県で行われている状況。
- 各産地の事業の活用状況は、平成27年度17道県（18事業者）、平成28年度25道県（27事業者）、平成29年度25道県（27事業者）が活用。
- 出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続・推進。

事業に必要な体制整備を行っている産地	34道府県
【29年度事業活用産地(2次公募後)】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、 栃木、山梨、長野、静岡、新潟、石川、福井、富山、 愛知、岐阜、兵庫、島根、山口、香川、福岡、佐賀、 長崎、鹿児島	25 道県
【28年度事業活用産地】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、 栃木、山梨、長野、静岡、新潟、石川、福井、愛知、 兵庫、島根、岡山、山口、香川、愛媛、福岡、佐賀、 熊本、鹿児島	25 道県

注) 「事業に必要な体制整備を行っている産地」は、事業要件である生産者等による種立の体制整備等が行われている産地である。(経済連・県本部等の事務担当者へのヒアリング結果)



主な産地	これまでの主な取組概要
北海道	<p>【長期計画的販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外向け北海道米PRパンフレットの作成配布 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> キャラクター(マツコ・デラックス)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「ゆめぴりか」のPR 認知度向上に向けた情報収集、データ分析による販路拡大手法の検討
秋田	<p>【長期計画的な販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> キャラクター(小芝 風花)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「あきたこまち」のPR 食味分析データを用いた販売促進パンフレットの作成配布 外食事業者等が参加する各種商談会での試食等の実施
山形	<p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外百貨店等での「つや姫」、「はえぬき」PRキャンペーンの開催 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> キャラクター(V6 長野 博)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「はえぬき」のPR 販路拡大に向けたコンサルティング活動
新潟	<p>【長期計画的な販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種メディアを活用した新潟県産米のPR JRエキナカ店舗との連携による販売促進活動の実施 インターネット調査による新潟県産米の認知度・消費者ニーズ等の把握
石川	<p>【長期計画的販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地市場等調査による実需者ニーズの把握や石川県産米パンフレットの作成配布 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種メディアを活用した石川県産米のPR 毎月2日を「おにぎりの日」に制定し、これを起点にした試食イベント等の開催

(5) コメ海外市場拡大戦略プロジェクト（平成29年9月8日公表）

我が国のコメの消費量が毎年約8万トン減少していく中で、食料自給率・食料自給力の向上や米農家の所得向上を図っていくためには、海外市場に積極的に進出し、輸出を拡大していくことが喫緊の課題。

→ コメ・コメ加工品の輸出目標「600億円」の目標年次である平成31年に向け、コメの輸出量を飛躍的に拡大するため、戦略的に輸出に取り組む関係者を特定し、それらが連携した個別具体的な取組を強力に後押しする。

(1) 戦略的輸出事業者

平成31年に向けた飛躍的な輸出目標を掲げ、コメ輸出の戦略的な拡大に取り組む輸出事業者を「戦略的輸出事業者」として特定。



「戦略的輸出事業者」と連携して、輸出用米の安定的な生産に取り組む「戦略的輸出基地」づくりを推進

「戦略的輸出事業者」と連携したプロモーション等により、輸出先国における日本産米の需要を拡大

産地と事業者の結びつきの強化・拡大

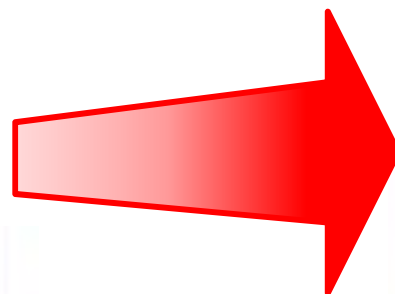
連携したプロモーション等の実施

(2) 戦略的輸出基地（産地）

輸出産地としての取組方針を掲げ、輸出用米の安定的な生産に取り組む産地（法人・団体）を「戦略的輸出基地」として特定。



コメ輸出の飛躍的拡大



目標：10万トン^(※)

(3) 戦略的輸出ターゲット国

「戦略的輸出事業者」が輸出を拡大する国を中心に、重点的にプロモーション等を行う「戦略的輸出ターゲット国」を特定。

→ 中国、香港、シンガポール、米国、EU等



(※) 米菓・日本酒等の原料米換算分を含む。

「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」の参加状況について

○ 本プロジェクトの参加状況

平成30年2月28日時点の戦略的輸出事業者及び戦略的輸出基地の参加状況は以下のとおりとなっています。

(ア)戦略的輸出事業者 51事業者（目標数量合計 13.3万トン※）

(イ)戦略的輸出基地

- (1)団体・法人 221産地
- (2)都道府県単位の集荷団体等 20団体
（(1)以外の産地も含めた取組を推進する都道府県単位の団体等）
- (3)全国単位の集荷団体等 1団体
（(1)、(2)以外の産地も含めた取組を推進する全国単位の団体等）

(ウ)戦略的輸出ターゲット国

戦略的輸出事業者から提出された「重点的に輸出を拡大する国・地域」は以下のとおり。
中国、台湾、香港、マカオ、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、モンゴル、米国、カナダ、EU、スイス、オーストラリア、ロシア、中東

※輸出事業者の目標の積み上げにより、重複して計上される場合があります。

○ 今後の取組方針

海外市場における日本産米の需要をより一層喚起し、輸出拡大に繋げるため、平成29年度補正予算案に盛り込まれた輸出促進予算等を活用して戦略的輸出事業者による海外市場開拓を強力に推進します。

また、海外需要に応じた輸出用米の生産拡大を進めるため、戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地の結びつけ・マッチングを進めるとともに、各県・地域が水田フル活用ビジョンの検討を進める中で、戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地との間で輸出用米の具体的な生産数量や品種等の調整が進むよう、関係者が一体となって輸出用米生産の取組を推進します。

なお、引き続き、本プロジェクトに参加する輸出事業者及び産地の団体・法人を募集します。本プロジェクトへの参加を希望する輸出事業者及び産地の団体・法人は、下記URLの様式に必要な事項を記載の上、以下の宛先に郵送、FAX又は電子メールにて提出してください。

「コメ輸出拡大プラン(輸出事業者用)」の提出先

100-8950
東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省政策統括官付
農産企画課企画班 近藤、林、福江
E-mail:kome_yusyutu@maff.go.jp
TEL:03-6738-8964、FAX:03-6738-8976

「コメ輸出産地取組方針(産地の団体・法人用)」の提出先

〒100-8950
東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省政策統括官付
穀物課稲生産班 美保、谷口、平岡、安部
E-mail:kome_santi@maff.go.jp
TEL:03-6744-2108、FAX:03-6744-2523

農林水産省ホームページで「米の輸出について」のページを開設しました！「米の輸出について」のページには、本プロジェクトの情報やコメ輸出に関する様々な情報を掲載しています。

また同ページには、コメの輸出について分かりやすく説明した動画を公開しています。

「農林水産省ホームページ」トップページの「キーワード」にある「米の輸出」からご覧頂けます！

(農新水産省ホームページ「米の輸出について」URL)

http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_yusyutu/kome_yusyutu.html

VI 消費動向

(1) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

- 米穀機構が公表している「米の消費動向」（平成30年1月）によると、1人1カ月当たりの精米消費量は、前年同月との比較で▲0.2%。
- このうち、家庭内での消費量は前年同月との比較で+3.7%、中・外食は同▲8.9%。

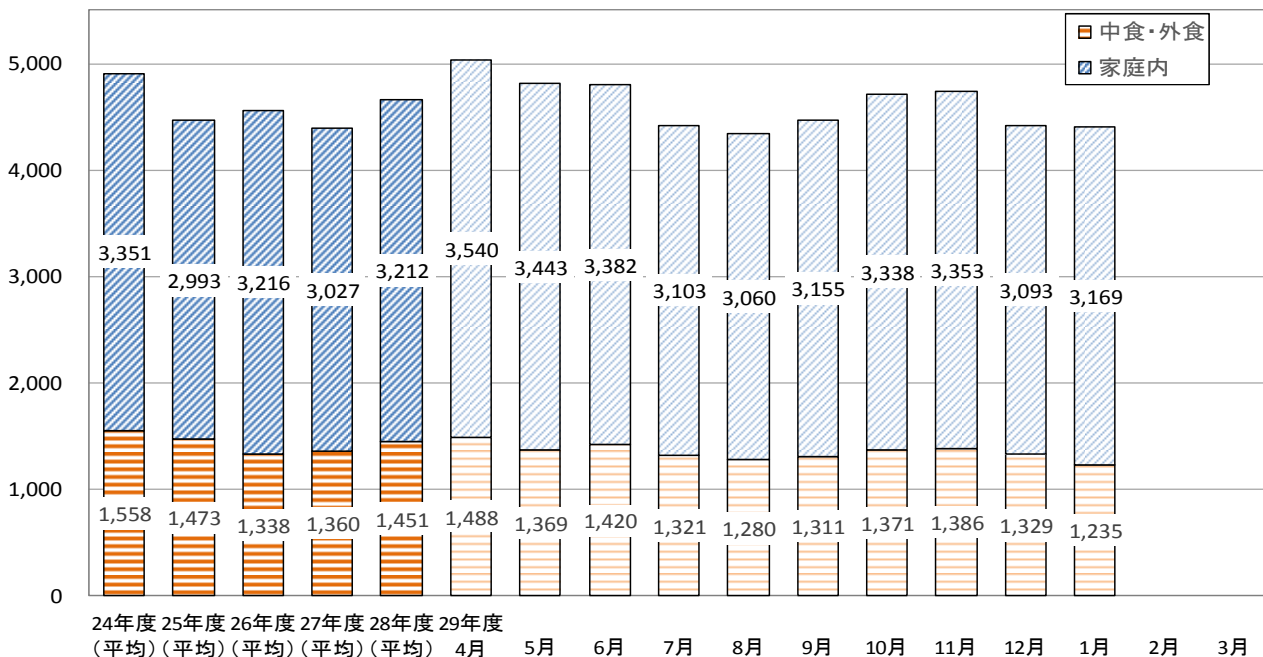
① 1人1カ月当たり精米消費量の推移

(精米g/人、%)

		精米消費量					内訳(比率)					前年同月比(比率)				
		合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食	
			中食	外食	中食	外食		中食	外食	中食	外食					
24年度	-	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲4.4	▲3.1	▲6.1
25年度	-	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲9.0	▲10.7	▲5.5	▲6.0	▲4.7
26年度	-	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲9.2	▲10.4	▲7.5
27年度	-	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲3.7	▲5.9	1.6	4.6	▲2.2
28年度	-	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4月	5,028	3,540	1,488	908	580	100.0	70.4	29.6	18.1	11.5	0.5	3.4	▲5.9	▲4.2	▲8.4
	5月	4,812	3,443	1,369	833	536	100.0	71.6	28.4	17.3	11.1	▲1.2	3.0	▲10.1	▲9.0	▲11.8
	6月	4,802	3,382	1,420	871	549	100.0	70.4	29.6	18.1	11.4	▲0.1	3.6	▲7.7	▲5.3	▲11.2
	7月	4,424	3,103	1,321	751	570	100.0	70.1	29.9	17.0	12.9	▲1.9	2.6	▲11.2	▲13.9	▲7.3
	8月	4,340	3,060	1,280	731	549	100.0	70.5	29.5	16.8	12.6	▲4.4	▲1.5	▲10.8	▲12.6	▲8.5
	9月	4,466	3,155	1,311	740	571	100.0	70.6	29.4	16.6	12.8	▲3.1	▲0.7	▲8.4	▲12.0	▲3.2
	10月	4,709	3,338	1,371	782	589	100.0	70.9	29.1	16.6	12.5	1.1	3.5	▲4.5	▲6.2	▲2.0
	11月	4,739	3,353	1,386	801	585	100.0	70.8	29.2	16.9	12.3	2.1	3.4	▲1.1	▲1.0	▲1.2
	12月	4,422	3,093	1,329	750	579	100.0	69.9	30.1	17.0	13.1	▲2.1	▲0.8	▲4.9	▲7.7	▲0.9
	1月	4,404	3,169	1,235	700	535	100.0	72.0	28.0	15.9	12.1	▲0.2	3.7	▲8.9	▲9.8	▲7.8

1人1カ月当たり精米消費量の推移(グラフ)

(精米g/人)



出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成30年1月分の有効調査世帯数は2,095世帯。

2 調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

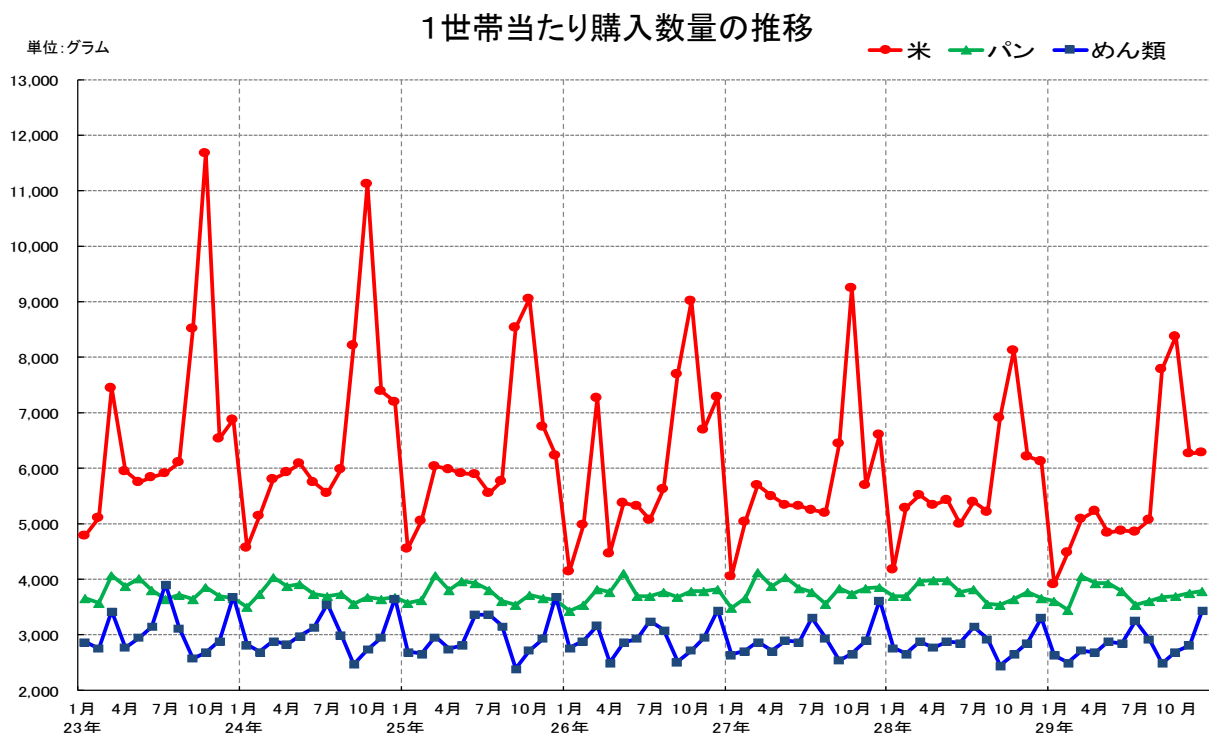
3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

(2) 購入数量の推移（家計調査）

- 総務省が公表している家計調査によると、平成29年12月の米の購入数量は、前年同月との比較で+2.6%の6.3kg、パンについては+3.4%の3.8kg、めん類については+3.8%の3.4kg。



(表) 1世帯当たり購入数量の推移

(単位：グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,010	97.5%	45,443	99.7%	37,000	101.1%
平成23年	80,580	97.1%	45,255	99.6%	36,931	99.8%
平成24年	78,780	97.8%	44,808	99.0%	35,819	97.0%
平成25年	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
平成26年	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
平成27年	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
平成28年	68,740	98.9%	45,099	98.7%	34,192	98.4%
平成29年	67,270	97.9%	44,840	99.4%	33,934	99.2%
平成29年1月	3,920	93.8%	3,607	97.7%	2,637	95.2%
2月	4,480	84.8%	3,457	93.6%	2,496	93.8%
3月	5,090	92.2%	4,056	102.4%	2,725	94.4%
4月	5,230	97.9%	3,929	98.8%	2,685	96.7%
5月	4,840	89.1%	3,925	98.3%	2,882	99.9%
6月	4,880	97.6%	3,790	100.6%	2,846	99.5%
7月	4,860	90.2%	3,548	92.6%	3,254	103.2%
8月	5,070	97.3%	3,609	101.4%	2,918	99.8%
9月	7,780	112.6%	3,674	103.9%	2,490	101.9%
10月	8,380	103.2%	3,698	101.2%	2,695	101.6%
11月	6,260	100.8%	3,748	99.2%	2,816	98.6%
12月	6,280	102.6%	3,788	103.4%	3,434	103.8%

資料： 総務省「家計調査」

注： 1 二人以上の世帯の数値である。

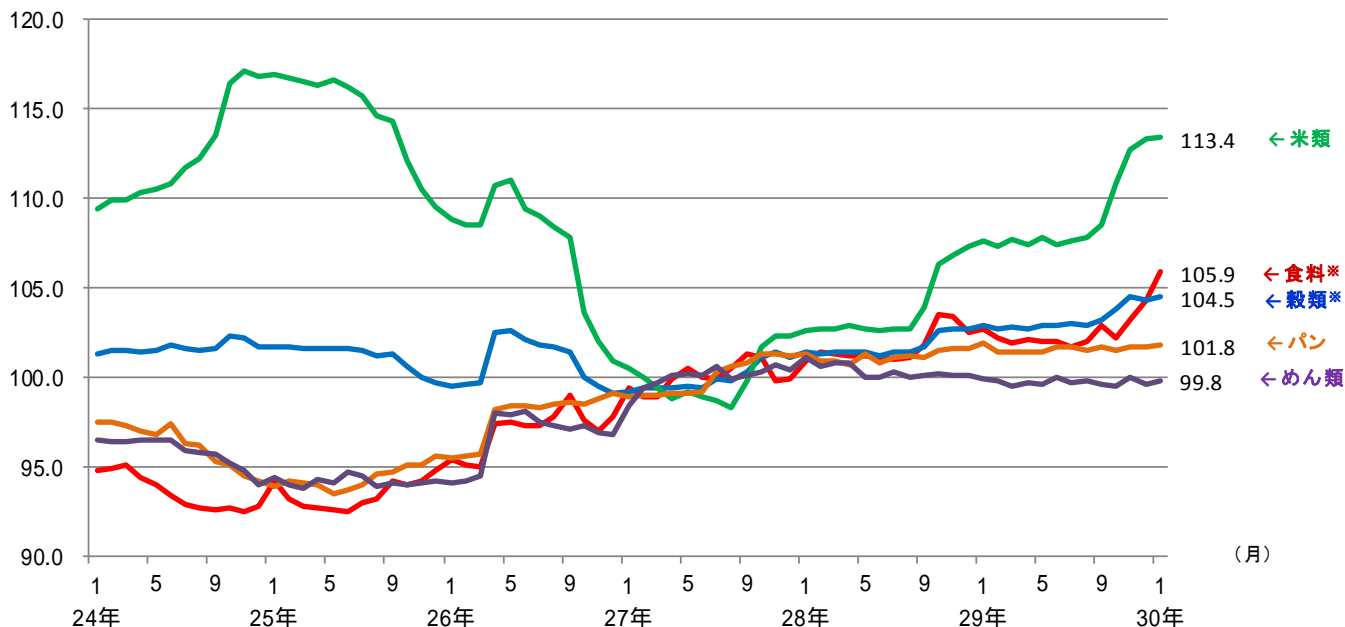
2 平成21年から平成29年については、年間の購入数量を示す。

3 米は精米ベースである。

(3) 消費者物価指数（27年基準）の推移

- ・ 総務省が公表している消費者物価指数によると、平成30年1月の米類の指数は、先月との比較では+0.1の113.4ポイント。
- ・ なお、前年同月との比較では+5.4ポイント。

消費者物価指数の推移



- 注：1 図中の実線は、平成27年の平均価格を100とした数値となる。
 2 図中の数値は、平成30年1月の消費者物価指数となる。
 3 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

(表) 消費者物価指数の推移（対前年同月比）

(平成27年=100、指数)

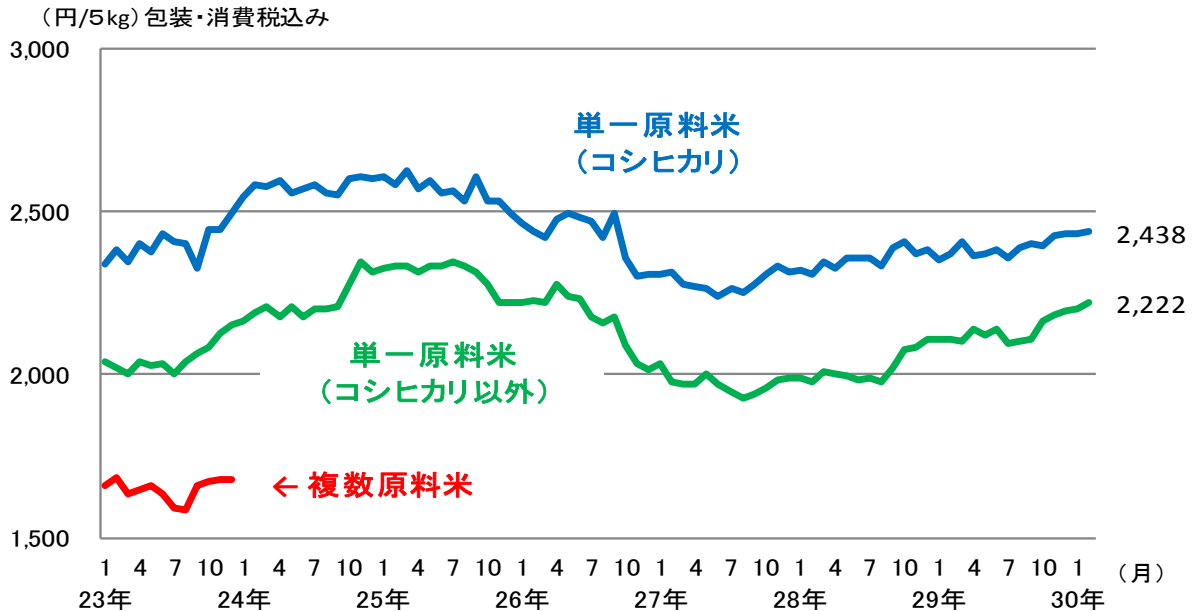
	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	
平成21年	94.1	0.2%	103.7	0.8%	111.1	0.4%	111.6	0.2%	100.1	0.3%	98.8	1.7%
平成22年	93.9	▲0.3%	100.4	▲3.2%	107.2	▲3.5%	107.7	▲3.5%	96.2	▲3.9%	97.0	▲1.9%
平成23年	93.5	▲0.4%	98.8	▲1.6%	103.0	▲4.0%	103.4	▲4.0%	96.4	0.2%	96.2	▲0.8%
平成24年	93.6	0.1%	101.7	3.0%	112.4	9.2%	113.3	9.6%	96.3	▲0.1%	95.8	▲0.4%
平成25年	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%
平成26年	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%
平成27年	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%
平成28年	101.7	1.7%	101.7	1.7%	103.8	3.8%	104.0	4.0%	101.2	1.2%	100.3	0.3%
平成29年	102.4	0.7%	103.2	1.5%	108.8	4.8%	109.2	5.1%	101.6	0.4%	99.7	▲0.6%
平成30年1月	105.9	3.2%	104.5	1.6%	113.4	5.4%	114.1	5.7%	101.8	0.0%	99.8	▲0.2%

- 資料： 総務省「消費者物価指数」（平成27年基準）
 注：1 表中の数値は、平成27年の平均価格を100として指数化したものである。
 2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
 3 穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
 4 平成21年から平成29年のデータは年平均、平成30年1月は月次データを用いている。

(4) 小売物価統計の推移

- 総務省が公表している小売物価統計によると、平成30年2月のうるち米の小売価格（5kg当たり）は、単一原料米（コシヒカリ）で、前年同月より+2.9%の2,438円。
- 単一原料米（コシヒカリ以外）は、前年同月より+5.2%の2,222円。

(図) 小売物価統計の推移



(表) 小売物価統計の推移

(単位：円/5kg)

	うるち米				
	単一原料米 (コシヒカリ)	対前年 (同月)比	単一原料米 (コシヒカリ以外)	対前年 (同月)比	複数原料米
平成20年	2,610	▲2.2%	2,270	▲0.8%	1,832
平成21年	2,531	▲3.0%	2,201	▲3.0%	1,812
平成22年	2,462	▲2.7%	2,136	▲3.0%	1,739
平成23年	2,399	▲2.5%	2,053	▲3.9%	1,649
平成24年	2,577	7.4%	2,223	8.3%	-
平成25年	2,567	▲0.4%	2,307	3.8%	-
平成26年	2,428	▲5.4%	2,173	▲5.8%	-
平成27年	2,285	▲5.9%	1,973	▲9.2%	-
平成28年	2,355	3.1%	2,019	2.3%	-
平成29年1月	2,355	1.6%	2,111	6.1%	-
2月	2,370	2.6%	2,112	6.7%	-
3月	2,406	2.7%	2,100	4.6%	-
4月	2,362	1.4%	2,137	6.6%	-
5月	2,371	0.6%	2,124	6.5%	-
6月	2,385	1.2%	2,143	8.0%	-
7月	2,359	0.0%	2,098	5.4%	-
8月	2,391	2.5%	2,101	6.1%	-
9月	2,403	0.5%	2,108	4.4%	-
10月	2,395	▲0.7%	2,168	4.3%	-
11月	2,429	2.4%	2,185	4.7%	-
12月	2,434	2.1%	2,197	4.3%	-
平成30年1月	2,433	3.3%	2,204	4.4%	-
2月	2,438	2.9%	2,222	5.2%	-

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

2：特売を除いた価格である。

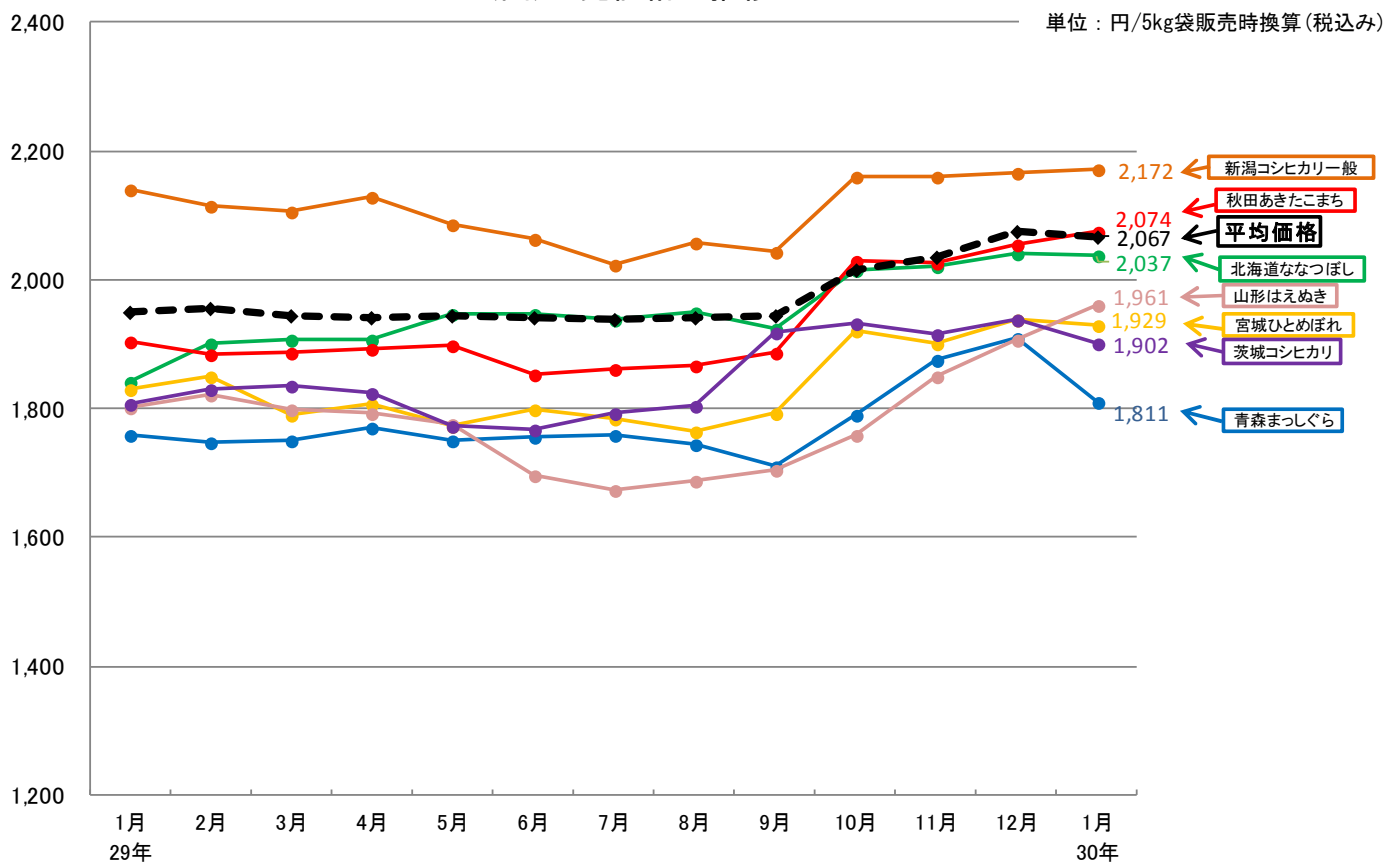
3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

(5) 小売価格の推移 (POSデータ)

平成30年1月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、前月より▲9円(▲0.4%)、前年同月より+118円(+6.1%)の2,067円。

(図)小売価格の推移



(表)小売価格の推移

単位：円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄							全POS取引 平均価格
	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	
29年1月	1,843	1,759	1,830	1,905	1,802	1,808	2,141	1,949
2月	1,902	1,749	1,852	1,885	1,821	1,831	2,114	1,957
3月	1,907	1,751	1,792	1,887	1,798	1,835	2,105	1,945
4月	1,908	1,771	1,807	1,894	1,793	1,824	2,128	1,941
5月	1,948	1,750	1,775	1,898	1,776	1,773	2,086	1,944
6月	1,948	1,755	1,799	1,853	1,698	1,767	2,062	1,941
7月	1,939	1,759	1,784	1,862	1,673	1,795	2,023	1,937
8月	1,950	1,745	1,765	1,868	1,687	1,806	2,057	1,942
9月	1,925	1,710	1,794	1,886	1,705	1,918	2,045	1,945
10月	2,017	1,791	1,923	2,031	1,758	1,934	2,161	2,015
11月	2,021	1,875	1,900	2,026	1,850	1,917	2,161	2,034
12月	2,042	1,911	1,938	2,055	1,907	1,939	2,165	2,076
30年1月	2,037	1,811	1,929	2,074	1,961	1,902	2,172	2,067
対前月比	▲0.2%	▲5.2%	▲0.5%	0.9%	2.8%	▲1.9%	0.3%	▲0.4%
対前年同月比	10.5%	3.0%	5.4%	8.9%	8.8%	5.2%	1.4%	6.1%

資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注：1 (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,020店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

5 価格に含む消費税は8%である。

Ⅶ MA米（一般・SBS）の動向

（１） MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	米 国	タイ	中 国	オーストラリア	その他	合 計	輸入方式別	
							うち一般輸入	うちSBS輸入※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	-	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	-	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	-	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度 (2月末現在)	285	210	56	58	2	611	511	100

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」

※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注： 1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

(2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位：実トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成29年4～6月分	30,226	平成29年4～7月分	3,071
4月分	405	平成29年8～11月分	2,704
5月分	678	平成29年12～平成30年3月分	
6月分	1,000		
7～9月分	30,935		
7月分	206		
8月分	602		
9月分	1,073		
10～12月分	35,130		
10月分	478		
11月分	719		
12月分	914		
平成30年1～3月分			
1月分			
2月分			
3月分			
小計	102,366	小計	5,775
合計	108,141		

資料：農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

(3) SBS輸入米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位：実トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 (平成29年9月27日)	一般米	15,150	496	140		900		5,814		22,500
	砕精米	1,998	100	300		100				2,498
第2回 (平成29年11月29日)	一般米	12,586	830	768		40		8,276		22,500
	砕精米	1,600	200	292	108	300				2,500
第3回 (平成29年12月20日)	一般米	11,265	1,160	2,206	90	340		7,439		22,500
	砕精米	1,888	100	260	252					2,500
第4回 (平成30年2月7日)	一般米	2,380		292		80		3,292		6,044
	砕精米	2,880	400	160		260		360		4,060
第5回 (平成30年2月20日)	一般米	4,460	490	100		220		5,049		10,319
	砕精米	600	200	1,000				2,779		4,579
合計	一般米	45,841	2,976	3,506	90	1,580	0	29,870	0	83,863
	砕精米	8,966	1,000	2,012	360	660	0	3,139	0	16,137
平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450
平成24年度計 (参考)	一般米	34,076	2,290	1,536	72	27,640	0	24,386	0	90,000
	砕精米	4,032	576	2,898	364	524	0	1,606	0	10,000
平成25年度計 (参考)	一般米	14,686	4,396	3,346	144	174	0	17,993	0	40,739
	砕精米	576	388	7,375	308	540	0	10,913	0	20,100
平成26年度計 (参考)	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	1,326	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	100	0	4,316
平成27年度計 (参考)	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	2,244	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	150	0	16,452
平成28年度計 (参考)	一般米	27,318	3,600	3,487	108	2,156	0	8,097	0	44,766
	砕精米	24,820	700	2,300	388	240	0	100	0	28,548

資料：農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成23～29年度

VIII その他

(1) 水稲うるち玄米の農産物検査結果

- 平成29年産水稲うるち玄米の平成30年1月31日現在の検査数量は、416万トン。
- 1等米比率は、82.3%。

① 検査数量の推移（累計）

単位：千トン

年産別	当年						翌年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月
24	13	223	1,732	3,750	4,156	4,313	4,411	4,532	4,657	5,041
25	23	265	1,869	3,806	4,248	4,433	4,537	4,661	4,793	5,206
26	12	229	1,789	3,785	4,276	4,470	4,595	4,720	4,880	5,275
27	11	220	1,537	3,506	3,964	4,149	4,252	4,385	4,518	4,869
28	18	231	1,656	3,564	4,036	4,212	4,319	4,451	4,585	4,929
参考・前年比	161%	105%	108%	102%	102%	102%	102%	101%	101%	101%
29	13	244	1,463	3,268	3,851	4,062	4,163			
参考・前年比	72%	105%	88%	92%	95%	96%	96%			

注：1 各月末時点の検査数量である。

2 生産年の7月から翌年3月までは速報値、翌年10月は確定値である。

② 検査数量及び等級比率（年産別）

単位：トン、%

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,041,489	3,953,978	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25	5,205,717	4,112,147	905,866	96,289	91,415	79.0	17.4	1.8	1.8
26	5,274,634	4,291,267	806,063	70,348	106,956	81.4	15.3	1.3	2.0
27	4,868,582	4,016,682	687,771	82,654	81,475	82.5	14.1	1.7	1.7
28	4,928,745	4,110,565	668,746	67,438	81,995	83.4	13.6	1.4	1.7
29(注3)	4,162,751	3,426,221	612,687	66,406	57,436	82.3	14.7	1.6	1.4

資料：農林水産省とりまとめ

注：1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 28年産米までは、生産年の翌年10月31日現在（確定値）。

3 29年産米については、平成30年1月31日現在（速報値）。

(2) 平成29年産水稻の収穫量

(平成29年12月5日公表)

- ・ 主食用作付面積は137万ha（前年産差 1.1万ha）の見込み
- ・ 10a当たり収量は534kg（前年産差 10kg）の見込み
- ・ 主食用の収穫量は730.6万ト（前年産差 19万ト）の見込み

調査結果の概要

- 1 平成29年産水稻の作付面積（子実用）は146.5万haとなり、前年産に比べ1.3万ha減少した。うち主食用作付面積は137万haとなり、前年産に比べ1.1万ha減少した。
- 2 平成29年産水稻の全国の10a当たり収量は534kgとなり、作柄の良かった前年産に比べ10kgの減少が見込まれる。
また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は100となる見込み。
- 3 以上の結果、平成29年産水稻の収穫量（子実用）は782.2万トとなり、前年産に比べ22万トンの減少が見込まれる。このうち、主食用の収穫量は730.6万トとなり、前年産に比べ19万トンの減少が見込まれる。

平成29年産水稻の作付面積及び収穫量

全 国 農 業 地 域	水 稻							
	作付面積 (子実用) ①	10 a 当たり収量		収穫量 (子実用)		参 考		
		実数 ②	前年産 との比較	実数 ③=①×②	前年産 との比較	主食用 作付面積 ④	収穫量 (主食用) ⑤=④×②	作況指数
			対差		対差			
ha	kg	kg	t	t	ha	t		
全 国	1,465,000	534	△ 10	7,822,000	△ 220,000	1,370,000	7,306,000	100
北 海 道	103,900	560	9	581,800	3,200	98,600	552,200	103
東 北	374,800	564	△ 12	2,115,000	△ 50,000	334,300	1,882,000	99
北 陸	204,100	529	△ 38	1,079,000	△ 86,000	180,100	952,100	98
関 東・東 山	268,500	533	△ 9	1,431,000	△ 34,000	257,400	1,372,000	99
東 海	92,400	498	△ 16	460,100	△ 20,200	90,500	450,000	99
近 畿	103,200	510	△ 6	526,600	△ 12,100	99,400	507,000	100
中 国	104,300	530	4	552,400	△ 4,900	101,200	536,100	103
四 国	49,900	486	△ 6	242,400	△ 8,100	49,500	241,000	101
九 州	163,100	510	3	831,900	△ 7,800	158,700	811,400	101
沖 縄	727	301	8	2,190	△ 110	727	2,190	97

注：1 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 収穫量(子実用)及び収穫量(主食用)については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

3 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅(北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

4 沖縄県については、本公表時点で一部収穫を終えていない地域があり、収穫の状況によっては今後作柄が変動することがある(以下同じ。)

水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a当たり収量及び収穫量(子実用)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

ふるい目幅別重量分布状況の推移

単位：%

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
平成24年産	100.0	0.6	1.0	1.5	2.2	13.0	81.7
25	100.0	0.8	1.3	1.9	2.7	14.5	78.8
26	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	14.7	78.4
27	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	15.3	77.8
28	100.0	0.7	1.2	1.7	2.4	14.0	80.0
29(概数値)	100.0	0.9	1.5	2.1	2.9	16.1	76.5
平均 値	100.0	0.7	1.3	1.8	2.5	14.3	79.4
対平均差(ポイント)	0.0	0.2	0.2	0.3	0.4	1.8	△ 2.9

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる(以下同じ。)

ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量(子実用)の推移

年 産	単 位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上	
		平成24年産	10a 当たり収量	kg	540	537	531	523
	収穫量(子実用)	t	8,519,000	8,468,000	8,383,000	8,255,000	8,067,000	6,960,000
25	10a 当たり収量	kg	539	535	528	517	503	425
	収穫量(子実用)	t	8,603,000	8,534,000	8,422,000	8,259,000	8,027,000	6,779,000
26	10a 当たり収量	kg	536	532	524	513	499	420
	収穫量(子実用)	t	8,435,000	8,368,000	8,249,000	8,081,000	7,853,000	6,613,000
27	10a 当たり収量	kg	531	527	519	509	494	413
	収穫量(子実用)	t	7,986,000	7,922,000	7,810,000	7,651,000	7,435,000	6,213,000
28	10a 当たり収量	kg	544	540	534	524	511	435
	収穫量(子実用)	t	8,042,000	7,986,000	7,889,000	7,752,000	7,559,000	6,434,000
29 (概数値)	10a 当たり収量	kg	534	529	521	510	494	409
	収穫量(子実用)	t	7,822,000	7,752,000	7,634,000	7,470,000	7,243,000	5,984,000
	対前年比	%	97	97	97	96	96	93

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、全国の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、全国の予想収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

・ [都道府県別](#)の平成29年産水稲の作付面積及び収穫量については、次頁に掲載。

・ 「平成29年産水陸稲の収穫量」公表資料は下記アドレスにてご覧いただけます。

http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#suitou

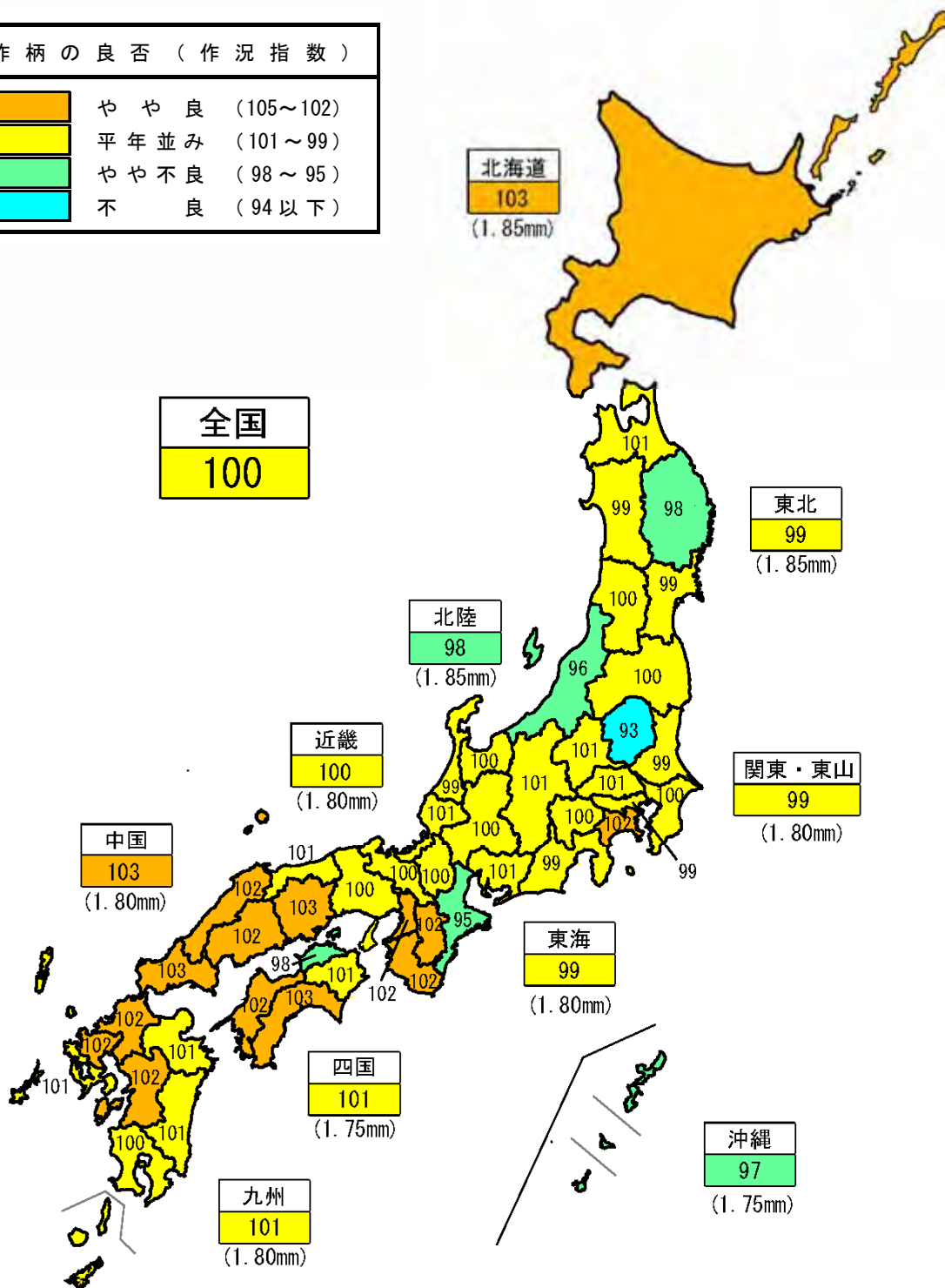
平成29年産水稻の作付面積及び収穫量

全 国 ・ 都 道 府 県	作付面積 (子実用) ①	10 a 当たり 収 量 ②	(参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別			収 穫 量 (子実用) ⑥=①×②	参 考		
			10 a 当たり 収 量 ③	10 a 当たり 平年収量 ④	作 況 指 数 ⑤=③/④		主食用 作付面積 ⑦	収 穫 量 (主 実 用) ⑧=⑦×②	
			kg	kg					
全 国 (1)	1,465,000	534	517	518	100	7,822,000	1,370,000	7,306,000	(1)
北 海 道 (2)	103,900	560	546	530	103	581,800	98,600	552,200	(2)
青 森 (3)	43,400	596	576	573	101	258,700	38,000	226,500	(3)
岩 手 (4)	49,800	533	511	522	98	265,400	47,000	250,500	(4)
宮 城 (5)	66,300	535	512	519	99	354,700	63,500	339,700	(5)
秋 田 (6)	86,900	574	550	556	99	498,800	69,500	398,900	(6)
山 形 (7)	64,500	598	578	580	100	385,700	56,400	337,300	(7)
福 島 (8)	64,000	549	529	527	100	351,400	59,900	328,900	(8)
茨 城 (9)	68,100	525	510	515	99	357,500	66,400	348,600	(9)
栃 木 (10)	57,600	510	492	529	93	293,800	53,600	273,400	(10)
群 馬 (11)	15,500	499	483	479	101	77,300	13,900	69,400	(11)
埼 玉 (12)	31,600	494	478	475	101	156,100	30,700	151,700	(12)
千 葉 (13)	55,200	543	529	528	100	299,700	53,300	289,400	(13)
東 京 (14)	141	411	400	404	99	580	141	580	(14)
神 奈 川 (15)	3,090	509	488	478	102	15,700	3,090	15,700	(15)
新 潟 (16)	116,300	526	505	527	96	611,700	100,300	527,600	(16)
富 山 (17)	37,600	546	528	527	100	205,300	33,300	181,800	(17)
石 川 (18)	25,300	519	504	507	99	131,300	23,200	120,400	(18)
福 井 (19)	24,900	525	503	500	101	130,700	23,300	122,300	(19)
山 梨 (20)	4,960	549	531	533	100	27,200	4,880	26,800	(20)
長 野 (21)	32,300	629	616	607	101	203,200	31,300	196,900	(21)
岐 阜 (22)	21,900	488	479	478	100	106,900	21,500	104,900	(22)
静 岡 (23)	15,700	515	506	513	99	80,900	15,600	80,300	(23)
愛 知 (24)	27,500	512	503	499	101	140,800	26,600	136,200	(24)
三 重 (25)	27,400	480	466	489	95	131,500	26,800	128,600	(25)
滋 賀 (26)	31,700	517	504	506	100	163,900	30,000	155,100	(26)
京 都 (27)	14,700	510	501	502	100	75,000	14,100	71,900	(27)
大 阪 (28)	5,150	506	490	480	102	26,100	5,150	26,100	(28)
兵 庫 (29)	36,600	501	489	489	100	183,400	35,100	175,900	(29)
奈 良 (30)	8,610	521	508	500	102	44,900	8,580	44,700	(30)
和 歌 山 (31)	6,560	507	496	484	102	33,300	6,560	33,300	(31)
鳥 取 (32)	12,600	520	510	504	101	65,500	12,400	64,500	(32)
島 根 (33)	17,500	519	510	500	102	90,800	17,200	89,300	(33)
岡 山 (34)	30,100	544	531	514	103	163,700	29,100	158,300	(34)
広 島 (35)	23,700	534	524	513	102	126,600	23,100	123,400	(35)
山 口 (36)	20,300	521	508	492	103	105,800	19,300	100,600	(36)
徳 島 (37)	11,500	480	476	469	101	55,200	11,300	54,200	(37)
早期栽培 (38)	4,450	481	477	459	104	21,400	(38)
普通栽培 (39)	7,080	479	475	475	100	33,900	(39)
香 川 (40)	12,800	484	480	490	98	62,000	12,800	62,000	(40)
媛 愛 (41)	13,900	508	503	492	102	70,600	13,900	70,600	(41)
高 知 (42)	11,600	471	467	454	103	54,600	11,500	54,200	(42)
早期栽培 (43)	6,500	498	495	477	104	32,400	(43)
普通栽培 (44)	5,060	435	431	426	101	22,000	(44)
福 岡 (45)	35,700	509	488	477	102	181,700	35,100	178,700	(45)
佐 賀 (46)	24,600	531	511	503	102	130,600	24,400	129,600	(46)
長 崎 (47)	11,600	495	469	463	101	57,400	11,600	57,400	(47)
熊 本 (48)	33,300	527	508	497	102	175,500	32,200	169,700	(48)
大 分 (49)	21,000	506	483	480	101	106,300	20,900	105,800	(49)
宮 崎 (50)	16,300	499	485	482	101	81,300	15,000	74,900	(50)
早期栽培 (51)	6,460	494	486	470	103	31,900	(51)
普通栽培 (52)	9,870	503	485	490	99	49,600	(52)
鹿 児 島 (53)	20,400	486	468	469	100	99,100	19,600	95,300	(53)
早期栽培 (54)	4,460	472	464	434	107	21,100	(54)
普通栽培 (55)	16,000	490	468	478	98	78,400	(55)
沖 縄 (56)	727	301	297	305	97	2,190	727	2,190	(56)
第一期稲 (57)	537	354	350	363	96	1,900	(57)
第二期稲 (58)	190	152	147	160	92	289	(58)

- 注: 1 作付面積(子実用)とは、青刈り面積(飼料用米等を含む。)を除いた面積である。
 2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積を除いた面積である。
 3 全国の収穫量(子実用)及び収穫量(主食用)については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
 4 (参考)の農家等が使用しているふるい目幅で選別された③10a当たり収量、④10a当たり平年収量及び⑤作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅(北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
 5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付面積は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

全国農業地域・都道府県別作況指数 【農家等が使用しているふるい目幅ベース】

作柄の良否（作況指数）	
	やや良（105～102）
	平年並み（101～99）
	やや不良（98～95）
	不良（94以下）



注：1 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85 mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80 mm、四国及び沖縄は1.75 mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

これまで、本資料に掲載していた以下の情報については、別冊「資料編」に掲載いたしました。

(別冊)「資料編」の目次

I	契約・在庫情報	
(1)	平成27・28年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成28年7月末から29年6月末) (速報)	1
(2)	産地別事前契約数量 (累計、うるち米、平成26・27年産)	9
(3)	平成28年産米の産地別契約・販売状況 (累計、うるち米)	10
II	米の価格情報	
(1)	米の相対取引価格の推移 (通年平均価格)	18
(2)	業者間取引の状況	21
	① 日本コメ市場 (随時取引の結果)	
	② 日本コメ市場・クリスタルライス (取引会の結果)	
	③ (株)加工用米取引センターの取引結果	
	④ 米の現物市場の状況	
III	主食用米以外 (輸出を含む)	
(1)	加工用米及び新規需要米の取組状況等	24
	① 加工用米の生産量	
	② 新規需要米の用途別認定状況	
	③ 加工用米・新規需要米等の取組状況 (平成29年産、都道府県別)	
(2)	飼料用米のマッチングの取組状況、配合飼料メーカーへの飼料用の供給等	26
(3)	政府備蓄米の運営 備蓄米の買入入札の結果 (落札実績) (平成23~29年産)	27
(4)	商業用の米の輸出量及び金額の推移	28
(5)	2017年の主な増加要因 (輸出業者等からのヒアリング結果による)	29
(6)	米菓の輸出量及び金額の推移	30
(7)	日本酒 (清酒) の輸出量及び金額の推移	31
IV	消費動向	
(1)	米の消費動向 (米穀機構による調査)	32
(2)	小売価格の推移 (POSデータ、主な銘柄)	35
V	その他	
(1)	米取引関係者の判断 (米穀機構による調査、平成30年2月分)	36
(2)	平成28年産水陸稲の収穫量	41
(3)	水稲作付面積及び収穫量等の年次別推移 (全国)	45
(4)	水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、 10a 当たり収量及び収穫量 (子実用) の年次別推移 (全国)	45
(5)	年産・都道府県別主食用米の作付面積及び収穫量等の推移	48
(6)	麦・大豆の需要情報	50
	① 30年産麦の産地別銘柄別入札結果	
	② 29年産大豆の産地別銘柄別入札結果	
(7)	野菜等の需給情報	56
(8)	米の安定取引研究会報告書の概要	60

米に関するマンスリーレポート (本編・資料編) は、農林水産省のホームページからもご覧いただけます。

(URL) <http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

また、「米に関するマンスリーレポートの活用について」を農林水産省のホームページを掲載いたしましたので以下URLを参照ください。

(URL) http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/attach/pdf/kome_seisaku_kaikaku-34.pdf

「お米の輸出動画」 配信中！

お米の新しい市場を開拓！ 「日本のお米の輸出」について

お米の輸出の可能性や農水省の輸出促進の取組について解説した動画を配信中！

「どうして今、お米を輸出するの？」「今、生産者や事業者の人はどんなことに取り組んでいるの？」という疑問にお答えします！



Youtube・農林水産省ホームページで公開中です！
(詳しくは裏面をご覧ください)

以下のQRコードからもご覧頂けます

1分ダイジェスト版はこちら→



<https://youtu.be/Cp6xPSbXJFQ>

本編(15分)はこちら→



<https://youtu.be/kSEcJhVpgac>

本動画は、お米の輸出の概況や輸出拡大に向けた国の取組について、農林水産省の柄澤政策統括官が解説します。

また、生産者や事業者の方に、海外向けのお米の生産・販売における具体的な取組内容をご紹介します！

本編の内容について1分程度でまとめたダイジェスト版も公開しておりますので、ぜひご覧下さい！

Youtubeから見る

Youtubeの検索バナーで「お米の輸出」と検索！

お米の輸出 × 

(URLはこちら)

本編：<https://www.youtube.com/watch?v=Cp6xPSbXJFQ>

ダイジェスト版：<https://www.youtube.com/watch?v=kSEcJhVpgac>

農林水産省HPから見る

トップページの「キーワード」にある「米の輸出」をクリック！

(ホーム > 政策統括官 > 米(稲)・麦・大豆 > 米の輸出について)



The screenshot shows the homepage of the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) of Japan. At the top, there are navigation tabs for 'English', 'Mobile Site', and 'Site Map'. Below that are menu items for 'Member News', 'Policy Information', 'Statistics', 'Inquiries', and 'About MAFF'. A search bar is present with the text 'キーワードから探す' (Search by keyword). Below the search bar, there is a '注目情報' (Featured Information) section with several news items. A callout box points to the search results for the keyword '米の輸出' (Rice Export), which is highlighted with a red dashed circle and a hand cursor icon. The search results list various related topics such as '農業競争力強化支援法' (Agriculture Competitiveness Strengthening Act), '米政策改革' (Rice Policy Reform), and '米の輸出' (Rice Export).

キーワードの「米の輸出」をクリックすると「米の輸出について」のページに移動します！

URL：http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_yusyutu/kome_yusyutu.html

お問合せ先：農林水産省政策統括官付農産企画課
(TEL：03-6738-8964)